

静薬學友會報

静岡県立大学薬学部同窓会報
2015年（平成27年）No.82号



「長崎グラバー邸」（油彩・F10号）堀川 武 画（昭和43年卒）

特集 研究室は今

わかくさ薬局グループ

「良き仕事は良き社員から、
良き社員は良き会社から」

これを信念に、
わかくさ薬局グループでは社員教育に力を注いでいます。

それは職場だけにとどまらず、経験を活かし、己を高め、
自己研鑽が楽しくなるような場の提供をしています。

いつでも、高きを仰ぐ気持ちを忘れずに。
日々を過ごすことに誇りを持ち、実践できるように。

わかくさ薬局グループ
代表 高橋 千恵子

つづきはWebで。
<http://www.stcy.co.jp>



薬剤師募集中！！

県大卒業生も多数活躍中

1980年 静岡メディسنは、
静岡市薬剤師会の会員薬局を
サポートすることを目的に設立されました。
以来30数年に渡り静岡市の医薬分業の先駆けとして社会に貢献。
現在は静岡市内に8店舗を展開、
在宅医療を通して地域に密着した保険薬局を目指しています。
静岡メディسنでは新たな取り組みとして
・大学で学んだフィジカルアセスメント技術を継続的に向上させる目的として
専用シミュレータモデル” Physico”（フィジコ）の導入
・地域のかかりつけ薬局として患者様の利便性を考え、
処方せん送信サービス **薬局オリジナルアプリ（スマホな薬局）**を東海地区で初導入！！
・医療機関との連携を強化し、セルフメディケーションを促進するため、
自己簡易血液検査（HbA1c・脂質）が可能な**検体測定室**を設置（長田店）等
様々な取り組みをしております。
患者様だけでなく薬剤師からも選ばれる保険薬局を目指しています。

支えあう
気持ち。



安心と実績でみなさまの健康をささえる

株式会社 静岡メディスン

www.e-medicine.co.jp

会社見学も随時受付しております。
お気軽にお問い合わせください。



当店オリジナルキャラクター

静岡メディスン 検索

みなさまに愛されて30年・静岡市内に8店舗

本社／〒422-8035 静岡市駿河区宮竹1-4-5 TEL 054-237-5316（代表）

静薬学友会報

2015 No.82

目次

薬学部長就任挨拶	賀川 義直	2
薬学研究院院長就任挨拶	奥 直 人	3
特集『研究室は今』		
生化学分野	衛生分子毒性学分野	4
薬理学分野	医薬生命化学分野	5
科学英語分野		6
生体機能分子分析学分野	医薬品製造化学分野	7
生薬学分野	薬物動態学分野	8
創剤科学分野	分子病態学分野	9
臨床薬剤学分野	創薬探索センター	10
臨床薬効解析学分野	医薬品情報解析学分野	11
実践薬学分野	医薬品化学分野	12
生命物理化学分野	医薬品創製化学分野	13
統合生理学分野	免疫微生物学分野	14
生体情報分子解析学分野		15
薬学部教室名および教員一覧		16
平成26年度薬学生涯研修講座開催報告	若 林 敬 二	17
支部だより		
関西支部	静薬学友会総会が関西で盛大に開催	河 本 光 宏 18
北海道／長野県支部／関東支部／北陸支部／		
静岡県支部／東海支部／中国支部／四国支部		22
会員だより		
静岡薬科大学9 回生同期会	宮城島 利 一 男	29
植物研究部OB会活動報告	石 原 廣	30
大学だより		
退任挨拶	木 苗 直 秀 夫 治 臣 平	31
	大 苗 石 哲 夫 倉 康 卓 洋	32
新任挨拶	窪 田 辰 政 初 弘	33
	水 野 勝 勝 初 弘	34
	中 西 勝 勝 初 弘	35
在学生だより		
東出福司先生のご逝去を悼んで	宮城島 惇 夫	36
大学院学位論文		38
衛生化学教室開設60周年記念祝賀会	関 本 征 史	39
薬学部教員の人事異動		40
		42
本部だより		
議事録		43
静薬学友会賞 平成28年度候補者募集要項		49
会計報告・予算・会費納入割合		50
平成26年度年会費納入者一覧		55
住所不明者一覧		59
各種お知らせ		
静薬創立100周年記念事業募金について		66
四国支部総会開催のお知らせ		67
東海支部総会開催のお知らせ		68
編集後記		
訃報		69
本部役員一覧		69
平成27年度薬学生涯研修講座参加申込FAX用紙		70
		72

表紙絵掲載作品、近況について

今回の表紙絵の作品は「長崎グラバー邸」にしました。
長崎グラバー邸周辺は風景画を描くには絶好のロケーションで、歴史のロマンもあり、また、有名な画家達にも多く描かれており、いつか自分も一度は描いてみたいと思っていた場所です。

そのようなことから、4月中頃に数名の絵画友達を誘い、この地に取材旅行に出かけました。当日は天気も良く絶好の写生日和でした。皆、思い思いの場所で数点描き、満足して帰りました。

帰ってから、画室で絵を仕上げましたところ、ここ数年中でも特に気に入った作品に仕上がりました。

丁度この場所が、今回、世界文化遺産の一つに指定されましたので今号に掲載させて頂くことにしました。

長崎県、九州出身の同窓生の方々にも喜んで頂けるのではと思っています。

どうかご覧ください。

静薬昭和43年卒生の同窓会は、ここ数年は毎年開催しており、今年11月14日(土)～15日(日)に村松鐸治君達のお世話により掛川市で開催の予定です。

昨年は私がお世話して高松市で開催し、大勢の方々に参加して頂いたので返礼の意味も込め今回はぜひとも参加したいと思っています。

これに便乗し、母校のある静岡県内の絵の作品がないので、この機会に絵画材料を取材出来たらと、欲張りな事も考えています。

前回もご案内しましたが、私の絵のホームページをご覧ください。今号の作品も掲載しています。

内容は順次更新し、新作を追加掲載してまいります。

URL <http://www.b.pikarane.jp/horitate>

「アトリエ堀川」又は「堀川武」…で検索すれば出てきます。

堀 川 武 (昭和43年卒)



薬学部長就任挨拶

静岡県立大学薬学部長 賀川 義之

(昭和58年卒)

2015年4月から薬学部長を拝命しました賀川です。この歴史豊かな薬学部を重責を担うことになったことで緊張した日々を過ごしています。私は卒業生が本学の出身であることを今まで以上に誇れるような薬学部になりたいと考えています。

さて、私は本学の前身である静岡薬科大学を1983年に卒業しました。当時、林栄一教授が主催されていた薬理学教室で、山田静雄先生(現本学特任教授)から指導を受け、4年次および大学院修士課程でニコチン性アセチルコリン受容体の結合実験に取り組みました。実験に用いたニコチン性アガトキシンは、辻邦郎先生(元本学副学長)が発見・精製されたものでした。1985年に大学院を修了後は、三重大学医学部附属病院に就職し、病

院薬剤師として勤務しました。三重大学では医学部小児科学教室の櫻井實教授および薬剤部の小島康雄教授のご指導を受け、代謝拮抗剤のバイオメディカルモジュレーションで博士(医学)の学位を取得しました。1990年代は病院薬剤師の業務が計数・計量調剤から個別化薬剤業務に大きく替わる頃であり、免疫抑制薬およびMRSA治療薬などの薬物治療モニタリング(TDM)や血液内科病棟での病棟薬剤業務で充実した毎日を過ごしました。血液内科での病棟業務では、自分の得意分野のTDMや院内製剤調製を組み合わせ

て病棟スタッフの信頼を得ながら骨髓移植時のファーマシューティカル・ケアに重点的に取り組みました。2005年に本学に赴任してからは、6年制薬学教育で特に臨床薬学領域に比重を置いた活動をしています。本学

薬学部の特徴に教育および研究活動において、静岡県立総合病院との密接な連携があげられます。私の所属する臨床薬学教室は大学のある谷田キャンパスと県立総合病院の双方に研究室を有し、病院実務実習や臨床薬学研究で県立総合病院の協力を得ながら連携して活動しています。

薬学部は来年(2016年)に開学100周年を迎えます。7月には記念事業を開催しますので、多くの卒業生に入学していただき、皆様と一緒に祝いし、次の100年へつなげたいと考えています。これからも静岡県立大学薬学部への温かいご支援をお願い申し上げます。





薬学研究院長就任挨拶

静岡県立大学薬学研究院長 奥 直 人

静薬学友会報の発行にあたり、本年度より大学院薬学研究院長を拝命致しましたので、一言ご挨拶を申し上げます。静薬学友会の皆様には、平素より後進の教育への支援を含め、多大なご協力を賜り心よりお礼申し上げます。

本学が1916年の静岡女子薬学校創立以来、明年で創基100周年を迎えることは、大変喜ばしいことであります。静岡薬科大学の輝かしい伝統を継承し、県立大学となつてから早や30年弱を経過いたしました。薬学部・薬学研究院のさらなる発展に貢献しなければという重責を感じております。創基100周年に關しましては静薬学友会と本学薬学部が一体となり、次年度に予定されている記念事業等に向けた準備を進めております。皆様のご協力と、次年度に予定されているシンポジウム・祝賀会へのご参加をお願いいたします。

本学は、21世紀COE・グローバル

COEで形成された「先導的健康長寿学術研究推進拠点」として、健康長寿科学を牽引できる人材育成のために、大学院に薬食生命科学専攻を創設することとなりました。そのため2012

年に教員組織から教育プログラムを独立させるという大学院組織改革を行いました。具体的には薬学研究科を、研究を主体とする教員組織に基づく薬学研究科とし、同時期に改組された食品栄養環境科学研究科とともに、教育プログラムを遂行する薬食生命科学総合学府を設置しました。本学府には、6年制薬学科の卒業生を受け入れる薬学専攻（4年制博士課程）、主に4年制薬科学科より進学する学生を受け入れる薬科学専攻（博士前・後期課程）、健康長寿科学の教育プログラムを実行する薬食生命科学専攻（博士後期課程）を要しております。薬学教育改革により全国の薬系大学におきましても、各講座が2専攻（本学では3専攻ま

で）の大学院学生の研究指導に当たることが平常化しており、実質的にはこれまで通りの研究体制を継続することが可能となっております。

本学は、長年に渡り多大な貢献をされた木苗直秀先生が、学長任期を今春終えられ一抹の寂しさを覚えておりますが、鬼頭宏新学長のもとで新たな発展を目指しています。2014年には地方創生事業の一環である文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」に採択されました。また薬学研究院では、創薬探索センターに次いで第2の大学院附置センターとして、2013年に薬食研究推進センターを立ち上げました。さて、6年制の医歯薬系学部では教育モデル・コアカリキュラムが制定されておられ、質保障がなされていますが、現在文系・理系を問わず全ての分野での質保障が求められており、日本学術会議を核として既に20分野ほどで質保障のための参照基準が制定されました。

4年制薬学教育に關しても、大学院を視野に入れた参照基準の制定が1・2年の間になされる運びとなっております。少子化全入時代を迎え大学を取り巻く環境はますます厳しくなっており、

選択される大学として存続するためには、高等教育を充実させ、高質な教育を提供し、高度な付加価値を有する人材を輩出できることが不可欠となっております。幸い現時点では、薬学研究院の各専攻に社会人を含めて多くの学生が進入学し、質の高い研究成果を発信し続けております。今後もさらなる教育環境の整備、最先端生命科学・医療科学の研究を通じた人材の育成に、微力ながら貢献する所存です。静薬学友会の皆様におかれましては、今後とも後進の教育等に関しまして、引き続きご協力と、これまで以上の温かいご支援を賜れば幸いと存じます。宜しくお願い申し上げます。

特集

研究室は今

生化学分野

本研究室では、核酸やタンパク質と並ぶ第三の生命鎖である糖鎖に着目し、研究を進めております。糖鎖は血液型の違い、組織形成、細胞の増殖、プロテオームされた細胞の死、神経伝達、細胞の分化、リンパ球による免疫拒絶反応、細胞間の自己、非自己の認識など多くの生命現象をはじめ、白血球と血管内皮細胞との接着が関わる炎症、がん細胞の転移、ウイルス、バクテリア、さらには原虫の感染など、多くの病態が糖鎖の機能と密接に関わっています。私たちは現在、鈴木 隆教授を中心として、インフルエンザウイルスやパラインフルエンザウイルスなどのウイルス感染を制御する糖鎖の機能を明らかにし、その研究成果に基づいた新しい抗ウイルス剤およびウイルス検出剤の創生、記憶の形成や、てんかんなどの神経が異常に興奮する病気の発症機構とシアル酸などの糖鎖の機能に関する研究と医療への応用、がん発生・悪性化の分子機構を糖鎖や糖鎖関連分子を中心に解析し、新たな抗がん剤やがん検出試薬の開発への応用に取り組んでいます。

《主な研究テーマ》

- ・ウイルス感染における糖鎖機能の解明と医療への応用
- ・中枢神経における糖鎖機能の解明と応用

・がんにおける糖鎖機能の解明
・糖代謝酵素の研究と応用

教員、学生ともに研究に対する意欲は高く、研究室員が協力して日々の研究活動を行っています。研究成果は学会発表や国際学術論文として多数報告しております。昨年度の研究成果は新聞等で広く報道されました。また、教員の受賞、学生の学会優秀賞受賞もありました。最近の研究内容や研究成果、トピックスについては、当研究室のホームページでご覧頂くことができます。

<http://w3pharm.u-shizuoka-ken.ac.jp/~biochem/>

教授 鈴木 隆



平成27年4月 新4年生歓迎お花見会にて

衛生分子毒性学分野

医薬品、化粧品、農薬、食品添加物など、現代人は様々な化学物質を利用して生活しています。したがって、これら化学物質の有害性を適切に評価し、ヒトでの安全性を担保することは、ヒトの健康をまもるために重要です。衛生分子毒性学分野では、化学物質の解毒に重要な薬物代謝酵素と、細胞内異物センサーとして化学物質の生体応答を制御する核内受容体に着目し、化学物質の毒性発現機序、毒性の評価・予測手法開発、肝障害の予防・治療法確立などに取り組んでいます。

本分野は今大きな変革の時期を迎えています。平成26年3月に定年退職された出川先生の後任教授として、吉成が26年4月に着任しました。その後、関本先生が同年10月に麻布大学に、根本先生が27年4月に東邦大学にご栄転されました。他方、27年2月に本教室出身の保坂先生が助教として、27年8月に佐々木先生が講師として着任しました。現在は教員3名、客員共同研究員1名、実験・事務補助員2名、大学院生5名、学部生16名で、これまでの衛生化学講座が築いてきた伝統を基に、化学物質の安全性をキーワードとして幅広い領域での研究を進めています。

薬物代謝は、薬学部の特徴的な学問・研究テーマであり、創薬から医療まで様々な薬学領域に関連していますので、研究室の門戸を広く開きたいと

※薬学部教室名および教員一覧を16ページに掲載しています。

いう思いがあります。昨年から製薬企業から2名の博士課程進学者を受け入れ、またいくつかの化学関連企業との共同研究も開始しました。教員が皆新しいこともあり、学部生、大学院生にとっては少し大変かもしれませんが、学生と教員で協力しながら新しい研究テーマの立ち上げと魅力ある研究室づくりに取り組んでいます。製薬・化学・食品関連企業、官公庁、病院・薬局など、様々な分野にこれから本研究室の卒業生が進むと思います。同窓生の皆様におかれましては、どうぞよろしくお願いいたします。

教授 吉成 浩一



平成27年8月5日 新任の佐々木先生を迎えてモニュメント前で

薬理学分野

薬理学教室には、研究志向の高い学生が集まっています。6年制の学生でも、製薬会社などでの研究・開発職を希望する者が多いように思います。博士課程学生が多い（今年度は3年生3名、2年生2名、1年生3名）という教室内環境も、そうした雰囲気を作り出しているのかもしれない。しかし、6年制では、5年次の半分は実務実習に出ており、研究室には殆ど来れません。研究のノウハウが分かってきた配属2年目に研究が中断するという状況に対して、学生だけでなく指導する教員にも戸惑いが続いています。しかし、こうした状況を嘆いていても仕方ありませんので、さらに学生の研究マインドを高め、何とか今の状況でも研究のアクティビティを落とさないよう、工夫し、努力を続けていきたいと考えています。

薬理学教室には、現在、3つの研究の柱があります。一つは、教室の現在の主流である糖尿病の薬理に関する研究で、インスリン分泌や膵β細胞量の調節に関わるシグナル伝達研究を行っています。二つめは、以前より継続している循環薬理関連で、皮膚循環の病態生理を中心とした研究を展開しています。そして三つめは、肝臓の類洞に存在し肝線維化の原因となる肝星細胞に関する研究です。現在の主な研究テーマは以下の通りです。

1. 膵β細胞における細胞内脂質シグナリングの解析

2. 一酸化窒素やフラボノイドによる膵β細胞機能調節の解析

3. 寒冷曝露や神経障害が皮膚血流調節に及ぼす影響の解析

4. 肝星細胞の活性化・脱活性化に関わるシグナル伝達の解析

5. 天然物由来生理活性物質の作用機序の解析

研究を行う上で最も大切なことは、研究の背景を理解し、その研究の目標や目的を明確に定めることです。そして、実験終了時には、その研究成果を英語論文として発表することが大切です。研究体制は変わっても、今後こうした研究のプロセスを学生が実践できるよう、指導を続けていく所存です。

教授 石川 智久



平成27年4月 研究室の新人歓迎会にて

医薬生命化学分野

超高齢化社会での健康と福祉のために、医薬生命化学教室では、「がん」や「虚血性疾患」に関する研究に取り組んでいます。がん研究に関しては、腫瘍新生血管障害療法、リンパ管新生を考慮した新たながん治療戦略、RNA創薬に向けたsiRNAベクターの開発、プラスチック人工抗体開発など、創薬を意識した基礎研究に取り組んでいます。虚血性疾患に関する研究では、リポソームDDSによる脳虚血再灌流障害療法の開発を行っています。また、逆標的化DDSによる免疫疾患治療法の開発など独創的な研究を行っています。最近の研究成果ならびに教室の活動状況はホームページに掲載してありますのでご覧下さい。

(<http://w3pharm.u-shizuoka-ken.ac.jp/~radio/mbc/Home.html>)

卒業修了生の近況では、大学院博士後期課程を修了した安藤英紀君が、徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部の特任助教に就任しました。大学院博士前期課程修了者では、齋藤大騎君は日本化薬株式会社（研究）、竹内祥人君はアステラス製薬株式会社（研究）、劉曉君は持田製薬株式会社（研究）、6年制薬学部を卒業した岡田憲明君はパレクセル・インターナショナル株式会社（開発）、清河友理さんはILS株式会社（研究開発）、佐藤昌彦君は大正製薬株式会社（開発）、横

田将史君は花王株式会社（研究）に就職し、それぞれ元気に活躍しています。奥直人教授は第32回日本DDDS学会学術集会会長に就任し、来年度「DDDSが創る健康長寿社会」をテーマに学術集会を主催します。本年度のおめでたい話題として、清水広介講師が第61回日本薬学会東海支部総会・大会にて学術奨励賞を受賞しました。

教室員一同が、日夜研究に励むとともに、研究の合間には、スポーツ、教室旅行、BBQなど、イベント豊富な環境で親交を深めています。昨年度の研究室対抗のソフトボール大会は、見事優勝しました。

助教 小出 裕之



平成27年7月 教室員と最近の卒業生とのお食事会にて

科学英語分野

ホーク フィリップ (Philip Hawke)

It has been eight years since the Scientific English Program was established as part of the Global COE Program in 2007. At first, the Program offered courses only to graduate students, but after it was integrated into the School of Pharmaceutical Sciences as the 科学英語分野 in 2012, it began providing courses to undergraduate students as well. The Program is taught by Philip Hawke (ホーク フィリップ). Mr. Hawke is originally from Canada, but he has lived in Japan for 19 years, and has taught English at the University of Shizuoka for 17 years. Before setting up the Scientific English Program, he taught for 10 years in the Faculty of International Relations.

The Scientific English Program teaches graduate students the practical English skills that they need to successfully communicate about their research with scientists from around the world. It offers courses in Academic Presentations, Academic Writing, Scientific Manuscript Editing, Oral Communication, Small Group Discussion, and Independent Listening. After taking the Program's courses, many students have presented their work at international conferences and published it in international journals, and some have worked abroad as post-doctoral fellows. Several graduates now work for international drug companies, where they use English in the workplace.

For undergraduate students, the Program provides courses in more basic English skills related to science. The Pharmaceutical Science English course introduces third-year students to the English that they will need after entering laboratories in their fourth year, such as reading scientific journal articles. Students also develop the practical English that working pharmacists need to communicate with foreign patients and customers in hospitals and drug stores. In the English section of the Scientific Practice I course, first-year students give presentations and have debates on scientific topics in English.

Although many pharmaceutical science students are not so interested in English, they often need it more than students from other academic areas when they enter the workforce. The Scientific English Program aims to give students the skills and motivation they need to succeed in pharmacy-related fields as Japanese society and the world of science become increasingly international.



Academic Writingの講義中

2007年にグローバルCOEプログラムの一環として The Scientific English Program が設立されて8年が経過しました。当初、このプログラムは大学院生にのみ行われていましたが2012年より薬学部の科学英語分野に組み込まれ、学部学生に対しても授業が行われるようになりました。

プログラムはカナダ出身のホーク フィリップ先生によって行われています。ホーク先生は日本に来て19年、静岡県立大学で英語を教え始めて17年であり、以前は静岡県立大学国際関係学部で英語を教える仕事にも従事していました。

The Scientific English Programでは、科学者としてコミュニケーションを行うための実用英語スキルを大学院生に教えており、アカデミックプレゼンテーション、アカデミックライティング、科学原稿編集、コミュニケーション、グループディスカッション、リスニングなどのコースを提供しています。プログラム受講後は多くの学生が、国際会議での発表・国際学術雑誌への論文掲載、またポストドクターの一員として海外の大学で研究を行うなど多彩な経験を積んでいます。また現在、何人かの卒業生が国際的な製薬会社に勤めており、職場での公用語はもちろん英語です。

学部学生のためには、科学に関連したより基礎的な英語スキルのコースを提供しています。Pharmaceutical Science Englishでは学部3年生に対して、4年生になり研究室に配属されたのちに必要となる、科学に関連した英語で書かれた記事を読むためのスキルを身に付けるコースを用意しています。さらに学生は、薬剤師として外国人の患者とのコミュニケーションを学ぶ必要もあります。コースIでは、学部1年生が科学のトピックについての討論を英語で行っています。

英語にそれ程興味のない学生もいるでしょうが、実は薬学部生は、他学部の学生以上に労働力としての英語能力が必要とされているのです。科学英語プログラムでは、日本の社会、および科学の世界において、薬学のフィールドで成功するために必要なスキルとモチベーションを学生に与えることをめざしています。

生体機能分子分析学分野

当研究室は4人の教員の下、日夜精力的に研究を行っています。

研究テーマは大きく2つに大別されます。1つは、『生体で機能する分子を分析する』というものです。アミノ酸、ペプチド、糖鎖、医薬品など生体内で機能する分子を精密に分析すること、疾患バイオマーカーを発見したり、早期診断法を確立するものです。

もう1つは、『生体を機能性の分子で分析する』というものです。蛍光プローブや、光学分離試薬など、世界に1つしかない分析ツールを創り、臨床診断や生体機能解明研究に役立てるものです。

前者として、非侵襲かつ長期保存が容易な唾液、毛髪、爪を血液や尿に代わる診断試料とする研究があります。例えば、糖尿病患者の唾液にD-乳酸が多く含まれることを発見し、唾液を用いた糖尿病の早期診断法を確立しました。さらに乳がん患者の唾液ではアセチルポリアミンが増加していることを見出し、高い識別指数で乳がんの診断が可能であることも示しました。

一方、後者としては、光学活性物質の超高感度分析試薬の開発や、フルオラスとよばれるフッ素分子を多く含む化合物を用いた微量生体成分の選択的な分析法の開発、糖鎖の高精度分析試薬の開発などを行っています。

このような研究成果は、学生の日頃

の頑張りによるものであり、昨年度は本学修士の成績優秀者表彰、学会での優秀発表賞受賞4件、国際雑誌の表紙を飾るなど、学生個人としても多く表彰されました。勿論、研究以外も手は抜いておらず、分析ジャージを身に纏い、学内バドミントン大会とフットサル大会で優勝と大活躍しました。

昨年度の修士・卒業生は、第一三共、エーザイ、生化学工業、興和、ツムラ、林純薬、ウエルシアに就職し各々の道で活躍しています。詳しい研究内容、研究室行事、学生の活躍等は研究室HPで多くの写真とともにご覧いただけます。

最後になりますが、静薬学友会の皆様には変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

准教授 轟木堅一郎



平成27年4月 研究室お花見（芝生公園）にて

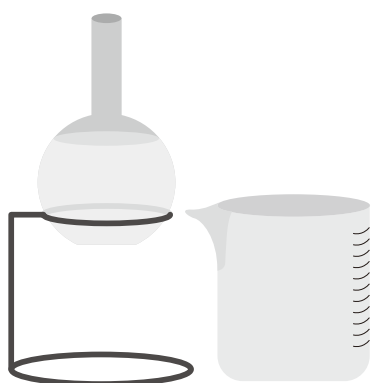
医薬品製造化学分野

急逝された田中圭先生の後任として、本学に赴任して10年が経ちました。幸運なことに元気で明るい学生と優秀なスタッフに恵まれ、研究と教育に幾つかの結果を残せました。研究では「ものづくり」のできる人材の輩出を目的として生物活性天然物の全合成を中心としています。本研究は学生時代から一貫してありますが、静岡では「食品有効成分」と「キノコ」というキーワードが加わりました。静岡の特産品である「緑茶」を多く飲む地域の人はガンや糖尿病になりにくいか「温州みかん」の医者要らずなどと言われます。現在はこれら特産品の有効成分の機能解明を目指した合成研究を展開しています。例えば、カテキンやフラボ

ンの放射活性なプローブを合成して、浜松ホトニクスでPETによる体内動態を解析しました。また、「キノコ」は静岡大学の河岸洋和教授との共同研究です。まず、不安定で単離不可能だった「スギヒラタケの毒」を合成し、戦後最大の食中毒の「謎」を解明しました。次に、コムラサキシメジから得られた植物成長促進化合物を合成し、「世界の食糧危機の救済」と「新規植物ホルモンの証明」へと展開しています。

この10年間で、博士14人、修士61人、学生56人の学生が当研究室を巣立ちました。また、在籍したスタッフも古田巧京大准教授、脇本敏幸北大教授、竹元万壽美奥羽大学教授、濱島義隆本学教授と昇進しております。今後も研究とは「人との出会い」も楽しみであることを、学生に教えていきたいと考えています。

教授 菅 敏幸



平成27年4月 研究室お花見にて

生薬学分野

野口教授は2年間の学部長の大任から漸く開放され、本年度は日本生薬学賞を受賞されました。内外の多くの研究者と展開された共同研究が、生薬学会を代表する研究業績をあげ、世界の

学術進歩に著しく貢献したと評価されたものです。また一方で、野口教授が主宰する市民向けの「漢方の基礎学習と薬草の見学会」は好評の内に17年に至り、毎回500名にも達する聴講者を大講堂に集めています。渡辺准教授のグループは、ある種の微生物がポリケタイド合成酵素、非リボゾームペプチド合成酵素を介して、抗生物質や制がん剤としての可能性が期待される化合物を作りだしている事実に基づき、生合成遺伝子情報を応用して必要な成分だけを効率良く作らせたり、休眠遺伝子を機能させて新しい薬効を持つ化合物を創作させる研究を展開しています。

また、梅原講師のグループは従来未精査だったタイやバングラデシユなど各国薬用植物から、婦人病や感染症などの伝承用法に関わる成分を見つけたり、新たな新規医薬品、栄養補助食品や食品添加物開発への発展が期待される成分の探索研究を行っています。現在、ドイツに留学中の恒松助教は近々帰任予定で、留学先で習得した技術や知識が静岡に根付く事が望まれます。

本年の教室員は、野口教授以下スタッフ総勢7名、院生4名、学部生11

名の総勢22名で、毎日の実験やセミナーに励む傍ら、アルコールを交えた懇親にも抜かりは有りません。生薬伝統の(?)、野口先生提供のお菓子を囲む会、もゲリラ的に行われ、教室員の親睦が深まっています。

近年の大学院修了生は製薬業界を始めとする化学系製造業、公務員、6年制薬学部生は公務員、病院薬剤師、薬局に巣立っていきました。学友会の皆様には、卒業生に時に厳しく暖かな社会人教育を御願い致しますと共に、本教室の発展に一層のご理解とご支援を賜りますよう、御願い申し上げます。

講師 梅原 薫



平成27年3月卒業・修了のメンバーとともに

薬物動態学分野

静薬学友会員の皆様には常日頃から一方ならぬ御高配を賜り、まずは本紙面をお借り致しまして御礼申し上げます。

薬物動態学分野は2014年3月末で定年退官された山田 静雄 名誉教授の後任として2014年4月から尾上誠良 教授が主宰しております。同年8月には伊藤 由彦 助教が講師に昇進し、さらに科研製薬株式会社より世戸孝樹 博士が加わりました。2015年8月には大阪薬科大学から佐藤秀行 博士が加わり、4人体制で教室を運営しています。研究室に所属する学生はみなとても元氣よく、将来のキャリアプランを考えながら研究活動や、英語学習・資格取得などの自己鍛錬に励んでおります。研究室対抗のスポーツ競技はまだ優勝出来ていませんが、常勝軍団を作るべく練習に余念がありません。

当研究室では薬剤学をベースとして基礎・応用研究のみならずレギュラトリーサイエンスの世界にも挑戦しております。医薬品の体内動態と作用は極めて密接な関係にあります。適正使用を考える上で両者の正確な理解が求められます。そのなかで我々は投与後の薬や機能性食品素材が体内でどのように動くのか精査し、これらの体内での動きを drug delivery system によって戦略的に制御することによって副作

用の回避を試みています。これまでに製薬・食品企業をはじめとする様々なパートナーと共同で副作用を回避可能な投与形態を開発・特許出願しており、今後よりリスクの少ない治療法提案を目指して研究活動を推進してまいります。

また、医薬品の物性と体内動態情報から副作用リスクを予測する検討も行っております。新規に開発した薬剤性光線過敏症リスク評価方法について国際協調活動を推進し、本手法はICH guideline (S10) や PCPC guidance 等の国際試験ガイドラインに採用されています。研究内容の詳細は研究室生の元氣な姿と共に研究室ホームページにて紹介させて頂いておりますので是非ご覧下さい。

教授 尾上 誠良



平成27年度 薬物動態学分野メンバー

創剤科学分野

6年制カリキュラムによる薬剤師国家試験が実施され3年が経過しました。薬学科(6年制)の学生は国家試験対策と研究の両立を目指し、また、薬科学科(4年制)の学生は国家試験から開放され研究に集中し、共に目標に邁進しています。現在、薬学部で最も人数の多い当研究室は、今年、総勢、38名で創剤活動を展開することになります。

本研究室にとって大きな出来事として岩尾先生が昨年、助教から講師に昇格されました。また、岩尾講師の第1回学長表彰や、学会での最優秀発表者賞を含め、平成26年度には13件の褒章を受けました。さらに、日本学術振興会のRONPAKU PUROGURAMで在籍していたバングラデシユの研究生が論文博士号を取得されました。本研究室では、今年も、固形製剤化技術開発とDDSの2本柱で創剤研究を行っていきます。

《主な研究テーマ》

- ① 新剤形の開拓・製剤設計の最適化(粉体工学研究)
- ② 新規DDSキャリアの設計と製造プロセスの検討
- ③ ワックスマトリックス製剤の設計と評価
- ④ 新規物性評価法の開発とその応用

平成27年3月には修士課程の修了生4名、学部卒業生(薬学科)6名を輩

出しましたが、9名が企業に就職し、1名は他大学に進学しました。彼等の就職先、進学先は以下の通りです。

アステラス製薬(株)(研究)、科研製薬(株)(研究)、興和(臨床開発)、中外製薬工業(株)(研究、生産技術、信頼性保障)計3名、日医工(株)(研究、日本たばこ(株)(研究)、富士カプセル(株)(研究)、東京工業大学(進学)

また、4月には薬学科5名、薬科学科2名が4年生として配属されました。さらに学外からは秋入学、春入学を合わせ、4名の社会人が博士後期課程に入学してられました。このうち、2名は当研究室の卒業生です。卒業生・新入生のこれからのご活躍を期待しています。

教授 板井 茂



平成26年9月27日 H26年度中間発表会にて

分子病態学分野

森本達也教授は一貫して、臨床現場での問題点を基礎的研究にて解明し、臨床へ還元する展開医療研究を長年続けています。専門は循環器内科で、主に心不全の新規治療の開発に従事しております。現在、以下のようなプロジェクトを刀坂泰史講師、砂川陽一助教の3教員体制で展開しております。

心不全の治療ターゲットの探索を行うため、心筋核内シグナル伝達経路の解析を行っています。特に、内因性ヒストンAセチル化酵素活性を有するp300とGATA転写因子群の協調的作用(p300/GATA経路)が心肥大反応に重要であることを見出しました。現在は、p300/GATA複合体の更なる転写調節機構の解明を目指して、GATA4結合因子を網羅的に解析し、転写子リプレッサー複合体やメチル化酵素群の解析、エピジェネティックな肥大反応因子の制御の研究を進めています。

心不全治療薬の創製を目指して、治療薬候補のスクリーニングと薬効解析を行っています。特に天然物ウコンの主成分であるクルクミンがp300のHAT阻害作用を介して心不全の治療薬となる可能性を培養細胞ならびに心不全モデル動物にて見出しました。現在はクルクミンの臨床応用へ向けた展開医療研究として、高吸収性クルクミン製剤の開発、構造活性相関、ヒトを対象とした臨床試験を行っています。また、柑橘系抽出物であるノビレチンやオーラプテンが心不全治療薬となる可能性を見出しており。現在その薬効メカニズムの解明を進めています。このように、基礎・臨床研究を幅広く行っており、これも教員陣のパワフルさがなせる

業です。

研究生活は多忙を極めますが、この環境で鍛え上げられた学生は国内外の学会で優秀賞を受賞しております(国際心血管薬物療法学会2015 YIA最優秀賞、第14回抗加齢医学会総会YIA優秀賞、日本薬学会第134回年会優秀発表賞など)。また、『よく学び、よく遊べ』をモットーに、ソフトボール・バトミントンなどの課外活動にも精を出しております。昨年の講座旅行では、富士山麓でパラグライダー、本栖湖でカヤックを楽しみました。季節の行事以外にも学生主導で鍋・たこ焼き・お好み焼きパーティーを開くなど、研究室を大いに盛り上げております。当研究室の卒業生達は、薬剤師として静岡済生会病院、静岡市立清水病院、調剤薬局に、また研究者として、アース製薬や江崎グリコなど様々な分野で活躍しております。直近の研究の詳細や研究室の動向はホームページ(<http://w3pharmu.shizuoka-ken.ac.jp/byoutai/>)やFacebookをご覧ください。

助教 砂川 陽一



平成27年2月13日 中間発表にて

臨床薬学分野（臨床薬学・薬局管理学）

当教室は平成14年度に中野眞汎教授により開設され、平成17年度から賀川が主宰し本年度で11年目を迎えています。臨床薬学分野と薬局管理学分野が一体となって研究・教育活動を行っています。平成20年には、静岡県立総合病院内に研究室が開設され、主に基礎薬学研究を谷田キャンパスで、臨床薬学研究を県立総合病院で行っています。

平成26年度は、6名に学士（薬学）の学位が授与されました。以下に論文題目を示します。インスリン抵抗性自然発症マウスにおけるインスリン抵抗性発症機構（有澤佳純）、メタボリックシンドローム発症と腸内細菌叢変動との関連性（小倉加称美）、日本人閉経後乳がん患者におけるアロマトーゼ阻害薬のPKとPDに関する研究（古谷翔太）、日本人閉経後乳がん患者のアロマトーゼ阻害薬による副作用とエストロゲン濃度に関する研究（鈴木祐介）、薬物封入リオトロピック液晶の物性及び経皮吸収性評価（村田明子）、透湿性保護軟膏の開発及び*in vitro*/*in vivo*評価（橋本宇矩）。

教育面では、薬学教育6年制の長期実務実習を担当し6年目を迎えています。病院実務実習はすべて静岡県内の中核病院で実施しました。その中で、県立総合病院内の薬学教育・研究センターは現在までに152名の実習生を送り

出しています。また薬局実務実習は、薬学部すべての研究室の協力を得て、教員が実習薬局を訪問し学生指導を行いました。

大学院生や学部生が充実した学生生活を送れますのも、後援会の皆様の多大なる愛情とご援助の賜物と厚くお礼申し上げます。

准教授 宮寄 靖則



平成27年4月、研究室前にて

創薬探索センター

—HOPE & HELPを目指した

次世代抗がん剤の探索研究—

20世紀半ばにおけるナイトロゲンマスタードの発見をきっかけに、天然由来または人工的に合成された化学物質を用いるがん治療、いわゆるがん化学療法が治療の選択肢のひとつとして使用されるようになりました。しかし、初期の化学療法は必ずしもがん細胞だけをピンポイントで攻撃するものではなかったことから、臨床における使用が制限されてきました。その一方で、がんの発症や増殖のメカニズムを探る基礎研究は、がんの分子レベルの解析を可能としました。その結果、がん遺伝子やがん抑制遺伝子が発見され、さらにアポトーシス、血管新生、転移、不死化などの重要なキーワードを含む、いわゆる「Hallmarks of Cancer」の理解に繋がりました。現代ではこれらの新しい知識や仮説をもとにして、より有効な治療法が開発され実際に臨床で使用されている薬もあります。しかしながら、その福音は一部のがん種に限定されており、未だに多くの未解決セグメントが存在しているのも事実です。

当研究室は、新しい創薬シーズの創出と創薬研究者の育成を目的に2004年に設立されて以来、静岡県ファルマバレーセンターとの連携のもと、静岡県内または国内研究機関や製薬企業

と共同で、新しい抗がん剤シーズの探索研究を進めています。これまでに新規な作用を有する複数の抗がん剤候補物質の創出に成功しており、中でもSTAT3阻害剤は、日本だけでなく、米国、豪州等で既に特許登録されています。現在国内製薬企業と共同で非臨床試験を実施中です。このように近年の腫瘍分子生物学の目覚ましい進展により、がんとの闘いに勝つための戦略を練ることができる時代になってきました。当研究室では勝つために相手を知る、つまりがんについて皆で学び理解を深めることにより、がんのアクセラレーターを狙った新薬の研究開発に取り組んでいます。今なお増え続けるがん患者さんにとつての「HOPE & HELP」を目指します。

教授 浅井 章良



平成26年12月20日忘年会 AZALEAにて

臨床薬効解析学分野

平成27年度で本研究室は開講から10年目を迎えました。現在の研究室の構成は、教員4名、大学院生4名（博士1名、修士3名）、学部生17名（6年生5名、5年生6名、4年生6名）の総勢25名です。本教室では「医療現場からシーズを見つけて研究を展開し、その成果を現場や社会に還元する」をモットーに教員・学生が一丸となって取り組んでいます。静岡県立総合病院、静岡県立こども病院、聖隷浜松病院、静岡てんかん・神経医療センター、東北大学、東京女子医科大学などの県内外の医療機関、大学、研究所と臨床を中心とした共同研究を行っています。

主な研究テーマ

- 1) 薬効や副作用に関連する遺伝子マーカーの解析と薬物療法個別化への応用
- 2) 疾患の予防や薬物治療に有用なバイオマーカーに関する研究
- 3) がん、感染症、自己免疫疾患の診断や治療に有用なヒト型抗体の作製と臨床応用
- 4) 抗体のエピトープ解析に基づく分子標的治療薬の開発

これからも精力的に研究活動を行い、学生が明るく元気に研究室生活を過ごせるよう体制を維持していきたいと考えております。年中行事として

お花見、新入生歓迎会、バーベキュー、教室旅行、送別会などを多くのイベントを企画して盛り上げています。研究成果や研究室行事については研究室ホームページに随時公開しておりますので、機会がありましたらぜひご覧ください。卒業生の皆さんのご健勝と今後ますますのご活躍を心から祈っております。

講師 井上 和幸



平成27年4月 研究室お花見にて

医薬品情報解析学分野

本研究室は、6年制の薬学教育モデル・コアカリキュラムが導入された2006年に先立つこと1年、2005年に発足し、本年でちょうど10年を迎えました。その間、大学院を修了または学部を卒業したOB・OGが、病院・薬局等の医療現場や、製薬企業の統計解析・データマネジメント・モニタリング・市販後部門、さらには行政等の社会で活躍しています。

当研究室のミッションは、これからの薬学教育にとって重要な分野である「臨床研究や新薬の臨床開発に必要な臨床研究方法論、生物統計学、EBM、疫学等の教育ならびに研究を実践すること」です。このような理念を掲げた研究室は、当時の薬学系大学の研究室としては非常に珍しく、まさに時代に先駆けた研究室と言えます。

教育面では社会人にも門戸を広げた、大学院におけるCRC/CRA養成講座「創薬育薬基礎・応用特論」を毎年開講している実績が社会的にも高く評価され、2007年から日本臨床薬理学会の認める「認定CRC更新のための講習会」に認定されています。またファルマバレーセンターと連携し、静岡県治験ネットワークの発展のために臨床試験実施体制の整備やCRC養成にも力を注いでいます。2010年には、静岡県立総合病院内に当研究室の分室が開設され、データマネジメント・

統計解析機能を有する分室として、病院と大学が連携して臨床研究の質を担保する拠点となることが期待されています。

研究面においては、静岡県立総合病院ほか、多くの医療福祉機関との連携で多施設共同研究を実施しています。特に緑茶のインフルエンザ予防や認知機能低下の抑制に関する臨床研究はマスコミでも大きく取り上げられています。また、(独)国立健康・栄養研究所との共同研究で、健康食品の安全性や有効性評価に関する研究も継続しています。大学院生・学生、客員共同研究員による研究成果も着実に積み重ねられ、国際誌にもアクセプトが増え、今後の発展が益々期待されています。

教授 山田 浩
講師 川崎 洋平



平成27年6月 研究室開設10周年記念講演会にてOB・OGと共に

実践薬学分野

実践薬学分野は、薬学部6年制教育への移行に伴い2008年4月に誕生した薬学部で最も新しい研究室で、臨床教育とともに医療に密着した、分野名称の通り「実践的な研究」を行っています。昨年9月に亀田総合病院より柏倉康治講師が加わり、客員教授として佐々木忠徳教授（昭和大学 統括薬剤部長）、迫和博博士（アステラス製薬株式会社 欧州技術本部長 アステラスアイルランド社長）ならびに槇野正博士（マキノ製剤技術研究所代表）といった各分野のスペシャリストを迎え、益々パワーアップしております。昨年には、実践薬学セミナー第五回記念大会を盛大に開催し、熱い議論が交わされました。

研究室誕生時には学部生3名でのスタートでしたが、7年経った現在、28名の学部生及び大学院生と共に、活気溢れる研究室生活を送っております。また、現在までに11名の薬学博士及び多くの卒業生を輩出し、それぞれ企業、病院、薬局の各分野で活躍しております。

本研究室は、「医療への直接の還元を意識した領域での研究」に特化し、企業、病院、薬局や他大学と協力しながら「社会に開かれた実践的な研究」をモットーとして研究を進めてきました。実践薬学分野全員の努力が結実し、数多くの研究成果が生まれ、論文や学

会発表、製剤化といった形で社会へと発信しています。例えば、苦い薬であつても楽に服用できる菓子を応用した実用化製剤（チョコレット、グミ製剤）、優れた機能性を持つ口腔内崩壊錠や経皮吸収製剤の開発、電子味覚システムを用いた味覚評価といった製剤学に加え、カクテル試験を用いた薬物相互作用検出方法の確立といった薬物動態学まで、幅広い分野で研究を進展しています。

本研究室は、2015年4月によりやく7年目を迎えたまだまだ若い研究室です。患者さんに優れた製剤と薬物治療を届けるという目標を持ち、これからも研究室一丸となって邁進していきたいと考えております。

教授 並木徳之



平成26年8月 実践薬学セミナー第五回記念大会にて

医薬品化学分野

当研究室では、「触媒の有機化学」を中心に研究しています。

もし分子を思うがままに変換できるようになれば、有機化合物の化学合成法を根本から改良することができ、理想的な化学合成法を確立することができそうです。現在、この目標に向けて、他の手法では実現困難な分子変換を起こさせる触媒の開発をはじめとする研究を行っています。以下に、最近の研究例を2つ挙げさせて頂きます。

◆毒性ガスを使わない安全・簡便な化学合成法の開発研究

一酸化炭素ガスは、化学合成に頻繁に使用される有用な化合物ですが、毒性がとても高く、取り扱いにくいという問題点があります。そこで、より安全な化合物を一酸化炭素の代わりに使えないだろうか、という観点から、「二酸化炭素等価体」を使う触媒反応を開発してきました。特に、ギ酸トリクロロフェニルという化合物が、扱いやすい、固体の一酸化炭素[※]として有用であることを発見しました。現在、数社の試薬会社から発売されています。

◆ピンポイント触媒の開発研究

分子の反応させたい部分だけをピンポイントの正確さで変換させる触媒「ピンポイント触媒」の開発を目指して研究しています。ピンポイント触媒は、分子サイズのロボットのようなものです。右手と左手でそれぞれ反応剤

をつかんで、無理やり反応させる。そのような機能を持つ触媒です。この考えに基づいて、新しい触媒成分（DHTP）を開発しました。DHTPから調製される触媒の形はロボットとは大きく異なりますが、機能としては似ています。この触媒によって、従来は実現困難だった化学反応が実現できるようになっています。現在、DHTPは試薬会社から市販されるようになっています。

今後も研究室員一同、今まで以上に精進し、研究成果を世界に向けて発信していきたいと思っています。変わらぬご支援をお願い致します。その他の研究成果や最新ニュースは、研究室ホームページで紹介しています。

教授 眞鍋 敬



平成26年11月 大学にて

生命物理化学分野

静岡薬科大学薬学部生薬学教室の講師であった赤堀幸男先生が教授に昇格し、薬品物理化学教室を立ち上げた昭和41年が当研究室の始まりです。静岡県立大学への統合、小鹿キャンパスから谷田キャンパスへの移転を経て、平成9年に藤井敏先生が教授として着任されました。その後、研究室名は薬品物理化学から生命物理化学に改名されました。藤井敏先生が退職された後、平成25年4月に小職が本学に教授として着任し、新たに生命物理化学研究室を主宰することになりました。平成26年1月には原幸大先生が助教として着任し、現在の体制になりました。平成



平成27年4月9日、芝生公園での花見にて

27年現在、薬学科6年生が5名、5年生が5名、4年生が6名、合計16名の学生が在籍しています。

タンパク質のX線結晶構造解析を中心とした構造生物学と計算科学に基づくドラッグデザインを行っています。研究の詳細や研究室の状況など、当研究室のホームページでご覧いただくことができます(<http://w3pharm.u-shizuoka-ken.ac.jp/buka/index.html>)。

当研究室は、物理化学的手法を用いて生命現象の解明や創薬を見据えた薬学研究に取り組んでおります。後援会の皆様には、今後ともご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

教授 橋本 博

医薬品創製化学分野

当研究室は、前任の赤井周司先生（現大阪大薬）の後任として医薬品製造化学分野（普教授）で准教授を務めていた濱島が2013年4月に引き継ぎました。井川貴詞助教が大阪大学薬学部助教に、また江木正浩講師が医薬品製造化学分野准教授にそれぞれ異動された後、2013年10月に理研から江上寛通博士が、また2014年4月には東大から川戸勇士博士が新たに加わり、新体制がスタートしました。

私たちが専門とする有機化学は分子を「つくる」学問であり、物質科学の土台です。医薬品は人類の幸福に資するものであり、その化学合成には地球環境の向上も託されています。私たちは「作る」技術を磨き上げるためのヒントを生体内に求め、生体のしなやかさを抽出・再構成した分子触媒により、環境調和的に「作る」技術を目指しています。また、生体内に存在しない元素や原子団の特性を活かした分子を設計・合成し、人工機能を付与した生体関連分子を「創る」研究も行っています。我々が取り組んでいる具体的な研究テーマは以下の4点です。

1. 医薬品合成に資する新しい触媒反応の開発とその不斉合成への展開
 2. 有機フッ素化合物の合成法と機能に関する研究
 3. 選択的酸化触媒の創製研究
 4. 生体関連化学における錯体化学的アプローチ
- 昨年度から新しく始めた研究テーマに関

しても成果発表を行えるようになり、学生発表優秀賞5件、長井記念薬学研究支援事業1件（大学院学生）を受賞しました。つい最近、江上助教が内藤カンファレンス優秀発表賞を受賞し研究助成金を獲得しました。一方、本年3月に修士課程を修了した学生の進路については、久保田愛乃さんは日本マイクロバイオファーマ（研究職）に就職し、井出貴文君は博士後期課程へ進学しました。

有機化学の研究室ですので、最初の2年間は研究職を目指す薬科学科の学生が多く配属されました。しかし、本年度は6年制薬学科学生5名が加わりました。薬剤師としての高度な専門知識を背景に、創薬に貢献する人材を目指しているようです。多様な人材輩出に配慮しつつ、薬の化学の問題を解決できる人材になれるよう、情熱と夢をもって日々楽しくかつ真剣に活動しています。



教授 濱島 義隆

平成27年7月21日

統合生理学分野

超高齢社会において、脳の働きは健康長寿に重要です。脳神経系は直接あるいは内分泌系を介して生体の働きを制御する司令塔の役割を担っています。その一方で、神経・内分泌機能の連携は脳の働きに不可欠です。当研究室では必須微量元素である亜鉛から見た脳の機能解析と病態解析を行っています。神経終末からグルタミン酸とともに放出される亜鉛イオンは細胞内外でシグナルファクターとして記憶の獲得・維持・想起に関与します。その一方で、記憶の消失にも関与します。アルツハイマー病などの認知症の改善、克服はわが国のみならず世界的に大きな課題ですが、原因物質の一つと考えられているアミロイドβは細胞外亜鉛イオンとオリゴマーを形成し、認知活動を障害します。また、うつ病も生体内亜鉛恒常性変化と密接に関係します。ストレスあるいは老化による神経内分泌系機能の乱れは脳ならびに末梢組織の機能を変え、疾病の一因となります。現在、武田厚司教授（2012年4月に就任）を中心とし、「脳科学を基盤とする健康長寿」をメインテーマに掲げ、最先端の脳科学、生理学の知識を活かしながら、以下の研究テーマを推進しています。

1. 亜鉛シグナリングから見た学習・記憶の制御
2. アルツハイマー病の病態解析とそ



2015年研究室旅行で蕎麦打ち体験（東伊豆）

の予防

3. 海馬機能から見た認知活動・行動異常の解析
4. 老化およびストレスによる生体機能変化の解析

2014年4月には、研究室の名称を生物薬品化学から統合生理学分野と改称しました。学生は学部生・大学院生を問わず、積極的に学会発表に参加し、国内のみならず国際学会での発表を経験する学生が大半です。これまでの伝統を活かしつつ、今後の地域医療あるいは先端医療を見据えたわが国を代表する薬剤師、ならびに世界のトップレベルで活躍する研究者の養成を目標として掲げ、教員、学生が一丸となり研究に取り組んでいます。

特任講師 玉野 春南

免疫微生物学分野

私が静岡県立大学に着任したのが1998年なので、早いもので17年になりました。微生物学教室は、2006年度より免疫微生物学分野と教室名を変え、現在に至っています。その間、2005年に増澤俊幸助教授が千葉科学大学教授となりました。現在、三宅正紀講師が細胞内寄生細菌の研究をすすめているほかは、黒羽子孝太講師と中西勝宏助教とともに免疫学の研究を中心にこなしています。特に、粘膜や皮膚の免疫学を中心課題としているほか、食品栄養科学部との共同研究により、植物でモノクローナル抗体を生産する研究も展開しています。増澤助教授の後任として着任した川島博人准教授もリンパ球ホーミングを中心に免疫学の研究を行なっていました。2014年に星薬科大学教授として転出しました。現在までに、多くの大学院学生や学部卒業生が研究室での研究経験を経て、社会で活躍しています。静薬以来の微生物学教室の同門会を定期的に開いているので、教室の先輩方やかつての卒業生が遠方から訪ねて来られることもあり、うれしいものです。このところの動きとしては、タイ国タマサート大学の大学院博士課程の学生のSumaleeさんが客員研究員として半年間滞在し、当教室の大学院学生や学部学生と交流を深めています。草の根の国際交流の意義深さが良くわかり



平成27年6月 今井教授還暦祝賀会にて

ます。

写真は、2015年6月、私の「12の倍数の節目の年」の同窓会の集合写真です。いろいろと困難なことも多いと思いますが、皆これからが楽しみです。研究室の人的なつながりが、困難に立ち向かう時、一つの支えになれば良いと思っています。

教授 今井 康之

生体情報分子解析学分野

平成20年4月より、医療薬学大講座生体情報分子解析学分野（旧臨床薬品学講座）を担当させて頂く事になり7年が経過し、平成28年3月末に定年退職する最後の年に当たります。6年制薬学が導入され、より充実した医療薬学教育カリキュラムが編成され、学部3, 4, 5年生講義科目として、薬物療法学Ⅰ、薬物療法学Ⅱ、薬物療法学Ⅲ、臨床検査学、遺伝子診断学を、また実技実習指導としては医用電子工学実習、医療系薬学実習を担当していま



平成27年4月 芝生公園花見

す。学部生・院生には今日、社会的に求められている医療の進歩に即した情報発信を担当できる素養を持った薬剤師の養成、また製薬企業などの研究技術分野で活躍する能力を培うための基礎技術、また応用技能習熟を目標に指導しております。

平成25年10月に五十里彰准教授が岐阜薬科大学生化学講座教授として転出され、活躍されています。また本学出身であります山崎泰広講師には4年生、大学院生にとって身近な若手教員として活躍していただいております。平成24年4月より本学出身で大阪大学薬学研究院で博士薬学の学位を取得された山口賢彦助教を採用し、4年生、大学院生にとって最も身近な若手教員として指導・活躍していただいております。

当分野は医療薬学専攻基礎コースとして高度な知識、技能を持ち、患者から発せられる生体の情報を的確に捉え、医療スタッフ、患者さんに適正な薬物療法を提案できる能力を持った薬剤師を育てることを目標に日夜指導しています。

研究面では遺伝情報に基づいた薬物代謝酵素たんぱく質、トランスポーターなどの生体機能分子の産生、活性発現に必要な働きを持っている転写因子とその機能発現を中心に、医薬品の有害事象回避に繋がる生体の順応性獲得能力に関する課題に取り組んでいます。

主要な研究課題

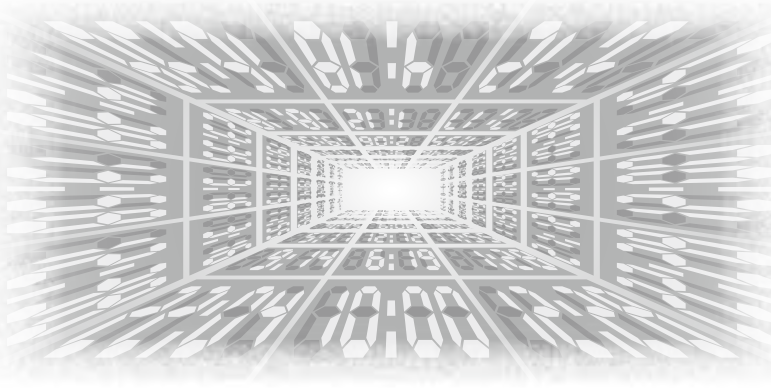
- 1) 核内受容体を介した薬物代謝Ⅰ、Ⅱ相酵素、薬物トランスポーター
- 2) 遺伝子転写調節機構の研究
- 3) 脂溶性メデイエーターに着目したメタボリックシンドローム新規発症機序の解明
- 4) 肝トランスポーターが関与する生活習慣病発生機構の解明
- 5) 炎症・アレルギー反応に関わる脂溶性メデイエーターの産生ならびに活性発現調節機構の研究
- 6) 体質別医療を目指した生体調節因子および薬物代謝酵素遺伝子異常の解析
- 7) 脂肪組織由来間葉系幹細胞の制御分子の研究

これまでの当教室が誇れる主要な研究成果としてi)ケミカルメデイエーターである血小板活性化因子PAF代謝酵素欠損家系の発見とその病態進展との関わり、ii)体質性黄疸に関わるグルクロン酸抱合酵素UGT1A1の転写調節領域に変異遺伝子を発見などがあり、21世紀の医療に必要とされている体質（遺伝情報）に基づいた薬物療法に貢献できる研究を進めてきました。

平成26年10月に開催されました第87回日本生化学会大会において、6年生の服部芳規君が優秀プレゼンテーション賞を受賞し、院生、学生の研究の励みになっています。平成26年、Drug Metabolism and Dispositionに受理さ

れた論文で示したPXR活性化スキームが10月号の表紙に掲載され注目されています。大学院修士課程、学部生の修了・卒業後の進路として本学薬学研究科進学、公務員、企業、病院薬剤師希望者が多く現在活動中です。

教授 菅谷純子



薬学部教室名および教員一覧（カッコ内は大学院薬学研究院）

薬学科				薬学科				
生体機能薬学大講座				臨床薬学大講座				
生化学分野 (生化学)	教 授	鈴 木	隆	臨床薬剤学分野 (臨床薬剤学)	教 授	賀 川	義 之	
	准教授	高 橋	忠 伸		准教授	宮 寄	靖 則	
	助 教	南	彰		講 師	石 井	康 子	
	助 教	疋 田	智 也		講 師	内 野	智 信	
衛生分子毒性学分野 (衛生分子毒性学)	教 授	吉 成	浩 一	臨床薬効解析学分野 (臨床薬効解析学)	教 授	伊 藤	邦 彦	
	准教授				講 師	井 上	和 幸	
	講 師	佐々木	崇 光		助 教	辻	大 樹	
	助 教	保 坂	卓 臣		助 教	平 井	啓 太	
薬理学分野 (薬理学)	教 授	石 川	智 久	医薬品情報解析学分野 (医薬品情報解析学)	教 授	山 田	浩	
	准教授	齊 藤	真 也		講 師	川 崎	洋 平	
	講 師	小 原	一 男	実践薬学分野 (実践薬学)	教 授	並 木	徳 之	
	助 教	金 子	雪 子		准教授	内 田	信 也	
医薬生命化学分野 (医薬生命化学)	教 授	奥	直 人		講 師	柏 倉	康 治	
	准教授	浅 井	知 浩		助 教	田 中	紫茉莉	
	講 師	清 水	広 介	薬局管理学分野 (臨床薬剤学)	教 授			
	助 教	小 出	裕 之		助 教	谷 澤	康 玄	
身体運動科学分野	准教授	窪 田	辰 政	薬科学科				
※身体運動科学分野については大学だより窪田先生のご挨拶をご覧ください				創薬科学大講座				
科学英語分野	講 師	ホーク	フィリップ	医薬品化学分野 (薬化学)	教 授	眞 鍋	敬	
分子薬学大講座			講 師		岩 本	憲 人		
生体機能分子分析学分野 (生体機能分子分析学)	教 授	豊 岡	利 正		助 教	小 西	英 之	
	准教授	轟 木	堅一郎		助 教	山 口	深 雪	
	助 教	関	俊 哲	生命物理化学分野 (生命物理化学)	教 授	橋 本	博	
	助 教	水 野	初		准教授	石 川	吉 伸	
医薬品製造化学分野 (医薬品製造化学)	教 授	菅	敏 幸		講 師	横 山	英 志	
	准教授	江 木	正 浩		助 教	原	幸 大	
	助 教	浅 川	倫 宏	医薬品創製化学分野 (医薬品創製化学)	教 授	濱 島	義 隆	
	助 教	稲 井	誠		助 教	江 上	寛 通	
生薬学分野 (生薬学)	教 授	野 口	博 司		生命薬科学大講座	助 教	川 戸	勇 士
	准教授	渡 辺	賢 二					
	講 師	梅 原	薫	統合生理学分野 (統合生理学)		教 授	武 田	厚 司
	助 教	恒 松	雄 太			准教授	海 野	けい子
医療薬学大講座			講 師		井 口	和 明		
薬物動態学分野 (薬物動態学)	教 授	尾 上	誠 良		助 教	鈴 木	美 希	
	准教授			免疫微生物学分野 (免疫微生物学)	教 授	今 井	康 之	
	講 師	伊 藤	由 彦		講 師	三 宅	正 紀	
	助 教	世 戸	孝 樹		講 師	黒羽子	孝 太	
	助 教	佐 藤	秀 行		助 教	中 西	勝 宏	
創剤科学分野 (創剤工学)	教 授	板 井	茂	大学院付属施設				
	准教授	野 口	修 治	創薬探索センター	教 授	浅 井	章 良	
	講 師	岩 尾	康 範		准教授	澤 田	潤 一	
分子病態学分野 (分子病態学)	教 授	森 本	達 也		講 師	小 郷	尚 久	
	講 師	刀 坂	泰 史		助 教			
	助 教	砂 川	陽 一					
生体情報分子解析学分野 (生体情報分子解析学)	教 授	菅 谷	純 子					
	准教授							
	講 師	山 崎	泰 広					
	助 教	山 口	賢 彦					

平成26年度薬学生涯研修講座 開催報告

平成26年度薬学生涯研修講座運営委員会委員長
食品環境研究センター 特任教授

若林 敬二

(昭和46年卒)

平成26年度薬学生涯研修講座「これから期待される在宅薬剤業務」が平成27年2月1日(日)、13時から17時、静岡県立大学経営情報学部棟1階4109講義室にて行われました。

今や、病院・薬局の薬剤師を取り巻く環境は目まぐるしく変わっており、診療報酬改定、調剤報酬改定、薬事法改正等、次々と対応を迫られる課題が出てきています。そこで、今年度は益々重要となる在宅患者訪問薬剤管理指導業務に焦点を当て、薬剤師が知っておきたい法律の基礎知識・注意点、及び具体的な在宅薬剤業務の進め方についての講演を聞き、討論を行いました。

教育講演は、中外合同法律事務所弁護士・薬剤師の赤羽秀宜先生より「在宅薬剤業務を行う上で知っておきたい法律上の注意点」についてご講演頂きました。薬剤師の実務経験を有する先生は、在宅業務を行う上でのリスク、新たに制定された医薬品医療機器等法による調剤業務、法改正に伴う対策について、先生の経験談をまじえながら分かり易く解説して頂きました。

その後、参加者は6つの小グループに分かれ、在宅業務の具体的な進め方について討議(SGD)を行いました。エーザイ株式会社の中原敬介講師が認知症患者への対応についての具体例をスライドを用いて説明をした後に、小グループ内での討論、次いで、グループ間での活発な意見交換が行われました。

当日は真つ白な雪をかぶった美しい富士山を望める好天に恵まれ、50名の参加者は、直面する薬剤師のあり方について多くの事を学ぶことができ、多くの事が課題であることを再認識しました。



講義形式で在宅ワークの実際を学ぶ(エーザイ)



薬剤師が知っておくべき法律上の注意点についての講義(赤羽根先生)



事例DVD視聴後のグループワーク



認知症患者への対応事例を学ぶ

支部だより

関西支部

静薬学友会総会が関西で盛大に開催

支部長 河本 光 宏
(昭和57年卒)

静薬学友会員の皆様には、関西支部の活動にご理解とご協力を賜り、感謝を申し上げます。特に、関西支部会員の皆様につきましては、昨年（平成26年）の支部総会に引き続き、今年5月24日の学友会総会の関西での開催に對しまして、ご参加を頂き、また運営等にご協力を頂きましたことに厚く御礼を申し上げます。遠路お越し頂いた方々、演者の方、各支部長、本部役員や事務局員等の皆様にも心から御礼を申し上げます。

学友会総会は、京都平安ホテルに於いて、94名の参加を賜り、幅広い年代の卒業生（静岡薬学専門学校・静岡薬科大学・静岡県立大学薬学部）が集い、盛大な開催となりました。ご都合等で当日欠席の方もおりましたが、参加申し込みは100名を超え、多くの皆様に関心をお持ち頂いたことは、大変に嬉しく思っております。総会のもようは、多くの写真と共に学友会のホームページに掲載されていますので、是非ご覧頂ければと思います。また、ストック

写真のダウンロードもできます。

当日の進行としまして、総会の前に支部長会が開催され、特集号担当支部、災害義捐金基金創設と被災者情報の収集、支部と本部の連携強化策、支部活動費などについて話し合われました。支部長として積極的に発言をさせて頂くことができ、有難く思っています。総会に入り、議案の審議が行われました（写真1）。議事の内容は本会報第82号に掲載された「平成27年度静薬



総会の様子（写真1）

学友会総会議事録」をご覧頂ければと思います。また、出席者のお名前も掲載されています。各支部活動報告においては、関西支部の活動報告と共に、総会に参加でき運営に携わって頂いた支部役員を紹介させて頂きました（写真2）。

議事後、講演会となり、田宮憲一先生（厚生労働省医薬食品局総務課医薬情報室長）は「薬務行政の最近の動向と薬剤師への期待」と題し、鈴木康夫先生（昭和39年卒・静岡県立大学名誉教授）は「インフルエンザウイルスの宿主域―最新の情報―」と題して、特別講演が行われました。

田宮先生の特別講演では、最近の制度改正、医薬分業を巡る議論と薬局・薬剤師の将来像についてお話をされました（写真3）。制度改正の中でも、先駆けパッケージ戦略、再生医療の早期実用化に対応した承認制度や保険適用は期待が高まるものと思われま

す。薬局・薬剤師を取り巻く環境や将来像として、薬剤師の在宅医療への積極的な関与、チーム医療の中でのかきつけ薬局の構築や薬剤師の貢献、患者に必要なとされ医薬分業のメリットが実感されるような薬局・薬剤師のあり方、薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点の推進、地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能向上、PMDA（医薬品医療機器総合機構）の審査報告書の情報からの応用など、薬剤師に求められているものは大きいと思われ



講師の田宮憲一先生（写真3）



関西支部役員（写真2）



講師の鈴木康夫先生（写真4）

ました。
鈴木先生の特別講演では、インフルエンザの流行と死亡者数、A型インフルエンザの特徴と野生水鳥、高病原性鳥インフルエンザとヒトへの伝播、低病原性鳥インフルエンザと高いヒト致死率、インフルエンザパンデミック、インフルエンザウイルスの変異、新型インフルエンザウイルスの発生、鳥インフルエンザウイルスのヒト型レセプター結合性変異を監視する新しいデバイスやキットが開発されつつあることなど、長年の研究をまとめて話して頂きました（写真4）。昨年はエボラ出血熱の拡大に不安を覚えました、人類はウイルスとの戦いとも言われ、ウイルスは身近な脅威ともなっており、ご講演で知識を新たにしました。
お二人の特別講演のスライド資料がホームページに掲載されており、参考になると思います。
個人的には、鈴木先生は、同じ生化学教室でお世話になり、田宮先生は、



平成27年度総会集合写真1（写真5） H27.5.24 於 京都平安ホテル

15年ほど前に日本製薬工業協会（ICHI）（日米EU医薬品規制調和国際会議）を担当していた時に、ICHIの活動で一緒にさせて頂いたことから、どちらも懐かし、拝聴させて頂きました。
講演会を終え、懇親会に移る前に、全体の記念撮影を行い、懇親会に参加できない方も写真に納まって頂きました



平成27年度総会集合写真2（写真6）

た（写真5・6）。
懇親会では、関西支部役員が司会進行を仰せつかり、和やかに進みました。これまでにない企画として、本部署役員が撮影した小鹿周辺の写真を鑑賞し、思い出を語って頂きました（写真7・8）。さらに、関西支部総会懇親会では恒例になっていますが、卒業年代でまとまった近況報告（中には余興）

で会場が盛り上がりしました（写真9・14）。身体にやさしい着席スタイルのbuffetで、それぞれの円卓テーブルでも会話が花が咲き（写真15）、あっという間にお開きの時間となりました。
全体を振り返ってみますと、学友会総会の関西での開催につきましては、横倉静薬学友会長から打診がありましただけに、関西支部総会（隔年開催）の翌年開催になることから、幾分躊躇しましたが、支部役員の皆様が前向きに受け止めて頂き、お受けする判断ができましたことは、大変に有難いことでした。

特に、これまでの関西支部総会と今回の総会を通じて、初めて参加、あるいは久しぶりに参加された方が少なからずおられ、懇親の輪が広がったこと、総会での議案審議において、支部会員の方から建設的な質問・提案がなされたことは特筆すべきと感じております。
「関西で総会を開催するからには」との思いで、講演会の演者については、横倉会長にご無理を申し上げましたが、幅のあるテーマで最新の専門性に富んだ興味深い特別講演を拝聴することができ、大変有意義な総会になったものと感謝しております。

支部長としまして、運営や進行も兼ねており、お一人お一人に十分行き届きましたかどうか、心もとなく、ご参加頂きました皆様には、ご容赦をお願い申し上げます。



懐かしい写真で思い出を語る（写真7）

来年平成28年は、記念すべき静薬創立100周年を迎え、7月には記念の諸行事が予定されています。関西支部からも参加を募り、祝いたいと思います。

次の関西支部総会は平成30年6月に開催したいと考えています。また是非多くの会員の皆様にご参加頂き、交流が進めば幸いです。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

末筆となりましたが、会員の皆様の益々のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げます。



小鹿周辺を語る友村支部幹事（写真8）



河村支部顧問を中心に支部活動を推進（写真9）



横倉会長と共にエピソードを語る（写真10）



近況報告（写真11）



近況報告（写真12）



近況報告（写真13）



薬大から県大へ、支部活動を広げる（写真14）



着席のビュッフェスタイルで盛り上がる懇親会（写真15）

北海道支部

支部長 水島教之

(昭和54年卒)

今北海道は一年の中で一番過しやうい快適な時期です。

快適な時期なのに何故か、憂鬱でためいきばかりついています。

調剤薬局に勤務している方には共通の悩み、長引く薬局バッシング、そして追い打ちをかけるかのように相次いで発覚した薬局未記載や無資格調剤……

周囲の批判に耐えながら、毎日がんばっているのになかなか理解されない日々。

どうして調剤薬局はもうかっていると思われているのでしょうか。

うちの薬局はそんなにもうかっていないのに。

ほくも来年は還暦を迎える年になりました。

長期実習受け入れ・各大学企業説明会などの努力が実ってきたのか、今年当薬局にも新人薬剤師が入社してきました。

何とか薬剤師の不足なく、仕事ができるようになってきました。

その新人薬剤師のためにも、将来薬剤師を志す薬学生のためにもがんばりどころと思っています。

地域社会に薬剤師を理解してもらうため、老健・介護支援事業所・老人ホームで話をしています。

薬剤師は調剤師でないですよ（岩見沢市の広報に調剤師と書かれてしまいました）。

調剤以外にもたくさんのごことで、地域住民と関わっているんですよと話しています。

これからも 薬剤師のために、未来の薬剤師 薬学生のために がんばっていきましょう。

そしてこれからはいいことがありますよ きつと……



長野県支部

近況について

支部長 勝山善彦

(昭和57年卒)

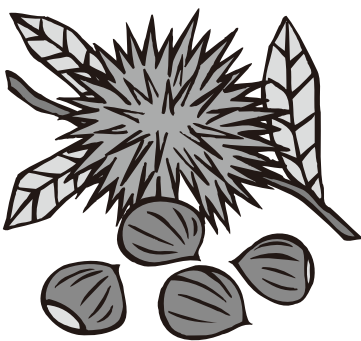
静薬卒業後33年が過ぎそろそろ定年も近くなってきております。自分としてはまだ若いつもりですが、階段は息切れがするようになっております。修士課程修了後、全田浩先生のおられた信州大学医学部附属病院に薬剤師として就職し、その後、昭和伊南総合病院

薬剤部、信州大学医学部法医学教室助手をへて、現在、信州大学医学部附属病院薬剤部に戻り薬剤師をやっております。全田先生が尽力されていた薬学教育6年制の卒業生を迎えるのもすでに4回目となっております。大学病院の薬剤部にいると多くの学生さんと接する機会があり、医学部の学生のポリクリ、医学部保健学科の学生の臨床検査の実習、薬学部5年生の実務実習など、いずれも業務で行っているTDMに關しての実習を担当しています。

医師のTDMの理解ため、医学生の中からTDMの実習を行っており、益々、薬剤師に対しTDMに関する要求も大きくなります。保健学科の学生はTDMの測定に關して、またその結果の解釈について実習を行っております。薬学部5年生の実務実習では院内製剤とTDMを担当しています。院内製剤については事前実習に行にくい分野で

す。TDMに關しては初めて実際の患者のデータに学生が接し、検査値の読み方、薬について、薬物動態についてなど総合的に判断し、患者の処方設計について考えています。若い人たちに付いていけるようもうしばらく頑張っていこうと思っています。

最後になりますが、静薬学友会長野県支部総会は2年に1回の開催となっており、来年が開催の年となります。支部会員の皆様には来年になりましたら連絡いたしますので、多くの方の参加をお願いいたします。



関東支部

平成27年度薬学系就職説明会での
学友会コーナーの設置

支部長 仲谷博明

(昭和45年卒)

本就職説明会は薬学部が主催して平成25年度から始まりました。在校生に限らず広く薬学系での就職を考えている学生諸君に情報提供、就職案内などをするものです。製薬企業、卸売業、病院、薬局、官公庁などが、一人でも多くの学生に自分の施設・団体等につき知ってもらい、興味を持ってもらい、就職の候補先に組み入れてもらうようアピールするのです。

参加する施設・団体等は25年度が50余、26年度が100余、そして今年度は200余と、倍々で増えてきており、会場は熱気に溢れていました。

そして、学部・大学院生など学生の数も年々増加し、今年度は200名を超えたとのことでした。

関東支部では昨年度から、どの業態にも偏らないニュートラルな立場での情報提供ができるということを強みに参画しています。学生からの質問にメリット、デメリットをバランスよく説明し、進路選択の一助となるよう心がけています。

初めて参加した昨年度は、どのような場かということも理解しないまま徒

手空拳で出向きましたので、当方にも学生側にも戸惑いがあり、対面で話しをしてあげる機会は必ずしも多くありませんでした。

そこで今年度は、昨年度の反省を踏まえ、体制の充実を図りました。

一つは、関東支部としての活動から静薬学友会としての活動へのグレードアップです。しかも薬学部のご配慮により一等地に学友会ブースを用意してもらったことができました。

二つ目は、製薬企業の（営業）、（生産）、（薬事）、卸売販売業、薬局経営、病院薬剤師、公務員（行政）、医薬品医療機器総合機構（PMDA）という表札を作り、対応できる業種を明確にしたことです。しかも、それぞれに対応できる強力な布陣で対応することとしたのです。

例年より会場に來た学部・大学院生等が多かったこともあり、学友会ブースもひっきりなしに学生が立ち寄り、様々な質問、不安を投げかけてくれました。低学年の学生では、様々な先輩から色々と情報を得て、進路についてはこれからじっくり考えようというスタンスが感じられました。

一方、大学院生などで、既に殆ど進路を確定していて再確認のために話を聞きたいという方もいました。変わり種では、警察のような業務をしたいという女子学生もいて、麻薬取締官（拳銃を所持することもある仕事です）の経験がある安倍さんの話を興味津々で

聞いているという場面もありました。

今後、後輩たちの就職活動に少しでも役立つように工夫をしながら、本事業のお手伝いをしていきたいと思えます。

最後に、当日ご協力下さった岩崎年



対応したOB（後列向かって左が筆者）



賀川薬学部長挨拶



立て看板



説明風景①



説明風景②

史さん（S46卒）、安倍道治さん（S46卒）、長谷川隆一さん（S47卒）、越田晃さん（S59卒）、大澤勝一さん（S59卒）、中村和重さん（H04卒）に感謝して本稿を閉じます。

北陸支部

第4回北陸支部総会の報告

支部長 村松 郁延
(昭和44年卒)

平成27年6月28日、福井、石川、富山、新潟の4県で構成される北陸支部の第4回総会が、本部からの2名・支部会員11名の参加を得て、ホテルラングウッド新潟で開催されました。

総会では、門脇真支部長の挨拶、事務局からの会計報告の後、横倉輝男会長により新学長の紹介など大学の近況が報告されました。続いて、昨年、平野信三氏(昭和29年卒、福井市在住)が、旭日双光章を叙勲された慶事が事務局から報告されました。

総会後の講演会では、山田静雄・薬食研究推進センター特任教授による、「薬と食の相互理解による健康科学の実践」をテーマにした新しい医療薬学分野と今後の展望をお聞きしました。

懇親会は、寺田欽造氏(昭和42年卒)の乾杯後、一人一人の近況と在学当時を振り返った話題で盛り上がり、和やかな交流の場となりました。

次回は、二十八年度秋に、福井で開催予定です。

第4回静薬学友会北陸支部総会 議事録

日時…平成27年6月28日(日) 13時～
場所…ホテルラングウッド新潟

I 出欠状況…出席会員数13名

(本部から参加の横倉輝男会長、講師の山田静雄先生を含む)

II 議事…

1. 本部報告

横倉輝男静薬学友会会長から、県立大の新学長が決まったことと県立大および学友会の近況について報告があった。

2. 支部報告

門脇支部長から、平成25・26年の活動報告があった。

事務局から、以下の3名の会員について活動報告があった。

平野 信三氏 (昭和29年卒)

2014年11月 旭日双光章 叙勲

2012年2月 福井県保健衛生功労省

村松 郁延氏 (昭和44年卒)

2012年2月 福井県科学技術大賞 医学・生理学分野

山下 和夫氏 (昭和56年卒)

2012年12月 第2回発砲スチロールアイデア大賞

3. 役員の選出

規約に従い、平成27・28年度、2年間の役員を選出した。

北陸支部会支部長…村松 郁延

福井県副支部長…村松 郁延

石川県副支部長…門脇 真

新潟県副支部長…山下 和夫

事務及び会計担当役員…村松 郁延

監事(2名)…杉山朋美、村岡道夫

北陸支部事務局…福井県吉田郡永平寺町

松岡芝原3丁目18-3

4. 会計報告

事務局から平成25・26年度の会計報

告があり、承認された。

5. 次期支部総会の開催について

平成28年度秋季に福井市で開催することとした。

III 特別講演

静岡県立大学薬食研究推進センター長の山田静雄先生が「薬と食の相互理解による健康科学の実践」という題目で講演した。

懇親会 14時30分～16時30分

(同ホテルラングウッド新潟)



本部から横倉会長、講演会講師として山田静雄先生が参加



初めての新潟での開催となった



第4回静薬学友会北陸支部総会 H27.6.28 於 ホテルラングウッド新潟

静岡県支部

静岡県支部総会の報告

支部長 杉 井 邦 好

(昭和55年卒)

今年の1月25日(日)に静岡市葵区伝馬町のホテルシティオ静岡で静岡県支部総会を開催しました。総会には来賓として横倉会長、木苗学長をお招きし、約60人の会員に御参加いただきました。今年の総会にはできるだけ若い方々にも参加いただくよう声をかけをし、平成26年卒の杉山智啓君をはじめ、平成年代の卒業生も18人参加いただきました。総会後の講演会では、私が「危険ドラッグの現状と対策」、3月で御退官される木苗学長にこれまでの集大成といえる「健康長寿社会への挑戦と私の役割」について御講演をいただきました。

また、懇親会では、若い方から先輩までの幅広い年代での懇親を深めることができました。

なお、木苗学長は今年の5月から静岡県教育長に就任され、県議会でも教育に関する多くの質問が出て、答弁されるなど以前にも増してお忙しい日々を送られております。「現場で「見る、聞く、話す」の実践」を掲げられており、静岡県の教育が大きく変わるのではないかと期待しています。

今年は、徳川家康公薨去(こうきよ)四百年に当り、家康公が礎を築いた

「世界史上例をみない平和国家」で「究極の循環型社会」、また「文化の成熟期」でもあった徳川時代を再考し、その知恵を未来の日本、そして未来の世界へ発信するという「家康公四百年祭」が行われ、家康公ゆかりの地である静岡市・浜松市・岡崎市をはじめとする各地で12月まで様々なイベントが行われています。

ところで、家康公はどこに眠るのでしょうか。本当に日光東照宮でしょうか。

通説では「元和2年(1616)4月17日に死去した家康の遺骸は久能山東照宮の廟所へ埋葬、翌元和3年(1617)3月15日、家康の遺骨を納めた棺は金輿(きんよ)に移され久能山を出発、4月4日に日光に到着。墓所としての奥の院に安置され、盛大な遷宮の儀式が行われた。」とされています。

しかし、久能山東照宮の落合宮司は「家康公は今もここに眠っていると思っている」と話されています。「四角い棺(ひつぎ)の中に正装して座し、西を向いているはず。遺体を日光に運んだのなら、久能山に大きな墓を建てる必要はなかった」としています。

また、改葬を取り仕切った僧・天海が「あればある無ければなしと駿河なるくのなき神の宮うつしかな」という和歌を残していることもその証左だとしています。「くのなき」は「軀(く)々むくる」のなき」と読めるからだ

話されています。

久能山の神廟も日光の奥宮も、これまで発掘調査は行われていません。いずれにせよ、「御霊は久能山と日光にあり、人々を見守っているのは間違い



静岡駅前の徳川家康公之像



木苗学長の御講演



静岡駅前の竹千代君像



危険ドラッグの現状と対策の講演(筆者)

ない」と落合宮司は話されています。是非、この「家康公四百年祭」の機会に、国宝である久能山東照宮を訪れてみてはいかがででしょうか。

(次頁に集合写真掲載)



静岡県支部総会 H27.1.25 木苗学長、横倉会長を中央にして記念撮影 於 ホテルシティオ静岡

送金先一覧

代表者	団体名	地域
1. テイパック	Sindhuli Integrated Development Services (SIDS)	シンドリ郡
2. ビーナ	KOPILA-Nepal	ボカラ周辺
3. ナラヤン	Console Mission	カトマンズ周辺
4. レベッカ	Centre for Mental Health and Counseling (CMC-Nepal)	ヌワコット郡
5. ゴパール	Baudha Bahuniopati Family Welfare Project (BBP)	シンドバルチョーク郡
6. スダルシャン	Japan Study Center	シンドバルチョーク郡
7. ロシャニ	Nutrition Promotion & Censuitancy Services (NPCS)	ドラカ郡
8. イシュワリ	Women Act	カブレ郡

今年のAHIにおける研修には上記4、5番目の団体から1名づつ、ビシヌ・シャミムデワンさんは、精神疾患を持つ人への支援と地域での啓発活動に取り組んでいます。また、ビシヌマニ・ネパール、さんは、住民の発意による保健組合の設立、診療所運営に取り組んでいます。この2名が参加することになっています。例年、小生も彼らの研修と一緒に参加させてもらっています。

現在、小生はいくつかのボランティア活動をさせていただいています。それらの一つにアジア保健研修所(AHI)の活動があります。ここでは、毎年アジア各国のNGO所属

静薬学友会の会員の皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
今年度(2015年)の「静薬学友会東海支部大会」は、12月13日(日)午後1時より「ウインクあいち」(名古屋駅前)にて支部総会、薬剤師セミナーを開催します。また、セミナー終了後に、意見交換会(懇親会)も予定しています。会員の皆様のご参加をお願いしたいと思います。

東海支部

前支部長 石 原 廣 男

(昭和40年卒)

で草の根活動を行っている人達が参加、研修を行います。今年は9月～10月に、アジア8か国から13名の研修生たちが参加することになっています。

さて、今年(2015年)の4月25日にネパールにおいてマグニチュード7.8の大地震が発生、その後の5月12日にも再度大地震が発生しました。7月現在においてもまだ、余震等が続いています。被害はネパールのほぼ全土に及んでいます。現在、日本を含む各国の援助、支援も受けて、復旧が行われていますが、それらも、カトマンズ近郊に限られ、地方へは道路復旧もまだ進んでいない何日もかけて歩いて行かなければならない地域等が取り残されています。AHIでは元研修生の人達の活動している地域団体と連絡を取りとりあえずは義捐金の募集を行い、現在までに、元研修生たちの8団体に救援物資の提供等、総額\$45,000の支援を行いました。

中国支部

幹事 成光 正明

(昭和63年卒)

静薬卒業後30年近くが経過しようとしています。この間、静岡の地を訪れることもなく、お世話になった母校と諸先輩に不義理のまま現在に至っております。こんな私には寄稿する資格はないと思いますが、お叱りを承知で書かせて頂きます。

卒業後10年は、プロパーとして今のMRさんたちとは大きく異なる営業スタイルで、広島県の尾道・三原・竹原エリアの病医院を廻っていました。近隣の島々も担当エリアで、風光明媚な景色とゆとりとした島時間に誘われて、 unnecessary 営業をしに頻繁に渡島していました。

そんな折、(熱心な?訪問のお蔭か)大崎上島のDrから開局のお誘いを受けました。同時期に、会社からは東京転勤の辞令が下され、都会生活は嫌だという単純な理由だけで転職を決意しました。その後1年の薬剤師修行を経て開局し、現在に至っております。

大崎上島は、竹原沖にある、本土と橋で繋がっていない離島です。離島の現状は過疎地が抱える問題と同じで、高齢化による産業の衰退・人口減少の一途をたどっています。当薬局のレセプト件数の70%以上が後期高齢者で、社保は10%もありません。将来的に厳

しい経営環境にありますが、日々おじいさんやおばあさんと押し問答しながら調剤業務に励んでおります。

ここで、離島(過疎地)での都市部とは少し違った薬局事情を何点か紹介します。

①処方箋一枚当たりの薬剤量が多い…島内には整形外科・眼科・皮膚科・耳鼻科等の医療機関がなく、かかりつけの医院でそれらの領域の薬を一緒に処方してもらうため。

②一包化・粉砕が多い…介護にあたる家族やヘルパーさんからの要望が多いため。

③後発品が浸透しない…高齢の方に変更を勧めても理解してもらいにくい。また、Drの処方を勝手に変えては失礼だと遠慮するため。(1割負担なので変更してもさほど支払い金額が変わらないことも影響している。)

④午前に患者さんが集中する…お年寄りは朝が早いから昔から診察開始は8時で、医院の待合室は7時前から賑わう。(私の自宅は竹原にあり6時発の船で出勤している。)

⑤悪天候の日は患者さんが多い…患者さんには農業・漁業・造船従事者が多く、悪天候の日は仕事ができないため。

⑥天候によっては薬局に寝泊まりすることがある…台風や梅雨時期の濃霧で船が欠航するため。

⑦大潮前後は医院への救急搬入が多い

ような気がする。(あくまでもそんな気がするだけで、何の根拠もデータもありませんが…)

⑧隣島の薬剤師さんはマイボートで通勤していた。(その島には数年前に橋が架かり今はマイカー通勤されていますが…)

⑨漁師さんが支払いで出すお札は魚のにおいがする。(たまにですが…)

昨今、調剤をめぐる諸問題(薬歴不記載・無資格調剤など)がメディアに取り上げられ、医薬分業のあり方が問題視されています。患者さんからどう見られているかを常に意識し、謙虚な

姿勢で業務にあたりたいと思います。そして当たり前のことですが、離島であつても本土とかわることなく、島民の方々に納得・満足してもらえる調剤服薬サポートができればと考えています。

最後になりますが、後継者を探しております(3人の子供は違う方向へ進学・就職、そっぽをむかれました)。大崎上島はとてものどかなところで、竹原から船で30分足らずです。薬局は海のすぐそばにあり、2階の窓からは瀬戸内の島々・来島海峡大橋が見えます。興味ある方は是非一度遊びにお越しください。



のどかな大崎上島(広島)の風景

四国支部

四国鳴門 兼松病院で十二年

井上 千佳恵

(昭和63年卒)

兼松病院は、徳島県鳴門市の中心部に位置する、病院機能評価機構認定、救急指定の、手術からリハビリまで行う中堅病院です。院長の「医療に休みなし」の理念のもと、年間一日も休みなく営業しています。四国のお遍路道は四国鳴門から始まりますが、体調を崩したお遍路さんが当院に来院されることもあります。

最近では、チーム医療の推進や、医師、看護師の医療負担軽減、在宅医療推進などのために薬剤師が担う役割も増えています。86床の規模ですから、薬剤師の数も、常勤3名、非常勤1名での切り盛りです。カルテは手書きで、オーダーリングもありません。去年やつと印字付きの分包機を買っていただけるところです。そんな状況でも、機能評価認定を続け、D I、薬剤管理指導、医薬品管理、感染対策、褥瘡対策、地域の感染カンファレンス、医局会等の委員会への参加、訪問指導、院内研修や、一般の方向けの健康教室の講師をすることもあります。

中でも、私が一番恐れているのは、医療安全委員会の仕事です。病院ですから、医療安全や感染対策には厳しい。もっと偉い人や勤務の長い方の適任が



昨年12月の兼松病院レコードコンサートにて生演奏の様子
左が演奏中の筆者 歌の薬剤師八木順子さん

いるのですが、なぜか、薬剤師の私が委員長に任命されています。インシデント・アクシデントを集め、会を開くだけでなく、何かあれば、看護部やリハビリなど他部署の方にもあれこれ言わなければならず、これがいろいろと難しい。もう、できることしかできないと開き直っています。

兼松病院は、憩う時間もあります。月に1回、院長の趣味で、レコードコンサートが開かれています。私は、ソプラノを歌う薬剤師さんと組み、年に2回ほどコンサートの中でピアノを演奏させていただいています。

近くにお越しの際は、ぜひ、兼松病院薬剤部までお立ち寄りください。

静薬学友会ホームページをご活用ください

静薬学友会ではホームページを通して会員の皆様にさまざまなご案内をしています。

会員の皆様、ぜひホームページをご覧ください、ご活用ください。

☆掲載記事☆ (自由に閲覧いただけます)

各種会合、講演会のご案内、求人情報、静薬学友会の活動、母校の動き など

☆マイページ☆ (会員専用ページです。ログインには会員ID/パスワードが必要です)

1. 個人情報の確認と変更：学友会に登録しているご自身の情報を確認、修正できます
2. 年会費・各種お申込みの受付：年会費の納入や講演会などへの参加登録ができます
3. お申込み・ご入金の確認：各種会合への申込み・入金履歴が参照できます
4. 同窓生の検索・閲覧：会員の住所等を調べることができます
5. その他、事務局への依頼・連絡や、パスワードの変更など

※掲載してほしい記事がある、自らコラムを書きたい、求人情報を載せたい、そういった方は事務局までお問い合わせください。

※メールアドレスをお持ちの方はぜひアドレスを静薬学友会にご登録ください。同窓会、同門会、支部会、講演会等のご案内メールをお送りいたします。

静薬学友会ホームページアドレス <http://www.shizuyaku.jp>
問い合わせ先

静岡県立大学薬学部同窓会 (静薬学友会)

〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1 静岡県立大学薬学部内

TEL 054-265-8763 FAX 054-265-8769

(10:00~15:00以外は留守番電話での対応とさせていただきます)

Eメール shizuyak@u-shizuoka-ken.ac.jp

会員だより

卒後50年

静岡薬科大学9回生同期会

宮城島 利 一

(昭和40年卒)

東海道新幹線が開通し、東京オリンピックが開催された1963年は、私たち静薬大9回生の4年生の時でした。この1960年代半ばは、製薬企業は研究所を新設し研究開発に本格的に取り組み、また営業を強化して行く時でした。躍進する日本、そして近代的な製薬企業へ発展していく時代に羽ばたいてから50年、私たち9回生は2015年5月18日に同期会を開催しました。場所は2020年の東京オリンピックの主競技場が集まる東京お台場の「ホテル日航東京」です。遠くは広島県から3名が参加し総勢33名です。

当日午後、ゆりかもめ・新橋駅に集合し、潮入の池と鴨場をもつ江戸時代の大名庭園である浜離宮恩賜庭園の散策からスタートしました。

ホテルでの同期会は、同級生・木苗直秀さんが静岡県立大学学長を6年間務め本年3月をもって任期を全うされましたので、まず、母校にご尽力された木苗さんへの感謝から始まりました。

乾杯の音頭は、もちろん同級生の横倉輝男・静薬学友会会長です。

参加者が近況を報告しはじめ、宴が盛り上がった時、静岡・小鹿で学びそして遊んだ日々がつい昨日のことにように思い浮かんできました。私は現在、東京理科大学薬学部で若い学生を教え、また一緒に遊んだりしておりますが、もし、私たち9回生が50年後の今、「薬学部の学生だったら、どのような学生だろうか?」とふと頭の中をよぎり、若者と高齢者そして50年前と現在が交互に駆け巡りました。

あつという間に3時間が過ぎ、最後に「静岡県立大学の校章と静岡薬科大学名入りのクッキー」がホテルからプレゼントされました。2次会は、レインボーブリッジ、東京タワー、遠くに東京スカイツリーを見ながらホテ

ルから移動し、若者に人気のエスニックレストランで行い、学生時代の思い出話にさらに盛り上がりました。

翌日は、水上バスに乗り色や形の違う12の橋をくぐって隅田川を上り、東京スカイツリーの450m展望回廊に登り空中散歩して東京の眺望を楽しみ、そして外国人で賑わう浅草寺と浅草神社をお参りして解散しました。

いつの間にか私たちも古希を過ぎ、来し方を思い、行く末を気にする年になりましたが、日々の雑事は忘れて青春時代に戻り楽しいひと時を過ごした同期会でした。



静岡薬科大学9回生同期会 H27.5.18 於 ホテル日航東京

第20回(2015年)

植物研究部OB会活動報告

新潟県佐渡 植物観察会

石 原 廣 男

(昭和40年卒)

第20回植物研究部OB会が2015年5月9日(土)、10日(日)、11日(月)に新潟県佐渡にて植物観察会として開催された。幹事として北村久代(昭和43年卒)、越智寿美子(昭和43年卒)の両名にお世話になった。参加者は20名であった。今回は、斎木先生が不参加ということとでさびしくなるかなと思っていたが、多くの皆さんが発する静岡駅の新幹線プラットホームまで奥様と一緒に我々を見送りに来られた。今年(2015年)の3月に斎木先生のご長女、山崎佳代子さん(ベオグラードセルビア在住)の著書「ベオグラード日誌」が読売文学賞を授賞され、お祝いを申し上げたところ、大変お喜びの様子であった。

我々は、新幹線にて東京駅まで行き、次いで上越新幹線にて新潟駅へ到着。新潟港より、ジェットホイルにて佐渡市両津港着、荷物は、宿泊予定の吉田屋旅館へ置き、アオネバ溪谷へ向かった。溪谷を登るにつれて、ニリンソウ、ヒトリシズカ、シヨウジョウバカマ、カタクリ、シラネアオイ、エゾエンゴサク、キクザキイチゲ、ミヤマカタバミ、シユンラン、フクジュソウ、ミヤマケマン、オオイワカガミ、エンレ

イソウ等が観察された。シラネアオイのきれいなお花がいくつも見られるようになったところまででこの日は戻ることとした。さらに上へ登るにつれてシラネアオイの大群落がみられるとのことで明日のお楽しみとした。

翌日(10日)は、タクシーにて、佐渡の稜線近く、ドンデン山荘(標高約760米)まで行き、そこから、グループに分かれて、アオネバ溪谷、最高峰の金北山(1172米)、尻立山(934米)通称・ドンデン山、ドンデン池周辺、を散策した。ドンデン高原からの眺望は、島のとんどを眼下におさめ、素晴らしい眺めを堪能した。ただしドンデン山では日本海側から本州側への島を通り抜ける強風にあおられて、吹き飛ばされそうな勢いであった。

ヤマザクラ、オオヤマザクラ、カスミザクラ、アラゲヒヨウタンボク、オオカメノキ、タムシバ、キジムシロ、ミズバショウ、ザゼンソウ、アマナ等が観察された、また、シラネアオイ、カタクリの大群落は見事であった。

3日目(11日)は、タクシーにて、大佐渡スカイラインへ行き、ここでも佐渡の代表的な植物が観察された。また、相川の金山跡、また、尖閣湾の景色を楽しんだ。一部の人はトキの森公園を楽しんできた。

今回の佐渡ではまずまずの天候に恵まれ、島の景色も楽しむことができた。佐渡の植物群は予想以上に見事であった。また来年の再会が楽しみである。



平成27年(2015年)5月10日 植物研究部OB会・新潟県佐渡市加茂湖畔にて



参加者名…伏見喜代子、上野千枝子、岡鐵雄、河村信弘、河村基子、新邦夫、秋山喜彦、石原廣男、沼田洋、若宮忠弘、長谷川米子、美崎英生、美崎陽子、北村久代、越智寿美子、山田幸子、桑山雅恵、宮瀬敏男、久保田美恵子、山本康代

(敬称略)

大学だより

退任に際して

ご挨拶



静岡県教育委員会教育長
静岡県立大学 前学長

木苗 直 秀
(昭和40年卒)

静薬学友会の皆様には、お元気で御活躍のことと存じます。さて、私は平成27年3月末日に静岡県立大学の学長を退任いたしました。

静岡薬科大学では学部生、大学院生として9年間、教員として17年間を過ごし、その後、改組・統合されて設立された静岡県立大学では、新設の食品栄養科学部に移籍し、教員として22年間勤務しました。この間、学生部長、学部長、大学院研究科長、副学長を務めさせて頂きました。その後、平成21

年3月に第5代学長を拝命し、6年余りを「個を拓（みが）き、強い絆で知を発信」をキャッチフレーズとして、350余名の教職員とともに教育、研究、社会貢献等を推進してきました。

今、振り返ってみますと、昭和36年4月から本年3月まで、実に54年間にわたり、静岡薬科大学と静岡県立大学にお世話になりました。この間に、多くの学生達と接することが出来ました。特に準硬式野球部員とは、30年近く顧問としておつきあい頂けたことが思い出となっております。卒業生、教職員の皆様には大変お世話になりました。ここに厚く御礼申し上げます。

さて、川勝平太静岡県知事から静岡県教育委員会・教育長のお話があり、本年5月21日に就任いたしました。大学での生活とは一変した毎日を過ごしております。現在、私は薬学や食品栄養科学に関する研究活動はしておりませんが、40万人の小中高生、2万5千人の教職員が心身ともに健やかに活動されることをめざして、仲間達と日々を過ごしております。教育委員会は、小学生、中学生、高校生の教育活動を中心としておりますが、保育園や幼稚園との接続や、大学・大学院との連携など日々、多くの事業を展開しております。小生は「見て、聞いて、話すこと」すなわち、現場主義に徹しております。就任から約2ヶ月の間で既に小学校、中学校、高等学校、特別支援学校など十数校を訪問し、生徒・児童や保護者、PTA役員、教員とも意見交換しております。

我が国では、少子高齢化、人口減少、都市部への一極集中などが社会問題となっており、地方創生や「まち・ひと・しごと」創生総合戦略が展開されております。一方、教育界におきましては「いじめ」や不登校、経済格差の教育への影響などが大きな社会問題となっております。国策としてグローバル人材の育成のための英語力の強化や

学力テストの公表の在り方、さらに道徳教育の推進、大学入試の改革など、ゆとり教育からの脱皮が急速に進んでおります。学友会の皆様におきまして、お子様やお孫様との関わり合いの中で、これらの話題が出ているのではないのでしょうか。

静薬学友会は、平成28年には、女子薬専時代から数えて100年の節目を迎えることから、盛大な記念式典等を開催することになっております。会員の皆様には、本事業への御協力をお願いするとともに、式典当日にお目にかかれることを楽しみにしております。末筆ながら、学友会員の皆様の益々の御活躍と御多幸をお祈り申し上げます。



退任に際して

素晴らしき学生にめぐまれて



身体運動科学分野 客員教授
身体運動科学分野 前教授

大石 哲夫

思えば昭和48年2月某日、薬科大学のすぐ脇の、故石坂先生のお宅を訪ねていました。

当時、何とか入県試験を突破していた私は、4月から始まる高校での体育教師に夢ふくらませ、「生徒を花園ラグビー場へ連れて行くぞ」と意気込んでいました。

何度かお誘いを受けていた大学教員への道を、直接お会いしてお断りするはずでした。

「お願いします！」

話し終え、玄関の戸を閉める時、石坂先生の暖かい人柄に触れた私は、体育の助手（助教）への道を決めていました。

後日、その突然の進路変更を、高校

教師の諸先輩方から随分とお叱りを受けたことを思い出します。しかし、42

年間という大学での教員生活、多彩な実にたくさん素晴らしい学生達と接することができ、この時の決定がなかったならば、これほど素晴らしい人生を送ることはできなかったと確信しております。

就職当初、歳が変わらない学生と、朝に昼に夜に、一緒になって動き回っておりませんでした。

薬学という研究分野にない「Play」遊びをテーマに掲げていた私の周りは、いつしか限られた時間を積極的に楽しもうとする元気な仲間に囲まれていました。

部活動、大会、スキー、キャンプ、コンパ……、びっしり詰まったカリキュラムの中、彼らは、実に集中して、

一生懸命に時間を楽しみました。勿論、私自身も彼らに遅れをとることはありませんでした。

一生懸命遊ぼうとする彼らは、一生懸命勉強しないと本当に楽しめないことを知っていました。卒業後の社会での活躍ぶりが、無言の内に学生時代の頑張り方（楽しみ方）を私に教えてくれました。

「一生懸命遊ばなければだめだ！」
何ともおこられそうな言葉ですが、何時しか私の持論となっていました。

運動神経の良し悪しに関わらず、トレーニング結果は正直であり、自らを映す貴重な鏡となります。

継続した努力は必ず人に変化をもたらす、それを自覚した時、人は大きく変わります。一見しただけの判断からはとても想像し得ない素晴らしい世界を創造していきます。

自分の持つスポーツの世界で、どう指導すれば、どう環境をつくれば、幸せな人生を志向するエネルギーを持つ学生となるのか、やりがいのある難しい命題に教員生活の大半を費やしてきたと思っております。

単なる技術指導ではなく、学生と互いに顔の見える関係を作ることから始め、仮面の下に潜む、頑張ろうとする

彼らの気持をどう引き出せるか、時間のかかる作業でした。

継続をしてもらうためには、スポーツすることの楽しさ、面白さを見つけてもらわないと、単なる頑張る修行となってしまう。

「面白い！」

「わくわくする！」

この世界を持つことは、様々な困難な状況を打ち破る強い行動力を持つこととなります。

学生時代、つらい部分と楽しい部分に分けるなら、間違いなく私は楽しい部分を担当しておりました。それなら思いっきり楽しめる世界をどう提供できるか、この命題を求め続けることが、自分にしかできない役割であり、大きな意味があると考え続けてきました。

社会で活躍中のOB諸兄の皆様方、様々なご教示、本当にありがとうございます。

薬学部、現役学生は潜在能力の高い者ばかりです。今後もあらゆる分野で、自ら志向し、自分を研磨する機会に積極的にチャレンジしていくよう期待をしております。

最後に、静岡県立大学の益々の発展を祈願しまして、ご挨拶とさせていただきます。

新任挨拶

活力ある総合大学に赴任して

身体運動科学分野

准教授 窪田辰政



平成27年4月1日より大石哲夫先生の後任として、身体運動科学分野を担当することになりました、窪田辰政と申します。科目は、身体運動科学、ライフスポーツなどを担当しております。前任校の静岡産業大学では、勉学に自信の持てない学生への教育支援に努め、経営感覚を身に付けた保健体育科教員や社会体育指導者の養成にも尽力してきました。その他の経歴の詳細は本学HPをご覧ください。

私の専門は健康管理学や健康運動心理学などです。この専門分野の観点から、健康の維持・増進を計り、社会環境との良好な関係を構築する上で必要

な知識やスキルの習得、運動実践による心理的効果などについて研究・教育をしていきます。また、授業では体育を一つのツールとして、学生の自分に對する自信やライフスキルを身に付けられるような実践をしていきたいと思っています。そのため、授業の中で意識していることは、学生間の活発な交流を促すこと、また学生に自信を持って授業に参加できる「安全な空間」の提供などの心理的サポートです。「安全な空間」とは失敗をしても学生同士が励まし合い、成功すれば一緒に喜び合える安心した空間のことです。この教育を主軸として学生の自信を育む教育を行っていききたいと考えています。

今後は、自身のテニス経験を活かし、部の監督・指導など課外活動にも取り組み、競技団体等の要望にも対処していきたいながら学内の活性化に貢献できたいと思います。さらに、学内外問わず、学生が自発的に成長する力を習得できるように教育的サポートに尽力していきたいと思っています。

今後ともご支援とご指導を賜りますようお願いいたします。

自己紹介ならびに
静岡県立大学での抱負について

実践薬学分野

講師 柏倉康治

(平成26年修了)



2014年9月より実践薬学分野の講師としてお世話になっております、柏倉康治(かしわぐら やすはる)と申します。

私は山形県で生まれ育ち、昭和大学薬学部を卒業後、千葉県にありますが亀田総合病院の薬剤部で仕事をしています。静岡県とは無縁でしたが、転機が訪れたのは2010年に当時上司であった佐々木薬剤部長が当教室の客員教授に着任したことでした。2011年4月より静岡県立大学に社会人枠として入学し、並木教授のご指導の下、

2014年3月に博士課程を修了することができました。さらにご縁があって、こちらに勤務できることになり、とても嬉しく思っています。

医療現場での薬剤師の関わる領域は拡大し、薬剤師は調剤業務のみならず、患者に最適な薬物療法を提供しています。そこではエビデンスをもとにした医療を行うことはもちろんのこと、現場で貢献できる問題解決能力や患者を思う優れた人間性が必要と考えています。10年間の臨床現場での知識と経験をもとに、本学では臨床現場で活躍できる人材育成に努めていきたいと考えています。

今後とも皆様のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



雄大な富士山のもと、 静岡に赴任して

生体機能分子分析学分野

助教 水野 初



今年4月より生体機能分子分析分野の助教として赴任いたしました、水野初です。主に質量分析を用いた生体分子分析、メタボロミクスやプロテオミクスにおける新規分析法の開発を中心に研究を行っております。以前の職場では「研究員」という研究だけをやっていれば良い身分でしたが、ここでは「教員」へと変わり、研究以外に講義や実習など慣れないことばかりで悪戦苦闘しておりますが、薬剤師や企業に就職した後も厳しい競争社会を生き抜いていける優秀な卒業生を輩出

るため、試行錯誤しながら努力していく所存です。

さて、長らく西日本から出たことのない私や家族にとって、静岡は未知の地であるとともに、初めての関東（と言っているのかわかりませんが）ということでもかなり心配でしたが、実際に引越してきたときの印象は、富士山・お茶・次郎長：まさに「ちびまるこちゃん」の世界そのままであり、とても親近感を持ちました。今ではすっかり静岡ライフを楽しんでおります。もう一つ最近の楽しみは、毎朝出勤したときに大学の駐車場から富士山を見ることがあります。なかなか姿を現してくれる日は少ないですが、雄大な富士山を見た日は何となく良いことがあります。研究でも綺麗なデータを検出できるように（こちらも中々姿を現しません）頑張りたいと思っております。まだまだ慣れないことばかりですが、今後ともご指導、ご鞭撻のほどをどうぞよろしくお願い致します。

新任のご挨拶

衛生分子毒性学分野

助教 保坂 卓臣
(平成18年卒)



少し寂しい気持ちもありますが、今後は昨年4月に着任された吉成教授の下、これまでの伝統を引き継ぎつつ、新たな研究室を作り上げていきたいと考えています。

衛生薬学は生物学・化学・物理学を基盤とする実学の一種であり、人々の健康維持・向上を目的とする国の保健行政の基礎となっています。また、医療機関や製薬関連企業、行政機関など多方面で活躍が期待される薬学部卒業生にとって、衛生薬学で学ぶ内容はこれら分野の違いにかかわらず重要です。本学薬学部において、このように重要な学問を担当する唯一の研究室の一員として、強い責任感と使命感を持って教育・研究に尽力したいと考えています。

静薬学友会の皆様には今後ともご指導、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成27年2月1日付けで衛生分子毒性学分野の助教に着任いたしました。私は薬学部入学から博士課程修了までの9年間に渡り静岡県立大学にお世話になりました。また、衛生分子毒性学分野は私の出身研究室でもあります。このたび母校の出身研究室に教員として戻って来られたこと、そして再び静岡で暮らせることを大変うれしく思っております。私が学生として当研究室に在籍していた時の先生方は皆、他大

学にご栄転またはご退任されてしまい、

母校の教員に採用されて

免疫微生物学分野

助教 中西 勝 宏

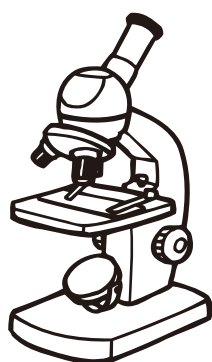
(平成21年卒)



本年4月1日付で免疫微生物学分野の助教に就任しました中西 勝宏(なかにし かつひろ)です。静薬学友会の皆様にはこの場を借りてご挨拶申し上げます。

平成17年に本学薬学部へ入学した私がこのたび教員として採用され、後輩たちの指導にあたる立場となったことに喜びを感じています。しかし同時に卒業生の皆様が作った伝統を在学生たちに伝えていかなければならないという責任も感じています。

私は学生時代から免疫微生物学分野



に所属し、現教授の今井先生を始めとした先生方の指導の下、植物抗体の研究を進めてまいりました。この研究は、腸管出血性大腸菌のような粘膜に対する感染症の治療に有用な抗体を発現し、経口摂取により疾患の治療ができる植物の開発研究で、本学食品栄養科学部との共同研究です。近年、チーム医療や分野横断型研究のように臨床、研究の両方において他分野との連携が重要視されています。後輩たちが薬学の専門知識に加えて、共同研究を通してバックグラウンドの違う人たちと連携できる力を身につける手助けをしていきたいと考えています。静薬学友会の皆様におかれましては今後ともご指導ご鞭撻賜りますようよろしくお願い申し上げます。

生物統計学を広める為、
初めての一人暮らしの地は静岡

医薬品情報解析学分野

講師 川崎 洋 平



2015年4月1日より医薬品情報解析学分野に講師として着任し、4ヶ月が経ちました。静薬学友会の皆様はこの場をお借りしてご挨拶申し上げます。

私は、2007年4月に三菱ウェルファーマに入社し、PMDAやFDAへの新薬申請を経験したのち、臨床研究全般に携わりたく2013年からは国立国際医療研究センターで生物統計家として働き始めました。しかしながら、急なトップダウンで副データセンタ―長に昇格してしまい、仕事はマ

ネージメントがメインとなり、研究マインドが強い私としては、翌年東京理科大学理学部数学科に異動いたしました。

私の専門は生物統計学及び数学であります。生物統計学とは、医薬・医学分野におけるあらゆる諸問題を分析するための統計科学の理論や応用を研究する学問です。つまり、医薬・医学の分野と同じだけ非常に幅広い領域におけるあらゆる統計学的な問題に取り組んでいます。

薬学部の学生の皆さんには、統計学は面白いと思ってもらえるよう、頑張りたいと思います。今後とも皆様方の温かいご支援、ご指導を賜りますようお願いいたします。

在学生だより

部活動を通じて

安部 友涼
(薬学部二年)

私は1年生の4月から陸上部に所属し、現在も週4回のペースで練習に参加しています。陸上競技というのは「スピード・体力の限界に挑戦するスポーツ」ということで、チームメイトとの切磋琢磨が競技力向上につながります。この大学の陸上部はまだ創部して4年しか経っておらず、規模としてもそれほど大きくはありません。しかし、私と同じ長距離ブロックを専門とする同級生は2人もいます。この2人の存在が、私の競技生活の支えとなっています。

先日、静岡県選手権という大会がありました。非常にレベルの高い大会でありましたが、出場資格のあった県大陸上部の選手の半分を超える6人が上位の東海選手権の出場資格を得ることが出来ました。県大の勢いを感じさせる大会であったと思います。この時も、やはり力になったのは、チームメイトの応援・サポートでした。試合に出場できなかった多くのチームメイトやOBの方が、選手のケアをしてくれたり、応援をしてくれました。試合中、前を走る選手につけなくなりそうになった

時、「ファイト!」の声が耳に飛び込んできました。このたった一言でも私が進める原動力になりました。日頃の学校生活においても、同じことが言えます。周りの友達と教えあつて協力することで、多くの履修内容を理解することが出来ています。自分一人の力だけではなく、色々な人と協力し、互いに足りないところを補うことによって、さらなる学力・競技力向上を目指していきたいと思っています。



陸上部の仲間と
下から4列目左から2番目が本人

病院実務実習を通して学んだこと

細川 奈緒
(薬学部六年)



県大薬学部での生活も早いもので6年目になります。今までの学生生活の中で特に印象に残っている5年時に行った病院実務実習についてお話ししたいと思います。

病棟薬剤管理指導で私はインスリン導入目的で入院されてきた糖尿病の患者さんを担当させていただきました。インスリン自己注射と自己血糖測定の指導も経験させていただきました。

この患者さんは糖尿病性神経障害も発症されており、入院前より神経障害の薬剤も服用していましたが、入院中に処方の変更されました。しかし、実習生の私には処方意図を理解することができませんでした。そこで医師に伺ってみたところ、薬剤の使い分けについて丁寧に教えてくださり、処方変更の理由についても納得することができました。直接伺ってみたいと分からないことも多く、医療従事者間の連携

が患者さんにより良い医療を提供する上で必要であるということ強く感じました。

またその際に、単に質問するだけでなく自分なりにどのような処方適切であるかを考えることに大きな意味がある、という指導薬剤師の先生の言葉が印象に残っています。処方を考えるために疾患や治療薬について必死に調べ、その中で得る知識も非常に多く有意義な時間を過ごしました。

その後、患者さんは退院され、実習最終日に外来で来院された際には直接お薬をお渡しすることができました。その時の笑顔でお話ししてくださった元気そうな患者さんの姿は、今でも忘れられません。実習中で最も嬉しかった出来事でした。このような貴重な経験ができたことを誇らしく思うとともに、実習でお世話になった方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

研究生生活を振り返って

生体機能分子分析学講座 中野達基

(薬食生命科学総合学府 博士前期課程二年)



研究に専念したいという思いから大学院に進学し、早くも一年が経ちました。お世話になった先輩方は卒業し、気がついたときには、私は最高学年となっていました。配属当初は、手取り足取り教えてもらっていたのが、今では教える立場になっていることに驚きを感じています。私は4年時から本大学の生体機能分子分析学講座で研究を行ってきました。本研究室は、血液、尿などの生体試料に存在する、超微量物質のような見えないものを「見える化」する分析法開発を目的としています。私は、自分の研究を多くのの人に知ってもらいたいという思いから、論文投稿、学会発表を目標にして、昼夜を問わず積極的に研究に取り組んできました。私の研究は所属ラボのノウハウだけでは実現困難なものもあり、そういう場合は、他分野のラボに通うことで専門にとらわれず知識や技術を修得してきました。更に、共同研究先

の企業や先生方と積極的にディスカッションすることを心がけ、視野を広げて考察する力を身に付けてきました。そしてこれらの努力を先生方にも認めていただき、同時に3つの研究テーマを任されるまでになりました。苦悩の多い毎日ですが、一歩前進することの充実感を糧に粘り強く研究し、第135会日本薬学会では優秀発表賞を受賞することができました。このように研究者として評価されたことに充実感を感じ、同時に、自分の研究をさらにレベルアップしていきたいという情熱を抱きました。就職活動が後ろ倒しとなって思うように実験ができない時期が続いていますが、残り少ない研究室での時間を大切にして、悔いが残らないように、今しかできないことを精一杯の力で取り組んでいきたいと思っています。

これまでの研究とこれからの目標

医薬品創製化学講座 井出貴文

(薬食生命科学総合学府 博士後期課程一年)

今年の四月から博士後期課程の一年生となり、四年目の研究室生活を迎えることになりました。私が所属している医薬品創製化学教室は、学生のことを親身になって考えてくださる三名の先生、優しい秘書さん、面倒見の良い二名の先輩、個性あふれる楽しい十六人の後輩たち、そして自分を含めた二十三名で構成されており、充実した研究室生活を送っています。

私は、これまでフッ素に関する研究を行ってきました。医薬品や農薬などの生物活性化合物にフッ素を導入すると、効能が上がる、または副作用が低減するなど優れた効果が発現することがあります。そのためフッ素官能基は医薬品開発において重要であり、有機化合物に効率的にフッ素を導入できる反応が求められてきました。

修士過程一年時から現在のフッ素に関する研究を開始しました。始めの一年間は望みの結果を得ることができず悩みましたが、少しでも研究を進めるために、実験と考察を続けました。また、先生からの確かな助言を頂くことで研究は少しずつ進展し、修士二年時には論文投稿の機会に恵まれました。さらに、得られた成果を学会で発表し、

発表賞を頂くこともできました。博士後期課程は、これまで以上に研究に没頭し、より困難な課題に挑戦したいと思います。また、他分野の研究にも興味を持ち、積極的に知識を蓄えることで多角的に思考できる研究者を目指していきます。

最後に、長い学生生活を認めてくれた両親に深く感謝し、残りの二年半も自己の研鑽に励みたいと思います。



友人とともに 右上が本人



東出福司先生のご逝去を悼んで

創剤科学分野 前准教授 宮城島 惇 夫

(昭和46年卒)

静岡薬科大学名誉教授、東出福司先生が平成27年4月22日、享年94歳で天寿を全うしてご逝去されましたことをご報告申し上げます。中村好志氏(相山女学園大学・教授)からの突然の悲報に驚きと悲しみに堪えません。教授の生前の希望で親族のみで会葬が行われました。門下生の大部分の者や大学関係者への連絡も充分に行われず、お怒りの方も多数いると思いますが故人の意向をくみまして、この場合は私の独断でそのようにしました。不満を感じた人は私を責めて、教授には安らかな気持ちで旅立つように祈って下さい。

東出先生は当時では数少ない製薬メーカー以外の企業出身者(東芝)であります。静岡薬科大学の初代学長の鶴飼学長の推薦で静岡薬科大学の製薬学科創設時の薬品製造工学講座の立ち上げをするために奉職しました。先生が赴任した時の研究室は製剤機械も全くなく、工学的な研究が出来る状態ではありませんでした。それまでの先生の専門は高分子化学と界面化学分野で

あり、最初に着手したのが医薬品のDS分野にとって最も重要な薬物の膜透過性を足がかりにして次第に一步步一歩確実に展開してゆきました。

まず、水分や酸素の高分子膜の透過性や高分子膜へのイオン透過性のような基礎的膜透過特性から出発し、医薬品のコーティング膜への透過性へと進めてゆきました。

先生の薬品製造工学への一途な探求心は門下生が脈々と引き継いで行った結果、大学内に製剤機械を納めた製剤棟を配し、現在では製剤機械の保有状態と研究は全国の大学と比較しても屈指のものとなりました。

東出教授はわれわれ凡人とは頭脳の造りが違うような面が多々ありました。研究においても、鋭い着眼点の違いに驚かされました。常に多くのものに興味を示し、一度気になると、それを確かめずにはいられなくなります。このようなことが研究以外の方向にも向かってしまう時には周りにいる我々にとっては悩みの種でもありました。先

生ほど純真無垢な人には会ったことはありません。研究でも一般常識に縛られない面があり、他人の文献より自分の実験結果を大切にし、その違いを検証しなさいとご指導されていました。

先生の退職後のトピックスは文化勲章を受章したことです。叙勲直後の来静の際には、多くの門下生の前で勲章を見せ、今まで見たことのないような笑みを浮かべていました。東出教授が用事で来静の折には急な連絡でも東京から大阪に至る多くの門下生が30人はゆうに超すものが集結したものでした。

東出教授は定年退官後の進路については生まれ故郷の北海道に帰り、社会への奉仕をしながら暮らしたいと我々が引き留めるのも振り払い、静岡の家や土地を処分して若者のように胸を膨らませて出発して行きました。ところが、この話も数年後には仕事が無くなり七飯へ移住し、さらに最後の転居となりました函館に移り住みました。ところが、数年前から目や足の衰えが激しくなり、自分ひとりでは駅の標識も

読めなく遠出ができなくなっていました。静岡にも行くことができそうにないと電話で言っていました。そのとき、今度は函館で会いたいですねと返事をしました。ところがその約束を果たす前に訃報が飛び込んできました。もっと早く行動しなかったことが悔やまれます。

最後に、東出先生が立ち上げた薬品製造工学講座の現在は創剤科学分野と名称は変わりましたが、先生の意志を引き継いで躍進し、四代目の板井教授のもと薬学部屈指の研究室になっています。どうぞ、心安らかに旅立って下さいますようお願いします。



昭和60年当時の薬品製造工学教室のメンバー 中央が東出先生、右端が筆者

大学院学位論文

平成26年度 大学院薬学研究科 博士後期課程 秋

氏 名	所属研究室	論文題目 (和文)	論文題目 (英文)
福島 圭穰	生化学講座	ヒトパラインフルエンザウイルスのスパイク糖タンパク質の機能解析	Functional analysis of human parainfluenza virus spike glycoproteins
河野 博樹	医薬生命化学	新規サバイビン発現抑制剤YM155封入リポソームの体内動態および抗腫瘍効果	Antitumor efficacy and biodistribution of liposomal YM155, a novel small-molecule survivin suppressant
赤代 宏介	医薬生命化学	薬物動態シミュレーションに基づく新規サバイビン発現抑制剤YM155のリポソーム製剤設計	Formulation design of liposomal YM155, a novel small-molecule survivin suppressant, based on pharmacokinetic modeling and simulation
Jantana Yahufai	医薬生命化学	Effect of PEGylated liposomes encapsulating doxorubicin on immunosurveillance	Effect of PEGylated liposomes encapsulating doxorubicin on immunosurveillance
宮西 秀雄	創剤工学	インバースガスクロマトグラフィーを用いたニフェジピン固体分散体表面における再結晶化の評価	Evaluation of crystallization behavior on the surface of nifedipine solid dispersion power using inverse gas chromatography
松井 良幹	実践薬学	患者のアドヒアランス向上をめざした口腔内崩壊錠ならびに経皮吸収型製剤の研究	Orally Disintegrating Tablet and Transdermal Formulations for Enhancing Adherence of Patients

平成26年度 薬食生命科学総合学府 博士前期課程

氏 名	所属研究室	論文題目 (和文)	論文題目 (英文)
大内 仁志	医薬品製造化学	アクロメリン酸A, Bの全合成	Total Syntheses of Acromelic Acids A and B
田添 唯	臨床薬効解析学	関節リウマチにおけるメトトレキサートの個別化療法を指向した遺伝子および薬物動態解析	Genetic and pharmacokinetic analyses of rheumatoid arthritis patients for personalized methotrexate therapy
木村晋一郎	実践薬学	口腔内崩壊錠の服用性改善をめざした含有粒子の評価と最適化に関する研究	Evaluation and optimization of particle design aimed at improvement of palatability of orally disintegrating tablets
平岡 祥吾	実践薬学	精神疾患患者の受療意識向上を目指したアリピプラゾールの新規製剤開発に関する研究	Development of novel formulation of aripiprazole to enhance adherence of psychiatric patients
石川 格靖	生薬学	糸状菌由来キノロンアルカロイド 4'-methoxyviridicatin の生合成研究	Biosynthetic Study of Fungal Quinolone Alkaloid 4'-methoxyviridicatin
坪井康一郎	免疫微生物学	組織特異的遺伝子欠損マウスを用いた免疫恒常性の維持と破綻に関する研究	Immune homeostasis and dysregulation in tissue-specific conditional knockout mice

平成26年度 大学院薬学研究科 博士後期課程

氏 名	所属研究室	論文題目 (和文)	論文題目 (英文)
石井 卓也	臨床薬剤学	アキノアルキルメタクリレートコポリマーによるサバイビン発現抑制剤sepantronium bromide (YM155) の経口吸収性改善	Oral absorption improvement of sepantronium bromide (YM155), a survivin suppressant, by aminoalkyl methacrylate copolymer
長島 輝芳	生命物理化学	ホスホリパーゼCを用いたリン脂質単分子膜の物性研究	Study of physical properties of phospholipid monolayers using phospholipase C

静岡薬科大学・衛生化学教室、静岡県立大学・衛生分子毒性学分野

開設60周年記念祝賀会

関本 征史

(平成11年修了)

学友会員のみなさまには、ご健勝のこととお喜び申し上げます。昨秋行われた衛生化学教室開設60周年記念祝賀会についてご紹介させて頂こうと思います。

1953年(昭和28年)4月、静岡薬科大学に産声をあげた衛生化学教室は、静岡県立大学薬学部衛生分子毒性学教室として名称を変えながら、昨年度開設60周年を迎えました。そこで、同門である山本敏博先生(1967年卒、聖隷福祉事業団理事長)に音頭を取って頂き、昨年の11月2日(日)にクーポール会館にて、創立60周年記念祝賀会を開催致しました。会には、二代目教授の富田勲先生、昨年御退官された三代目教授の出川雅邦先生、さらに、昨年四月より四代目教授としてご着任された吉成浩一先生をお招きし、また、旧教職員や卒業生、現役生合わせて100人を超える参加者を迎え、盛大に開催することができました。

祝賀会の前に行われた講演会では、今年3月に退任された木苗直秀学長(当時)に「私の大

学生活と健康長寿社会への挑戦」という演題で講演いただきました。教員として、そして学長として、木苗先生が県立大学の発展に大変なご尽力をなさったことがうかがえ、参加者の多くが感銘を受けられたお話しでした。さらに続いて、「研究室の思い出を語る」と題して、中村好志先生(元助教授、1966年卒)、大村洋一様(1973年卒)、芳野恭士様(1982年卒)、加藤義典様(1995年卒)、さらに今年の2月より衛生分子毒性学分野の助教を務められている保坂卓臣先生(2006年卒)に、研究室在籍当時のエピソードをご披露頂きました。富田先生の秘蔵の写真も飛び出し、懐かしく楽しい話を聞くことが出来ました。

その後、河西きよみ様(1994年卒)の司会で、太田保様(1958年卒)の乾杯のもと、大変やかな雰囲気です。祝賀会が始まりました。出川先生はもちろんのこと、富田先生も現役の頃と全く変わらずお元気でした。お二人とも絶え間なく卒業生達に囲まれており、先生方の人



衛生化学教室開設60周年記念祝賀会 H26.11.2 於 クーポール会館(1)

柄が伺えました。吉成先生は、現役の学生を紹介しながらご挨拶されました。これから、ますます活気あふれる研究室になっていくよう、卒業生一同で期待しているところです。静岡県立大学ジャグリングサークル「五臓六腑」様による余興の後、三浦進司先生（現食品栄養科学部教授、1996年博士修了）のご挨拶をもって閉会となりました。

私ごとではありますが、今回の60周年記念祝賀会の直前、昨年の10月1日より学生・教員として20年近く在籍した静岡県立大学薬学部・衛生分子毒性学分野から、麻布大学生命・環境科学部に異動となりました。準備不足で皆様にはいろいろと迷惑をお掛けしました。この場を借りて、本会の開催にご協力頂いた皆様、参加者の皆様、あるいは参加出来ないながらもご寄付をいただいた皆様に心より御礼申し上げます。その甲斐あって、同門の皆様と楽しく歓談する機会を得ることができ、ホッと胸をなでおろしているところです。

なお、ご出席いただいた皆様のご賛成のもとに、いただきました会費・寄付金、ならびに衛生化学教室同門会の繰越金、計46万円を静岡県立大学薬学部創立100周年記念事業に寄付させていただきました。

県立大学薬学部がこれからますます発展することを心よりお祈りしています！



富田先生、木苗先生を囲んで



衛生化学教室開設60周年記念祝賀会 H26.11.2 於 クーポール会館 (2)

薬学部教員の人事異動

退職

身体運動科学

教授

大石哲夫

平成27年3月

衛生分子毒性学

准教授

根本清光

平成27年3月

生体機能分子分析学

講師

井之上浩一

平成27年3月

薬品資源学

講師

石田均司

平成27年3月

創薬探索センター

助教

海野雄加

平成27年3月

新任

衛生分子毒性学

助教

保坂卓臣

平成27年2月

身体運動科学

准教授

窪田辰政

平成27年4月

医薬品情報解析学

講師

川崎洋平

平成27年4月

生体機能分子分析学

助教

水野初平

平成27年4月

免疫微生物学

助教

中西勝宏

平成27年4月

衛生分子毒性学

講師

佐々木崇光

平成27年8月

薬物動態学

助教

佐藤秀行

平成27年8月

昇任

生化学

准教授

高橋忠伸

平成27年6月

本部だより

■平成27年度静薬学友会第1回理事会議事録

日時… 平成27年4月11日 土曜日 17:30～20:00
会場… 静岡県立大学 はばたき棟3階 特別会議室
出席者… 敬称略

横倉輝男、大石悦子、高橋千恵子、鈴木 隆、植松正吾、安倍道治、
岩崎年史、若林敬二、涌澤伸哉、武田厚司、杉井邦好、賀川義之、
池田雅彦、内田信也、渡邊 学、黒羽子孝太、関本征史、高橋忠伸、
伊藤由彦、大木明代、若尾直司
(欠席) 北川俊朗、井口和明、鈴木由美子、清水広介
(事務局) 鈴木いずみ、鈴木敬子
司会… 横倉会長

〈議題〉

1. 平成26年度静薬学友会総会 議題の検討

(1) 平成26年度事業報告…横倉会長より説明があった。

今年は支部総会が多い年であった。会長一人では行ききれないので副会長にも出席してもらった。支部総会は一度に重なりと本部からの参加も大変になるので分散して開催していただくよう考えていく必要があるかもしれない。会報の支部特集号が原稿が集まらず仕上がりが薄くなっている。支部特集号の会報発行を続けるか今後検討したい。

(2) 平成26年度会計報告…伊藤由彦会計担当理事より説明があった

収入は全体でみれば例年通りとなっている。しかし維持会費だけで見ると収入が減っていることになる。これは現在行っている100周年記念事業募金に關係するかもしれないが、この事業が終われば戻ってくると思う。退官記念事業費は年度途中で退官される先生がいる場合、予定より増える。

大学から薬学生涯研修講座への集会助成があった。
以下、次の意見、提案などが議論された。

○維持会費納入者数について

・謝恩会の場で勧誘した効果が表れた。(鈴木隆副会長)
・維持会費納入者数の表で、基準となる人数が違うのはなぜか。また2014年の納入者数が少ないのはなぜか。(若林理事)

・2014年に4年生の人数が入っていないためではないか。年度がずれて入ってくると思う。(鈴木隆副会長)
・コンピュータのデータでは2014年卒の会費支払い対象者は96名であった。(事務局)

・4年制は4年制の卒年、6年制は6年制の卒年となっている。4年制の学生は2年後に入ってくる。(伊藤理事)

・要は4年制も6年制もどこかで支払い対象者に入っているということであるのか。(若林理事)

・伊藤先生に総会までに調べていただけるようお願いしたい。(横倉会長) 了解した。(伊藤理事)

○維持会費・終身会費・10年会費の納入について

本年度の終身会費・10年会費の納入分から本年度年会費納入分を差し引いたものを来年度以降に繰り越すことと考える。

平成26年度繰越金のうち約598,000円は、終身会費・10年会費により生じた次年度以降へ繰り越すべき資金であることに留意しなければならない。

○会報の発行について

・会報は年に1回にしても良いのではないか。支部特集号の原稿が集まらない。(横倉会長)

・現在の会則では年に2回発行となっている。なお、賀川先生が学部長となりこれから大変忙しくなると思う。後任の編集長が必要なのではないか。(安倍理事)

(安倍理事)

・ぜひ後任を考えていただきたい。(賀川理事)

・メール登録数にもよるが、会報をPDFファイルでメール配信する方法はどうか。今後このような方法が増えてくると思う。(若林理事)

・会費納入される方で50%以上を占める世代の方に配慮するべきではないか。冊子版の会報を望んでいる方もいるのではないかと。(大木理事)

・それもあると思う。(横倉会長)

・しかし会費を払っている世代は今後変わってくる。(鈴木隆副会長)

・会報についてアンケートでも取ったらどうか。(横倉会長)

・編集委員会を検討してもらったらどうか。(鈴木隆副会長)

・5月の編集委員会で検討してみたい。(横倉会長)

・了解した。(賀川理事)

・印刷費、発行費など経費がいくらかかるか調べておいて欲しい。(鈴木副会長)

・安に会報を増やすとか減らすとかの前に、中身をどうするかが大事ではないか。これから若い会員に読んでもらうために、在学生に原稿を書いてもらい載せるようにしてはどうか。(安倍理事)

・学生の情報を載せれば卒業生にも会報を見てもらえるようになるのではないか。(渡邊理事)

・会報が年一回でもいいのではないかと意見が多くあったことで編集会議にかけてほしい(横倉会長)

了解した(賀川理事)

(3) 平成27年度事業計画案・横倉会長より説明があった。

・本年度の理事会予定日で他の事業と重なっている等都合の悪い日があったら変更するので事前に知らせてほしい。(横倉会長)

(4) 平成27年度予算案・伊藤由彦会計担当理事より説明があった。(伊藤理事)

・会報への広告掲載にご協力をいただけるようお願いしたい。

・事務局改修費としてエアコンの設置分を予算に入れた。

・総会が京都で行われるので、総会費を増額した。

・生涯学習費は決算額が少なく済んでいるが、予算が例年通り40万円となっている。

これほど予算を取る必要があるのか。(安倍理事)

・昨年と同様薬学部の集会助成を受けられるかがわからない。(鈴木隆副会長)

・恐らく大丈夫であろうと思う。本年度も集会助成の担当なので、夏前には申請する。(武田理事)

・出来るだけ大学には早めの申請(5月頃)をお願いしたい。(若林理事)

了解した。(武田理事)

(5) 総会当日の役割分担について

・総会の支部長会の時間が11:00では早すぎるのではないか。11:30からでどうか。また、関西方面の支部長に出席をしていただきたいので関西で総会を開催するのだから、なるべく出席をしていただくよう事務局から伝えてほしい。(安倍理事)

・支部長会は11:30からとのことでした。変更を支部長に伝えておく。

(事務局)

・受付を手伝える方は協力をお願いしたい。その他懇親会の司会担当者等は当日関西支部と打ち合わせて決定。カメラ撮影は伊藤理事、関本理事が担当。(横倉会長)

(6) 退任、就任について

○理事の交代について

・新理事、次期東海支部長就任につき涌澤伸哉様よりご挨拶があった。

・新理事、静岡県支部長の就任につき杉井邦好様よりご挨拶があった。

○オブザーバーの退任について

・オブザーバー、静岡県支部長の退任について、若尾直司様よりご挨拶があった。

○特別顧問の就任について

・横倉会長より木苗直秀 前静岡県立大学学長の特別顧問への就任について提案があった。

・会則の修正の必要はあるか。(黒羽子理事)

・会則第3章第10条に顧問を置くことができるとなっている。(安倍理事)

・木苗直秀 前静岡県立大学学長の特別顧問への就任について審議され承認された。(理事一同)

・会則にかかる件なので、総会で最終決定とする。(横倉会長)

○支部長の理事会出席について

・支部と本部のつながりを強くすることが大事と考える。会員数の多い関東支部、関西支部、東海支部、静岡県支部の会長に理事会に出席をいただい

てはどうか。(安倍理事)

・支部のいろいろな意見を聞くことができるので私は賛同する。(若林理事)

・参加していただく旅費など予算を確保する必要がある。(横倉会長、若林理事)

・理事会の回数を1回減らしてはどうか。4月から7月のどちらか。(安倍理事)

・総会の準備のため4月行つてほしい。(伊藤理事)

・先の話ならいいが、今は100周年事業があるので理事会の回数は減らしてよいものかどうか。今から忙しくなる時期に勝手にやっくださいというわけにはいかないと思う。支部長参加については、皆さんお仕事をお持ちなので仕事を休んでまで遠くから出てきていただけるのかどうか。入っていただくことは良いと思う。基盤をしっかりしたので静岡県支部には入っていただきたい。(岩崎理事)

・理事会は年間4回のままで、静岡県支部長だけに理事会に出席していただくというところで、その他の支部長の出席の検討については先送りかどうか。(横倉会長)

・なぜ静岡県支部だけかということにならないか。(安倍理事)

・支部長の件もあるが、私は43年卒としての意見を伝えるために理事会に出てきている。(植松理事)

・木苗先生よりアドバイスをもらったのだが、卒業生の中にもいろいろな職業に就いている方がいる。多様な職種の方から意見を聞くべきだ。(関本理事)

・支部長の参加について、100周年もあり重要な時期なので、関西支部長、関東支部長には理事会に出席して理事会の雰囲気などを理解してもらうことも良いと思う。会計的に問題があれば7月の理事会は行わないことで調整

ができるのではないか。(若林理事)

・杉井さん(静岡県支部長) もかなり忙しいようだが。(横倉会長)

2.

東日本大震災義援金について…井口理事からの提案書を伊藤理事より報告

- ・関西支部の在住者数も513名となっている。参加していただくのがよいと思う。東海支部長も500名以上ということで入っていただくかどうか。目安として、会員数の1割を超える大規模な支部の支部長には本部理事に入っていただくということにすれば良いのではないかと。(渡邊理事)
- ・理事会を行う前にあらかじめ支部長の意見を聞いておく必要があるのではないかと。理事会に来ていただくのは会員数の多い支部だけでよいが、来られない遠方の支部に対して意見を出していただくことはやるべきではないか。(大木理事)
- ・大変良い案である。(安倍理事)
- ・これはメールもしくはホームページで出せばいいので、これは簡単にできるかと思う。(若林理事)
- ・支部長の意見をすくい取るという意図で支部長会を総会の前に行っている。それならば支部長会を行う必要もないのではないかと。(大石副会長)
- ・支部長会を行うかどうかは支部のほうで開催を判断していただくのがよい。(安倍理事)
- ・この件は総会で決議することとする。(横倉会長)

- ・井口先生の提案書を読み上げて、被災された方106名に1万円ずつお送りした残金が626、177円となっている。予算委員会では赤字などの一般募金に拠出する案も出たが、今回の募金は「東日本大震災の募金であった」「会員に対する募金であった」という2点の縛りがある。今後の対応についてご意見を伺いたい。(伊藤理事)
- ・東北支部が義援金の残金を返してきたのはなぜか。(植松理事)
- ・本部と被災者の直接のやり取りであったので、実際には東北支部では義援金は持っていない。送金は本部で行った。(伊藤理事)

- ・一般募金への拠出は反対であるというのが今回の義援金担当の井口理事の意見である。理由は「東日本大震災で被災した会員のための募金であったので募金をしてくれた会員の意思とは異なる」ということ。また、被害を受けたのが東北支部だけでなく関東地域も含まれていると私が伝えたところ、井口先生も義援金担当者として困ってしまったようだ。資料にも書いてある通り、「学友会会員が災害を受けた場合に支援する」という趣旨に基づき、別枠でこの残金をもとに災害基金を立ち上げてはどうかとの結論に至ったがいかがだろうか。(横倉会長)
- ・災害基金として作るのはいいが、例えば先日の白馬での地震災害については被災者の確認をしていないと思う。(大木理事)

- ・広島は行った。(横倉会長)
- ・今後、被災者を確認するシステムを構築する必要がある。(大木理事)

3.

平成26年度薬学生涯研修講座報告…若林理事より報告があった。

- ・これから期待される在宅薬剤業務というテーマで、法律に関する講演と、在宅薬剤業務についてのグループディスカッションの2部構成で行った。参加者は46名であったが、活発な討論が行われ実り多いものになった。薬学部を集会助成を受けることが出来たため支出を低く抑えることができた。本年度のテーマについてはまたご意見を伺いたい。

4. その他

100周年について

- ・学友会を足並みそろえて進めていきたい。(賀川理事・薬学部長)
- ・大学の奨学寄付金を除いた金額は、薬学部後援会も含め3月末で約300万円集まっている。(事務局)

- ・どの災害にも適用するということになる、災害基金にお金を入れる仕組みも作っていかないとけない。(渡邊理事)
- ・災害があった時に広報して改めて募金を募る。
- ・ホームページで義援金を募る場所を作っておくといよい。(大木)
- ・井口理事によると大分義援金募金では若尾前会長や大石副会長に御苦労をかけたと言っていたが、若尾さん何か意見はありますか。(横倉会長)
- ・義援金募金では大分苦労した。会員の皆さんのおかげで1、153、000円の募金があった。一人10万円も募金してくれた方もあった。メールと会報で全員に義援金をお願いをした。被災状況については往復はがきで実態調査をし、被害のあった方に1万円をお渡しした。今後どのような災害が起こるか分からないので、そのようなシステム作りは必要になるかもしれない。(若尾オブザーバー)

- ・実際に被災された方は、大変な状況の中では動くこともできないと思うので、実態調査のために本部から(人員を)派遣する余裕もないといけない。このような災害基金を作っておくことによって本部が実態調査に動くための資金にもなると思うので良いと思う。(大石副会長)

- ・東北支部総会では、1万円を頂いたことより静薬学友会から連絡が来たことがうれしかった、改めて卒業生で良かったとの声を伺った。(高橋千副会長)

- ・それが大事である。その気持ちにこたえるためお金を集めてから答えるのでは遅すぎるような気もする。(岩崎理事)

- ・それでは、(東日本大震災義援金の残金は)静薬学友会災害援助基金などの名称で本会計とは別にして続けてもらえるか。(横倉会長)

- ・了解した。(伊藤理事)

- ・この件は総会で決議することとする。(横倉会長)

卒業時のメールアドレス登録、年会費徴収等について・鈴木隆理事から報告
 ・昨年に引き続き謝恩会会場で行った。卒業生166人中、メールアドレス登録者は148名、(前年64名)、年会費納入者は48名(前年45名)であった。事務局と先生方の協力により、ほとんどの卒業生からメールアドレスを登録してもらえた。

会報の広告について

- ・現在、会員でない方からの広告掲載の申し出がある。会報に広告掲載が出来るのは会員に限るのか。(黒羽子理事)
- ・広告の募集要項では会員に限るとなっている。(事務局)
- ・オーナーでなくても、勤務している方の推薦があれば良い。まるきり関係のない企業の広告掲載でなければ良いのではないか。(大石副会長)
- ・全く会員でない方からの広告掲載の申し出である。(黒羽子理事)
- ・会報編集委員会で話し合ってもらえるか。(横倉会長)
- ・了解した。(賀川理事・編集委員長)

平成27年4月11日 議事録作成 書記 鈴木いずみ(事務局)

■平成27年度静薬学友会総会議事録

1. 日時…平成27年5月24日(日曜日)13:00～14:10
 2. 会場…京都平安ホテル(出席者名簿別添)
 3. 司会…武田厚司(理事、昭和53年卒)
 4. 開会の辞…大石悦子(副会長、昭和44年卒)
 5. 会長挨拶…横倉輝男(会長、昭和40年卒)
 6. 来賓挨拶…河本光宏(関西支部長)賀川義之(静岡県立大学薬学部部長)
 7. 議長選出 司会者一任で、若林敬二(理事、昭和46年卒)が選出された
 8. 議事内容(議長が進行)
- 会則第12条により通常総会を開催する
- 議案…第1号議案平成26年度事業報告
 第2号議案平成26年度決算報告
 第3号議案各支部活動報告
 第4号議案平成27年度事業計画案
 第5号議案平成27年度予算案
 第6号議案その他・役員の交代について
- 議事録署名人の指名(議長が進行)
- 本総会の議事録署名人を議長により北川俊朗(理事、昭和49年卒)、関本征史(理事、平成8年修了)の2名が指名された。議事録は、黒羽子孝太

9. (理事、平成8年卒) が取りまとめる。

I. 議事(議長が進行)

第1号議案平成26年度事業報告
 横倉輝男会長より、配付資料に基づき報告がなされた。

II. 第2号議案平成26年度決算報告

伊藤由彦(理事、平成14年卒)より配付資料に基づき会計報告、維持会費納入割合に関する説明がなされた。

また会計監査については、平成27年4月24日に大石稔(監事、昭和49年卒)、大村洋一(監事、昭和48年卒)の2名により行われ、承認された事が池田雅彦(理事、昭和60年卒)より、報告された。

質問) 1971年卒から維持会費納入割合が低下しているのは何故か。

回答) 伊藤…1971年から納入率が低下している正確な原因は不明である。

維持会費の納入を増やすために対策を講じている。学部の卒業謝恩会の中で、卒業生に卒業後の連絡先としてメールアドレスの登録を促し、またその場で維持会費の納入をお願いしている。横倉…静岡県立大学薬学部同窓会の運営は、維持会費によって行われているが、納入割合が低い。是非、後輩、学生のためにも維持会費の納入をお願いしたい。

質疑応答の後、採決の結果、第1号、第2号議案は原案通り承認された。

III. 第3号議案各支部活動報告

東北支部の活動について、岡田宜彦(東北支部長、昭和55年卒)が報告した…支部総会を平成26年10月25、26日に行い、その時の様子を静薬学友会報2015年(平成27年)No.81号で写真も多く使い報告した。また、4年前に支援していただいた義捐金の残金を全額本部に基金として寄付することを決定した。

関東支部の活動について、仲谷博明(関東支部長、昭和45年卒)が報告した…

平成26年6月22日に支部総会を開催し、そこで支部長として選任された。平成27年4月に静岡県立大学にて開催された薬学系の就職説明会に当支部から7名参加し、将来の方向性を決めかねている学生へのアドバイスなどを行った。また今後にもつながっていきたいと考えている。

長野支部の活動について、牟礼孝貴(長野県支部長、昭和59年卒)が報告した…

平成26年10月5日に松本市で支部総会を開催した。山田静雄先生にご講演いただいた。支部会員が91名となっているが、出席者が10名と少ないことが課題と考えている。

静岡県支部の活動について、杉井邦好(静岡県支部長、昭和55年卒)が報告した…若尾直司(静岡県支部長代行、昭和44年卒)の元で、平成27年1月に

支部総会を開催し、役員改選を行い選出された。60名程度の参加者があり、平成年代の卒業生が3分の1程度参加してくれた。今後も若い世代にも参加を促し、また支部の維持会費の納入率を高める事で、全体の会費納入率の向上に貢献したい。

東海支部の活動について、三上栄一（東海支部長、昭和49年卒）が報告した。平成26年12月14日に支部総会／研修会（第38回）を開催した。3名の卒業生に講演していただいた。若い世代の参加者も増やしていけるようにしたい。

関西支部の活動について、河本光宏（関西支部長、昭和57年卒）が報告した。平成27年6月8日に支部総会を開催し50名強の参加者があった。今年度は奈良県副支部および兵庫副支部の活動がある。来年度の支部総会開催は見送り、静薬創立100周年記念事業に協力する。平成30年6月に次の支部総会を予定している。

中国支部の活動について、池田潔（中国支部長、昭和54年卒）が報告した。平成26年8月の豪雨による災害の際、本部から問い合わせがあり約10名の無事を確認した。平成26年11月24日に中国支部総会を開催し、参加者は15名程度と少なかったが、充実した会となった。連絡方法の見直し（メールによる）により参加者を増やしたい。また女性の会員より託児所などの設置があると出席しやすいとの意見も挙げられている。

四国支部の活動について、井上泰秀（四国支部長、昭和59年卒）が報告した。平成27年11月に、四国支部総会を開催予定である。若い年代の参加も増やすために、若い世代の幹事とも相談し、企画したいと考えている。

Ⅳ．第4号議案 平成27年度事業計画案

V．第5号議案 平成27年度予算案

第4号議案、第5号議案はともに平成27年度に関する議案のため、一括議案とした。

横倉輝男会長より、配付資料に基づき平成27年度事業計画案の説明がなされた。

伊藤由彦理事より、配付資料に基づき平成27年度予算案の説明がなされた。収入のうち雑収入500,000円を予定しているが、これは会報に載せる広告費を含めたものである。また支出の部の事業費のうち、事務局改修費として事務局空調設備工事に500,000円計上した。総会を関西で開催するため、会議費の内、総会費が1,600,000円計上されている。

以上の平成27年度事業計画・予算案について質疑応答を行った。

（質問）河本…支部活動費による各支部への補助が最大10万円という形になつてしまったが、支部活動（支部会の開催、副支部会の開催）を

維持していくためにご配慮をお願いしたい。

（回答）横倉…また相談させていただきたい。

（質問）森本…慶弔費の規程はどうなっているか。

（回答）横倉…役員の受賞などの際にお祝いしている。例えば、県立大学理事長が文化勲章を受章した際に、お花を贈った。また役員およびその親に不幸があった場合を規定している。

（質問）特別会計とは何か、教えていただきたい。

（回答）伊藤、池田…学友会館設立を目的とし開始された積立金であり、一般会計とは分けて管理している。また、名簿の管理システムを変更した際に、一部使用した。

（質問）特別会計としてではなく、一般会計に組み込むことを提案したい。

（回答）横倉…同様の意見が支部長会議でもあがっているので、今後検討したい。

採決の結果、異議なしで第4号、第5号議案は原案どおり承認された。

Ⅵ．第6号議案その他・役員の交代について

横倉…役員の交代について

特別顧問として平成27年3月に静岡県立大学学長を退任された木苗直秀先生に就任していただく。本部理事として涌澤伸哉氏（昭和51年卒）に就任していただく。静岡県支部長として杉井邦好氏に就任していただく。

・東日本震災時の義捐金の取扱いについて

東北支部会で使っていたいただいた残金の取扱について、理事会で議論した結果、静岡県立大学薬学部同窓会員を対象とした「静薬学友会災害義捐金基金」として管理することにする。詳細は、次回発行の会報で報告する予定である。（P45およびP59参照）

・支部会について

・「静薬学友会賞」の紹介（P49参照）

（意見）角 興三（昭和38年卒）…総会の運営方法に関して、議案を提示して説明、承認するだけではなく、総会出席者の方々の議論、意見交換の場としても活用してはどうか。会員への連絡手段として、Eメールを上手く用いる必要があるのではないか。

採決の結果、異議なしで第6号議案は原案どおり承認された。

10．閉会の辞…高橋千恵子（副会長、昭和51年卒）

※次ページに総会出席者名簿を掲載しています

議事録作成 書記 黒羽子孝太（理事、平成8年卒）

平成27年度静薬学友会総会 出席者名簿

H27.5.24 (50音順・敬称略)

	役 職	卒 年	氏 名		役 職	卒 年	氏 名
1	理 事	S46卒	安 倍 道 治	48	静岡県支部長 理事	S55卒	杉 井 邦 好
2	会 員	S53卒	井 浦 教 子	49	副 会 長	S54卒	鈴 木 隆
3	会 員	S50卒	生 田 久 雄	50	会 員	S57卒	鈴 木 直 人
4	会 員	S37卒	池 田 明	51	講 演 会 講 師	S39卒	鈴 木 康 夫
5	中 国 支 部 長	S54卒	池 田 潔	52	会 員	S38卒	角 興 三
6	理 事	S60卒	池 田 雅 彦	53	関西支部役員	S45卒	清 家 功
7	会 員	S57卒	池 田 道 治	54	理 事	H8修了	関 本 征 史
8	会 員	S49卒	池 谷 敬	55	会 員	H3卒	園 田 寿 寿
9	会 員	S47卒	池 谷 幸 信	56	理 事	H11卒	高 橋 忠 伸
10	会 員	H1卒	石 田 久仁子	57	副 会 長	S51卒	高 橋 千恵子
11	理 事	H14卒	伊 藤 由 彦	58	理 事	S53卒	武 田 厚 司
12	四 国 支 部 長	S59卒	井 上 泰 秀	59	講 演 会 講 師		田 宮 憲 一
13	会 員	S63卒	井 上 千佳恵	60	会 員	S47卒	田 村 義 男
14	会 員	S46卒	伊 東 俊 雄	61	会 員	S51卒	辻 屋 正 弘
15	会 員	S51卒	今 井 公 江	62	会 員	S46卒	土 山 ふ み
16	会 員	S46卒	今 村 政 晴	63	関西支部役員	S53卒	友 村 雅 昭
17	会 員	S47卒	今 本 哲 治	64	会 員	S61卒	中 川 彰 昭
18	関西支部役員	H4卒	岩 崎 綾 乃	65	会 員	H13卒	中 島 元
19	理 事	S46卒	岩 崎 年 史	66	関 東 支 部 長	S45卒	仲 谷 博 明
20	会 員	S38卒	上 杉 史 代	67	会 員	H6卒	仲 地 剛
21	理 事	S43卒	植 松 正 吾	68	会 員	H3卒	長 野 有美子
22	副 会 長	S44卒	大 石 悦 子	69	関西支部役員	S58卒	中 村 一 基
23	理 事	S62卒	大 木 明 代	70	会 員	S39卒	名 倉 猛 夫
24	会 員	S37卒	大久保 好 子	71	会 員	S46卒	野 路 久仁子
25	東 北 支 部 長	S55卒	岡 田 宜 彦	72	会 員	H5卒	畑 真太郎
26	会 員	S27卒	小 川 彦 和	73	会 員	S33卒	東 博 幸
27	関西支部役員	S45卒	尾 阪 芳 孝	74	関西支部役員	S63卒	藤 本 司
28	理事 薬学部長	S58卒	賀 川 義 之	75	会 員	S49卒	前 崎 義 樹
29	会 員	S50卒	河 村 浄 子	76	会 員	H3卒	松 木 いづ子
30	会 員	S37卒	河 村 信 弘	77	会 員	S27卒	圓 城 淑 子
31	関 西 支 部 長	S57卒	河 本 光 宏	78	東 海 支 部 長	S49卒	三 上 栄 一
32	理 事	S49卒	北 川 俊 朗	79	会 員	S50卒	蓑 内 徳 蔵
33	会 員	S47卒	北 田 善 三	80	長野県支部副支部長	S59卒	牟 礼 孝 貴
34	会 員	S47卒	北 田 裕 子	81	会 員	S47卒	森 野 直 宜
35	関西支部役員	S48卒	北 村 正 孝	82	会 員	S44卒	森 本 正 信
36	四国支部 幹事	H16卒	木 戸 智 史	83	会 員	S61卒	森 山 賢 治
37	理 事	H8卒	黒羽子 孝 太	84	会 員	S46卒	山 田 静 雄
38	会 員	S51卒	小 島 克 子	85	会 長	S40卒	横 倉 輝 男
39	会 員	S47卒	小 瀬 俊 裕	86	会 員	S57卒	吉 田 直 恵
40	会 員	S33卒	近 藤 道 男	87	会 員	S54卒	吉 田 昌 史
41	会 員	S60卒	佐 藤 善 弘	88	理 事	S46卒	若 林 敬 二
42	会 員	S55卒	佐 藤 和 裕	89	会 員	S42卒	若 宮 忠 弘
43	会 員	S51卒	篠 塚 和 正	90	会 員	S50卒	脇 田 久美子
44	会 員	S55卒	篠 塚 朋 子	91	関西支部役員	H19卒	和久田 浩 一
45	会 員	S62卒	清 水 繁	92	理 事	S51卒	涌 澤 伸 哉
46	会 員	S53卒	末 次 尚 子	93	理 事	H7卒	渡 邊 学
47	会 員	S49卒	菅 原 義 生	94	会 員	S59修了	渡 辺 徹 志

静薬学友会賞 平成28年度 候補者募集要項

静岡県立大学薬学部同窓会（静薬学友会）では、会員相互の親睦と学識及び職能の向上を図るとともに、静岡県立大学薬学部及び大学院薬学研究院の発展に貢献し、併せて社会に寄与することを目的に、会員の顕著な功績を表彰し、今後の活躍を奨励する「静薬学友会賞」の候補者を下記の要領で募集します。

1. 資 格

- (1) 原則として平成28年4月1日現在で5年間以上継続して（静岡県立大学薬学部または大学院薬学研究科（院）に在籍していた期間も含む）静薬学友会の会員であること（自薦・他薦可）。
- (2) 平成28年4月1日現在で静薬学友会の理事に相当する者が応募する場合、本賞の表彰選考委員会から除外する。
- (3) 本応募時に、静薬学友会の会費を納入した会員であること。

2. 対象とする業績

個人またはグループ（募集資格に該当する者に限る）に対して、薬学、薬事に関連した分野またはその他の分野に関して優れた業績を表彰する。本年度の募集分野は、「①薬剤師の職能向上に大きく貢献した活動」または「②社会に大きく貢献するものを提供した研究成果」とする。

3. 応募方法

下記応募書類を書留便で、下記の本会事務局までお送りください。

- (1) 本会所定の応募申請書 1部
- (2) 募集分野に関する主たる業績（学会誌、業界紙、学術雑誌の論文、報告、記事、メディア報道など）の別刷およびその参考となる資料のコピー 最大5つまで 各1部
- (3) 応募書類の継続5年以上の本会会員である欄にチェックしてください。

4. 審査方法

当会で設置した表彰選考委員会において選考し、理事会で決定する。

5. 締 切：平成27年10月末日（消印有効）

6. 受 賞 件 数：2件程度（賞状、副賞）

7. 受賞者の決定：平成28年1月

8. 授 賞 式：平成28年度 静薬学友会 総会（5月頃）

9. 受 賞 講 演：平成28年度 静薬学友会 総会

10. そ の 他

- (1) 応募用紙は静薬学友会ホームページからダウンロードしてください。または、切手120円分を添えて下記連絡先まで請求してください。
- (2) 応募書類の送付、照会は下記連絡先をお願いします。
- (3) 応募書類は、返却しません。
- (4) 受賞者の氏名、受賞テーマは本会のホームページに掲載します。
- (5) 受賞者には、静薬学友会 総会（5月頃）で開催される授賞式への出席ならびに受賞講演をお願いしております。また、学友会誌への原稿執筆をお願いしております。

連 絡 先：

〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1 静岡県立大学薬学部
静岡県立大学薬学部同窓会（静薬学友会）事務局
shizuyak@u-shizuoka-ken.ac.jp
電話（054）265-8763 FAX（054）265-8769

平成26年度静薬学友会会計収支報告書

単位:円

	費 目	26年度予算額	26年度決算額	備 考
収入の部	入 会 金	5,800,000	5,920,000	@40,000 x 148名
	維 持 会 費	3,500,000	3,144,000	終身会費@50,000 x3名 10年会費@20,000 x4名含む
	利 息	500	741	
	雑 収 入	500,000	545,000	
	繰 越 金	931,885	931,885	
	合 計	10,732,385	10,541,626	
支出の部	事 業 費	7,900,000	6,625,975	
	広 報 名 簿 事 業 費	700,000	486,648	名簿管理システム維持費、HP運用費
	会 報 発 行 費	2,000,000	2,171,249	80号、81号
	退 官 記 念 事 業 費	300,000	500,000	高木、五十里、関本、大石、石田、根本
	同 期 会 援 助 費	500,000	0	
	大 学 行 事 援 助 費	550,000	311,500	新入生・卒業生記念品、岩崎賞、成績優秀者賞
	生 涯 学 習 費	400,000	72,397	薬学生涯研修講座開催(大学からの助成あり)
	表 彰 費	100,000	0	
	慶 弔 費	50,000	0	
	渉 外 費	200,000	89,220	
	通 信 費	100,000	113,564	
	事 務 費	2,600,000	2,549,224	
	振 込 手 数 料	400,000	332,173	
	会 議 費	1,200,000	1,226,871	
	総 会 費	600,000	750,399	
	理 事 会 費	500,000	403,178	
	小 委 員 会 費	100,000	73,294	
	支 部 費	1,050,000	1,141,980	
	支 部 活 動 費	500,000	737,630	関西、関東、長野県、東北、北海道、中国、東海、静岡県
	支 部 通 信 費	50,000	0	
	支 部 会 出 張 費	500,000	404,350	本部からの出席旅費・宿泊費
	事 業 積 立 金	500,000	0	
	特 別 会 計 積 立 金	500,000	0	
	予 備 費	82,385	0	
	合 計	10,732,385	8,994,826	
収 支			1,546,800	次年度へ繰り越し

以上の通り相違ありません

平成27年3月31日

静薬学友会

会計担当理事

伊藤 由彦



池田 雅彦



監 事 大村 洋一



大石 稔



平成26年度静薬学友会特別会計
 (事業所設立準備金)
 収支報告書(平成27年3月31日現在)

単位:円

	月日年	摘 要	26年度決算額	備考
収入の部	04/01/14	前年度繰越金	4,241,743	
		合 計	4,241,743	
支出の部	03/31/15	次年度繰越金	4,241,743	
		合 計	4,241,743	

以上の通り相違ありません

平成27年3月31日

会計担当理事

伊藤 由彦



池田 雅彦



監 事

大村 洋一



大石 稔



平成27年度静薬学友会予算

単位:円

	費 目	27年度予算額	備 考
収入の部	入 会 金	5,800,000	@40,000×140名(+5名)
	維 持 会 費	3,500,000	
	利 息	500	
	雑 収 入	500,000	
	繰 越 金	1,546,800	
	合 計	11,347,300	
支出の部	事 業 費	8,000,000	
	広 報 名 簿 事 業 費	500,000	名簿管理システム年間維持費・HP運用費 ¥486,648
	会 報 発 行 費	2,200,000	82号、83号
	退 官 記 念 事 業 費	300,000	
	同 期 会 援 助 費	200,000	
	大 学 行 事 援 助 費	550,000	記念品代(新入生・卒業生)、岩崎賞、成績優秀者賞
	生 涯 学 習 費	400,000	薬学生涯研修講座
	事 務 局 改 修 費	500,000	事務局空調設備工事(本年度のみの新科目)
	表 彰 費	100,000	
	慶 弔 費	50,000	
	渉 外 費	100,000	
	通 信 費	100,000	
	事 務 費	2,600,000	
	振 込 手 数 料	400,000	
	会 議 費	2,200,000	
	総 会 費	1,600,000	関西支部(京都)で開催
	理 事 会 費	500,000	
	小 委 員 会 費	100,000	
	支 部 費	950,000	
	支 部 活 動 費	400,000	関西、北陸、四国、九州・沖縄、東海
	支 部 通 信 費	50,000	
	支 部 会 出 張 費	500,000	本部からの出席旅費・宿泊費
	事 業 積 立 金	0	
	特 別 会 計 積 立 金	0	
	予 備 費	197,300	
	合 計	11,347,300	

*会長は費目間の流用を認めることができる

平成27年5月24日

会計担当理事

伊藤 由彦



池田 雅彦



平成27年度静薬学友会特別会計(事務所設立準備金)予算

単位:円

	費 目	27年度予算額	備 考
収入の部	前年度繰越金	4,241,743	
	合 計	4,241,743	
支出の部	次年度繰越金	4,241,743	
	合 計	4,241,743	

平成27年5月24日

会計担当理事

伊藤 由彦



池田 雅彦



平成26年度維持会費支部別納入割合及び卒業年次別納入割合 (H27/3/31締切)

平成26年度維持会費支部別納入割合

支部名	支部在住者数	納入口数	納入割合	納入金額
北海道	47	13	27.7	26,000
東北	167	31	18.6	62,000
関東	1321	417	31.6	834,000
長野県	91	21	23.1	42,000
北陸	140	44	31.4	88,000
静岡県	1934	538	27.8	1,076,000
東海	534	137	25.7	274,000
関西	513	156	30.4	312,000
中国	201	50	24.9	100,000
四国	114	35	30.7	70,000
九州・沖縄	226	65	28.8	130,000
国外&その他	47	0	0	0
合 計	5,335	1,507	25.04	3,014,000

※支部別納入割合の支部在住者数には、住所不明者は含まれておりません。

平成26年度卒年別維持会費納入割合 ※人数：物故者を除いた数（支払い対象）

卒年	人数	納入者数	割合	卒年	人数	納入者数	割合
女薬	215	19	8.8	1985	110	12	10.9
薬専	100	30	30.0	1986	108	15	13.9
女薬専	128	45	35.2	1987	112	13	11.6
1957	62	43	69.4	1988	114	11	9.6
1958	64	43	67.2	1989	109	9	8.3
1959	56	31	55.4	1990	115	11	9.6
1960	70	45	64.3	1991	125	14	11.2
1961	69	40	58.0	1992	124	27	21.8
1962	70	29	41.4	1993	113	10	8.8
1963	63	28	44.4	1994	148	18	12.2
1964	76	39	51.3	1995	134	8	6.0
1965	78	35	44.9	1996	136	4	2.9
1966	72	42	58.3	1997	135	7	5.2
1967	73	38	52.1	1998	145	7	4.8
1968	77	42	54.5	1999	137	8	5.8
1969	70	30	42.9	2000	144	8	5.6
1970	109	46	42.2	2001	135	9	6.7
1971	108	28	25.9	2002	118	11	9.3
1972	122	34	27.9	2003	145	4	2.8
1973	112	31	27.7	2004	132	8	6.1
1974	104	41	39.4	2005	136	7	5.1
1975	120	24	20.0	2006	156	14	9.0
1976	121	46	38.0	2007	159	7	4.4
1977	112	24	21.4	2008	152	7	4.6
1978	113	27	23.9	2009	140	5	3.6
1979	126	29	23.0	2010	59	3	5.1
1980	125	26	20.8	2011	66	3	4.5
1981	119	26	21.8	2012	119	16	13.4
1982	127	42	33.1	2013	117	8	6.8
1983	86	12	14.0	2014	96	35	36.5
1984	127	29	22.8	中途退学者	85	0	0.0
				合 計	6,898	1,363	19.8

平成26年度 年会費納入者一覧表

(卒業年順、平成27年7月末日現在)
(東日本大震災義援金 寄付者を末尾に掲載しています)

終身会費納入者 (5万円)

静岡薬科大学

昭和58年

高橋 秀明

昭和62年

大木 明代

静岡県立大学

平成6年

飯田 海保

平成8年

川合 真由美

平成9年

丹治 麻希

平成12年

長瀬 邦彦

平成25年

大滝 俊也

10年会費納入者 (2万円)

静岡薬科大学

昭和32年

山村 美智彦

昭和41年

中村 好志

昭和48年

伊藤 久男

昭和50年

望月 雅史

昭和52年
土屋 益美

昭和56年
鈴木 直人

静岡県立大学
平成3年

川嶋 実

平成7年

横山 由斉

平成12年

石川 裕子

年会費納入者 (2千円)

静岡女子薬学校

昭和13年

永田 みつ

昭和14年

森岡 好子

昭和19年

山本 二三

渡辺 ウメ

昭和20年

平尾 定子

萩原 末美恵

昭和22年

三村 治子

昭和29年

伊藤 矩子

昭和23年

半田 令子

奥田 政子

小竹 京子

昭和24年

米澤 宜子

崎山 邦子

提坂 種子

昭和25年

石井 貞子

武藤 幸子

安間 俊子

平野 祥子

望月 摩利子

静岡薬学専門学校

昭和26年

杉浦 昌子

佐藤 伊佐子

小林 仁美

昭和27年

鈴木 君江

圓城 淑子

昭和28年

山田 和子

杉本 満子

昭和29年

細田 興子

西川 佳代

山下 恒雄

藤井 和恵

赤堀 美代子

木下 静代

田島 いそ代

森 光子

佐藤 さち子

中村 あけみ

土村 保子

堀内 好子

三上 郁美

木口 隆子

西村 トシエ

高士 みえ子

渡辺 喜久代

徳田 久子

栗山 理子

田代 ふみ子

吉住 瑛子

三沢 真弓

荒川 喜美子

坂本 千世

小川 彦和

横田 順子

原田 雄吉

室伏 すみ子

上塚 敬子

山本 早苗

正木 ミツエ

渥美 弘子

戸田 英子

中林 さち子

桜井 美紗

織田 信三

平野 郁夫

杉本 敬介

昭和32年

福岡 妙子

梅村 隆久

渡辺 規子

林 貞子

依光 悦子

丸山 晶子

増井 千恵子

野村 由紀子

志村 通雄

増井 幸子

中山 須恵子

青山 健一

石川 哲朗

石黒 義脩

須崎 守康

増井 千鶴子

藤井 明郎

北川 英雄

稲名 一枝

増井 俊夫

上谷 資子

太田 善三

風里 谷歌子

塩谷 勝夫

青山 仁夫

青木 富佐

大桑 滋之

大坪 千恵子

右近 洋英

谷口 年男

小林 猛夫

中島 信子

野呂 和子

鈴木 健介

古川 重継

寺井 和子

松永 公良

矢萩 和子

村上 敏子

三浦 令弘

増田 令子

瀬尾 弘子

村上 敏子

三浦 令弘

増田 令子

瀬尾 弘子

村上 敏子

三浦 令弘

増田 令子

瀬尾 弘子

村上 敏子

三浦 令弘

増田 令子

瀬尾 弘子

村上 敏子

三浦 令弘

増田 令子

瀬尾 弘子

村上 敏子

三浦 令弘

増田 令子

瀬尾 弘子

村上 敏子

三浦 令弘

増田 令子

瀬尾 弘子

村上 敏子

三浦 令弘

増田 令子

瀬尾 弘子

村上 敏子

美濃 部悦子

大西 安子

辻本 隆次

中谷 貴美子

大石 克己

平野 昌子

和田 多賀二

秋山 矩子

杉浦 暢子

森谷 甫美

山内 文夫

内田 貞夫

斎藤 弘子

藤中 英子

吉田 宏夫

増井 俊夫

上谷 資子

小西 陸子

小野 忠道

吉田 佳子

近藤 美保

辻本 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

近藤 美保

[illegible]

[illegible]

井口裕子	井口潔	昭和62年	山口尚子	野村幸絵	阿出川佳枝	渡辺浩樹	小林真美	中野浩美	昭和61年	黒木由香	櫻井のり子	清水宣秀	風貴史	土屋正彦	昭和60年	吉田千佳代	長尾康博	大澤勝一	森信智子	古川真一郎	大家智彦	関口富彦	片山富彦	前田浩	堺谷研嗣	福山俊典	昭和59年	小川恵	本島玲子	加藤善久	西田慶子	昭和58年	名倉基雄	杉村敦子	杉村壮一	大軽靖彦
高田真人	松尾紀子		牧野尚美	小林淳一	片岡智子	土屋浩司	野崎洋子	原田晴司		池田雅彦	平野智子	加藤道子	阿出川滋	松尾憲一		岩川ふさ枝	八尾徳正	橋本佳己	芦川裕子	和田久仁恵	青野雅博	渡辺徹志	渡辺詩織	田中喜久夫	大石哲久	井上泰秀		安長文隆	賀川義之	石原夕美	間中友季子		小久保宏恭	増澤俊幸	吉田直恵	有賀美津子
野末清美	小沢美佳				尾上泰江	川上裕子	前田合秀晃					根本智恵	宮崎多恵	竹下智重子		井上恵利子	大木英嗣	稲葉厚弘	鈴木文子	野中稔晃	越田祐子	大石美満	川島勇司	石井豊彦	黒澤豊彦	秋本文男	塚本理史	南部佳代子	斉藤智佐子	皆川俊哉	鈴木直人					
栗田晃伸	岩崎綾乃	鈴木啓子	尾形有規	尾形和美	池田美保	島田和彦	望月由木子	大月昭子	平成4年	猪俣千香子	櫻井孝司	多田明弘	日比貴子	渡邊哲史	平成3年	静岡県立大学			松丸直美	田中真寿美	望月正栄	小島房子	平成2年	大田直樹	長尾美宏	鈴木由美子	平成元年	牧草由紀夫	土屋秀美	大城雅章	加藤広之	昭和63年	三宅秀	小林俊子	岩田尚美	
鈴木太嘉栄	古畑亜由美	福原裕子	鈴木登紀子	長尾明知子	増崎詞子	竹入昭彦	喜好昭彦	谷本倫子		長野敬	長野有美子	杉本収	園田寿司	園田祥司				下尾貴宏	丸山恭史	多田志緒里	林多志緒里			兵庫淳志	金井好子	今津佳子		川瀬一朗	居上敬祐	堀田博美	井上千佳恵		鈴木加奈子	根津幸代	赤松泰子	
					河村美保花	住井直美	中村和重彦	藤江直人		吉田博之	下澤浩美	福原正博	松木いつ子				榊原利恵	北嶋時世	小田雄司	平野晃子				石田久仁子	大野さつき	小澤久仁子		笠毛浩彦	川瀬直子		河合永子		金子孝司			
菊池保正	南持雅恵	平成12年	外山訓之	小林由紀子	横田崇	横田崇	村田周子	齋藤正孝	平成11年	野寄秀明	後藤こま希	根地嶋麻里子	小林正典	岩谷有夏	平成9年	大塚朗子	根地嶋宏昌	鈴木博子	内田恵	本間丈士	平成7年	大塚有	渡邊佳子	渡邊佳子	檜山章絵	富安晃一	藤川郁世	平成6年	中村理子	中村光博	神野文宏	大道克裕	平成5年			
中西美智	高木貴治		宮澤真理子	高橋忠伸	村田周子	村田周子	齋藤正孝			藤田行代志	佐藤敦史	大賀美幸	関由希子	板井詩		中山大輔	梶野大二郎	小宮直美	水口英明	小西宏治		平成7年	富永民雄	番場美保	野澤美保	河西きよみ	西島秀明		下村聡美	内田信也	小澤紀子	西村慎也		影山知子		
	永吉翼				浦上武雄					出羽歩美				山下和香子		黒羽子孝太	関本征史	米田昌裕	渡邊学			平成7年	黄倉崇	仲地奈美	高井奈美	大橋綾美	櫻井幹也		大城まゆみ		河島知子	大井郁子				
藤原理恵	高野真弓	平成20年	野嶋芳紀	世戸孝樹	阿部拓哉	横田洵一	海野大地	茂木直樹	平成19年	上原裕	秋本真友子	小林健人	河村美香	原田佳奈子	平成18年	松岡温名	高木友里	村上涼子	奥山和子	進野和子	鈴木なつみ	平成16年	高久修司	山岡麻衣子	長谷部ふみ	久保田陽子	秋山将寛	平成14年	山田かこみ	石川智之	勝又孝一	若尾晃一	平成13年			
岩田皓生	田野井隆		兵頭正員	神戸英芳	田中紫菜子	菊永奈穂美	佐藤美和子	鈴木一裕		林哲男	千葉健人	阿部祥子				村瀬恵理	本多正樹	青木節代	青木千恵	沖野奈央	中村ほなみ		大西真央	南由季子	米澤正	川合大介	吉田梨沙		星野有吾	田川真由	福井貴史					
内本武亮	赤星早江子		福山知哲	木村日都美	渡邊歩		佐藤一毅			阿部祥子	小林敬子					竹花裕貴		岡崎浩一	木村智之	關口徹	益岡尚由			廣瀬亜紀	藤井真一		山本博之		伊藤美帆							

(敬称略)

(敬称略)

前総会で承認を得た通り、東日本大震災で会員の皆様から頂いた分の余剰金を、今後災害を被った会員を救済する資金とするため新たに「静薬学会会災害義捐金基金」を設立します。なお、今後の基金の運用については新たに規程を策定し、それに従って行うこといたします。

(P47 総会議事録参照)

左記の会員の連絡先をご存知の方は、静薬学友会事務所までご連絡ください。また、会報が届いていても下記一覽表にお名前が掲載されている方は、お手数ですが会報に同封してあります『登録および名簿開示内容のご確認』用紙にて、ご自宅住所等を事務局にFAXにてご連絡ください。

静岡女子薬学校	大正8年	静岡女子薬学校	昭和7年	静岡女子薬学校	昭和16年
近藤まさし		石内マツエ	小川 綾子	岡村 朋子	塩見アイ子
静岡女子薬学校	大正9年	高橋 テル	坂崎 たか	陸施 秀芳	
土切 わか		静岡女子薬学校	昭和8年	静岡女子薬学校	昭和17年
		加藤みね子	植松 たい	井上 つぎ	平岡喜代子
静岡女子薬学校	大正11年	島崎 ナツ	辻村伊久子	寿 澄子	河野 綾子
田口 鯨子		森下美代子		武田 信子	溝口 萩子
静岡女子薬学校	大正11年	静岡女子薬学校	昭和9年	静岡女子薬学校	昭和18年
松山 千代		矢内あき子	橋爪 橙江	越智 秩子	大江チズエ
		平松 いわ	小針 和子	大矢 幸子	村山 愛子
静岡女子薬学校	大正12年	静岡女子薬学校	昭和10年	山田 邦子	阿部千寿子
石井 綾野		久保田実枝子	小島 和	秋山千代子	吉村千鶴子
静岡女子薬学校	大正13年	中野 コト	藁科みさを	飯田喜久枝	伊与野真佐子
竹下 梅子		静岡女子薬学校	昭和11年	渡辺 綾子	石原 栄
		猿渡 年許		小野田富美子	小野 春江
静岡女子薬学校	昭和3年			住山 道子	尾上 節子
水野 せつ	秀島 ミツ	静岡女子薬学校	昭和13年	岡野 増子	大山みどり
		萩原 幸子		片岡 豊子	岡村 幸子
静岡女子薬学校	昭和4年			吉田 礼子	川崎千鶴子
庄野 しず		静岡女子薬学校	昭和14年	栗屋 幸子	杉山千鶴子
		小沢 たね		伊達 正子	高 秀子
静岡女子薬学校	昭和5年			寺沢田鶴子	浜本 光子
樽 みゑ	御堂前美子			東 一枝	杉村 雅子
宮崎 キク		静岡女子薬学校	昭和15年	曾根 光子	藤本しづ枝
		中村 国枝		吉原美津子	松岡 チセ
静岡女子薬学校	昭和6年	海野 勝代		柳沢喜美子	甲斐 房子
今宮 貞枝	市川 はる			広江美代子	渡辺 信子
菊池 愛	江口 勝栄				

堀川 礼子	寺西 雄三	静岡薬科大学 昭和52年				静岡薬科大学 昭和55年				静岡薬科大学 昭和58年				静岡薬科大学 昭和60年				静岡薬科大学 昭和62年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
宮 悦子	田辺 正秀	加藤 明美	太田 慎一	川口 昌昭	小本曾英次	阿部 正規	白鳥 真弓	古川 涼子	奥平 正泰	木村 正伸	藤井 克康	宮道 智裕	加藤 宗史	日下 英昭	阪本 敏文	望月 礼子	関谷 猛	中原 正規	水井 信夫	上原 真弓	松田 静香																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
坂本 聡	須川佐絵子	丸山利恵子	坪井加賀子	松坂 一郎	徳武 聡	吉川 勝利	脇田 広美	小澤まゆみ	梅村敬治郎	小澤まゆみ	梅村敬治郎	中川 智子	中川 忠司	鈴木 順子	森田 洋一	杉本香也子	伊藤 嘉章	松下ひとみ	佐藤 和人	弘下 郁子	松下 智久	増田 幸則	千葉 紀江	富田 幸介	吉田 雅子	宇野 芳美	酒井 良一	沢田 純子	西川 明子	高森 健雄	牧田 道明	門崎比呂子	清水 映美	高松 啓子	木村 博久	喜志多 達	玉井 智	富岡 幸恵	浜岡 章	宮本 義雄	池田久美子	岩崎 光美	河合 浩美	清水 伸弥	杉本 貴子	森 ひとみ	岩本美英子	丹野 靖雄	渡辺 和恵	綿引 秀夫	青野 雅博	小川 芳毅	佐藤 厳	坂下 輝之	有村 研治	内田 敏彦																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
静岡薬科大学 昭和54年		静岡薬科大学 昭和56年		静岡薬科大学 昭和59年		静岡薬科大学 昭和61年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年		静岡薬科大学 昭和63年	

静岡薬科大学 平成元年

小林 忠正 後藤 節子
小田原美由紀 柴森 雅文
白石 典生 前田 純子
角 聡子 岡垣智恵子
中尾 徹 久門 弘子
鈴木 知美

三田 幸子 小久保陽子
榎本 雅寿 岡田 豊
斎藤 親 原田 詔子
小原 百代 杉山 聡子
松原美和子 又木 信子
瓜生原葉子 神田 功子
又木 克昌 松井 龍吉
松浦 学 三浦 直美
山添毅一郎 小林 和代
石井 葉子 江田 正明
小松 元博 辻 智史
中込 文佳 羽田 貴子
馬場 貴子 服部 順一
伊藤 清子 松重 宏
村上 忠弘 柳瀬 京子
岸 文子

静岡薬科大学 平成2年

伊藤 毅 伊吹 友二
久保 美恵 海老池啓達
越智 紀子 大生 和博
寺社下美樹 小坂 拓
林 早苗 清水 亮子
佐野 健史 清水 ゆき
崔 俊 野沢 由子
榎本 千里 小林 由恵
林 健 平野 正晃
別府 良人 堀川 尚嗣
矢吹 佳久 吉村かおり

静岡県立大学 平成3年

渡辺 基信 森田 匡史
生駒 繁一 埋橋 哲郎
小林 基 後藤弥朱美
宮家 容子 鈴木真由美
相馬 晋司 竹原 洋一
仁科 公宏 平沼 純子
藤井 秀人 星野 明彦
馬淵 人美 宮家 英司
山下 史雄 山田 明
吉川 清史 広瀬 由美

静岡県立大学 平成5年

萩原 礼子 小田栄一郎
落合 明子 金澤千恵子
佐藤 倫也 松野 裕子
坂入 崇史 杉野 英章
鈴木 淳子 松村 智春
森戸いづみ 渡邊 真史
高阿田知子 佐藤 幸子
佐藤由美子 角山 弘嘉
片井 努 佐藤 和美
鈴木 桂 酒井久美子
鈴木 恭介 杉野 千秋
田原 晴信 内藤 由美
中澤 徹 永渕 博子
永井 陽子 田代 香
吉田 英紀

静岡県立大学 平成7年

吉田 泰明 渡邊早祐美
佐野 美紀 朝倉 裕美
岩間絵里子 上田 真理
岡村 明美 岡村 裕子
河村 康弘 佐藤 義久
鈴木 直亮 竹尾 誠二
竹花 啓志 田中 晴就
野口 薫 林 香織
日江井和英 藤井 秀一
水谷 直子 八木 一憲
吉岡 敬二 伊藤 晶子
横山 曉子

静岡県立大学 平成9年

板野 智子 梅原 美穂
菅原 香織 小澤 愛子
金山久美子 木村 洋子
小坂 寛一 高橋 裕輝
武重友美子 中元 真弓
濱保 英樹 村上 正俊
飯田 佳代 大塚 早苗
太田 佳子 岡田美穂子
岡村 明美 山崎 菊代
加藤 万美 小長谷直史
榊原美衣子 篠原 忠人
鈴木 紳之 辻本 英範
荒井 綾子 豊瀬 佳恵
中嶋 孝佳 中村 美紀
西尾 亮介 松本 敦子
松本 尚己

静岡県立大学 平成10年

渥美 宏 岡村 淳也
織田 恒久 唐木晋一郎
倉上あい子 小林美香子
三松 智子 小長谷かおり
高原早恵子 寺田 有希

静岡県立大学 平成4年

三井 恭子 井鍋 一則
小林 久里 ヴチリエン ホア

松元 恵子 小澤 裕恵
小野 友也 石田 清美
鹿島 清治 川上 弥生
佐々木久美子 佐藤 隆幸
杓谷 明美 城野真紀子
中平 英子 縄巻 和恵
福田 和博 増子 聡
田口 えり 尾澤美津子
山田 和人 赤木 智絵
秋山 正喜 石田 佳幸
小林 理恵 栗田 亨
川澄 純子 塩谷はるみ
塩崎 哲也 野口 友美
辻井 晴美 戸苅 恭子
戸嶋久美子 中嶋 徳弥
鳴瀬 諒子 野沢 暁
畑 真太郎 細江 宏彰
本多 達也 前田 義晴
村上 誠 望月 衛

静岡県立大学 平成8年

相曾いずみ 井口 朋美
今福 英俊 山本 真
上原 徹 内野万有美
村松りつ子 高田 節子
高橋 洋子 田口 雅揮
日野田純子 太刀川雅美
山内 麻弓 吉田 健一

静岡県立大学 平成10年

松本 尚己

豊留真理子	山本加代子	矢野 俊介	江川 恵代	宮地 香織	葉内まり子	杉浦 仁美	高藤 俊	山口 里美	池内 和忠
井手 紀子	福田 寛憲	横山 瑞樹	吉田 陽子	宮地 香織	葉内まり子	中磯 愛	橋本 祥子	遠藤 広規	大槻 卓也
吉井 智	渡辺 孝	内山 幸恵	越智あやの	静岡県立大学 平成15年	河野江利子	福島 智子	福家さゆり	川本 浩子	重松 宏和
清野 広延	岩川 裕美	小野 裕之	兼廣 牧子	宇佐見友理	下山 大地	大川 祐樹	奥出 知明	西山 亜希	山口 紘生
大神 理佐	春日 知子	饗場 祐一	小関 貴洋	朝生 文子	野坂 佳伸	小野田 貢	笠井 理行	田中 裕彰	
岸 真佐樹	佐野 美幸	小林 亘	繁田 知子	正野 厚子	山田 一寿	金井 祐吾	河合 理恵		
鈴木千とせ	鈴木 浩子	中出亜紀子	長沢 由佳	松本 楽	阿彦 景子	丁場 大輔	野上 弘美	静岡県立大学 平成21年	川村 之則
鈴木 幸子	立石麻由美	野沢 佳代	深澤 奈々	渡邊むつみ	伊東 宏昌	福富 理恵	山田真梨子	岩下 広志	玉井 琢磨
田中 洋己	澤村 路子	宮崎千紗都	吉岡 沙織	森 理恵	木下 英幸	渡辺 美里	橋本 直樹	後藤 和典	真鍋多美子
中島 卓也	中村 美和	山内令一郎		柿沼 稔	木ノ内直美	池上 祐樹	伊藤 誠	藤貫 貴大	伊藤 静
西成田麻紀	村岡 美幸			北村 祐樹	佐々木優紀美	上村 陸美	肝付 美保	矢野 裕也	伊藤 匠
村松 宏美	山口 英仁	梅澤 睦美	神谷 美緒	黒淵 裕司	安田 育世	倉田 知佳	小檜山 雄	稲葉 尋高	瀬嶋
山田るみ子	山本 容子	神部真理子	栗原 啓子	辻 卓也		三枝 明奈	佐藤 昭吾	ホン ニュン	
渡邊 学美		鈴木 祐喜	高橋 裕介	木村 浩晃		鈴木 美香	鈴木 裕子		
静岡県立大学 平成11年	磯谷 有里	中野 美佳	西迫真紀子	静岡県立大学 平成16年	岩崎 真代	中島 健輔	平田 豊	静岡県立大学 平成22年	奥野 泰弘
齊藤 恵美	甲斐 稚子	安野 武明	武藤 広通	江田 大和	菅江 浩子	水野 景太	佐藤 亮太	静岡県立大学 平成23年	小川 貴大
塩谷 明子	金原 朱里	飯野 弘子	伊藤由里子	重永 明恵	永吉 旭土	前畑 真知子	石橋 政人	山崎 彩香	杉本 覚
河野 和也	坂井 和友	西澤 洋一	岡崎 淳子	内藤 寛子	野口亜希子			川井 拓也	杉本 覚
近藤健太郎	杉山 恵美	勝見 隆志	内山 智美	西川 誠	松永 紘和	静岡県立大学 平成19年		中村 仁聡	藤浪友加里
白石 猛	照本真須美	川瀬 厚司	清川 典子	藤島 明美	山口はるか	穴吹 恵理	井田 智子		
鈴木 紀恵	本田 真紀	白井 由希	野々垣 篤	大友 真美	花木 巧二	伊藤 緑	猪之原まり子	静岡県立大学 平成24年	石月 瑞穂
深澤 友子	江川 洋一	脇岡 良隆	水野 朋子	劉 凱	小池 仁美	梅本 拓也	大山 直美		
村上 恵美	祭本 繁人	山村百合香	渡邊真希子	飯田 広光	角田憲太郎	四方貴美子	野田 巧	安藤 達哉	鈴木 常義
小玉 悦子	関口 正人	向島 武史		後藤真理子	藤田 真	平田明日香	藤田 悠介	鬼塚 悠子	出口 和輝
杉山 哲生	中島 英美			手塚 紀夫	森田 祐基	山本 真生	吉田優理子	曾根 稔弥	松井 卓也
棚橋 美穂	七瀬 裕子	静岡県立大学 平成14年		三原 久史	渡邊 美佳	朝比奈俊介	石坂 繁行	西川 薫	比嘉 涼子
中村 哲	望月 彩子	幾見 泰洋	桑原 敦子	吉田明日香		上田 衣織	太田あゆみ	白 美佳	
福留 万美		武田 幸恵	田崎 秀和	川上裕美子		丸山あさひ	松下小緒里		
白石 幸子		神埼 信織	松下 亜記	静岡県立大学 平成17年	大石まどか	安田 吉徳		静岡県立大学 平成25年	青山 祐也
静岡県立大学 平成12年	川瀬 亮介	山田 恭子	横井 里沙	今野 祐枝				細野 礼貴	北方 一成
加藤 麻紀	小松 正典	中村季美子	小野田敦子	大島 友美	中尾 玲奈	静岡県立大学 平成20年		池上 奈穂	新垣 航
古賀 優	高橋ゆう子	川口屋 幸	坂倉 賢一	藤原 昌子	松尾 貴子	畦地 健司	天野 祥吾	斎藤 駿	武末 祐佳
清水 寛弥	津田 英高	佐竹 啓彰	高田 美紀	見野 靖晃	安東 敬史	石川 智行	因幡 龍	高見 学	成田 佳恵
津田壮一郎	野口 和照	田中 徹郎	鶴田 智子	影山 由佳	神村 卓也	見城江利也	齋藤 美沙	中田 貴志	能代 裕也
山木さとみ	村上 正紀	見立 絢子		櫻田 直美	清水 慎也	實藤 盛朗	丹 健行	似内 雄太	浦志 将

静岡県立大学 平成26年 伊東 未来 大橋 加純 芳賀 辰臣 米田 成輝	静岡県立大学大学院 昭和63年 榛葉 繁紀 藤島 和幸	静岡県立大学大学院 平成5年 杉本 憲昭 中村 考志 岩田絵律奈 佐々木克也 横山 朋典 吉崎 浩樹	静岡県立大学大学院 平成6年 菅原 理明	静岡県立大学大学院 平成7年 烏蘭 参丹 徳留 嘉寛 愈 新民	静岡県立大学大学院 平成8年 石谷 仁志 羅 偉権 永井 葉月	静岡県立大学大学院 平成9年 東 俊一	静岡県立大学大学院 平成10年 張 東明	静岡県立大学大学院 平成11年 島 龍一郎 石下 幹也 猪股 秀樹 金 東日	静岡県立大学大学院 平成12年 森 基徳 今村 美紀 平澤 彩子 片山 進 山川 享浩 川俣 岳 鈴木佐恵子 永井 千春 増田 裕幸	静岡県立大学大学院 平成13年 氏原 憲志 大橋いくみ 岡本 拓人 小川 直紀 岸 香里 佐々木 洋	静岡県立大学大学院 平成14年 勝又 康裕 鈴木 理人 長谷川美佐 三浦 正弘 阿部 友紀 綾部 悠子 齋藤 晶洋 富野 浩充 内藤 克紀 齋藤 正典 門口 大輝 湊 聖一郎 大野 真之 山川花朱美	静岡県立大学大学院 平成15年 木谷 悟 杉山 雄司 治田有美子 竹内 良人	静岡県立大学大学院 平成16年 金 紅梅 五井 伸博 清水 基宏	静岡県立大学大学院 平成17年 小本 貴史 中谷 早希 妻 エイエイ 中川 康平 木口 聖子	静岡県立大学大学院 平成18年 池谷真佑子 田中菜穂子 黒澤 壮平 橋場 雅道	静岡県立大学大学院 平成19年 小嶋 咲紀 磯部 聖子 玉置 尺尋 蓮池 直輝 安部 剛史	静岡県立大学大学院 平成20年 丸山 佳紀 藤巻 聖子 バカール アブ 若澤 龍佳	静岡県立大学大学院 平成21年 田中 良昌 渡邊 圭一 清水 雅之 阿部 真之	静岡県立大学大学院 平成22年 新村 有貴 村松明佐美 鈴木 智子 高橋 治樹 小島裕美子 ルウシャ プラタン 原田 丈嗣	静岡県立大学大学院 平成23年 レボン クマールサハ ブンソン ワンシンタウィークル スラットサワディー ピヤピリヤ 森 文隆 小田 祐一 佐々木羽玲 吉村 健史	静岡県立大学大学院 平成24年 陳 静 孫 潔胤 三村 和樹 何 磊	静岡県立大学大学院 平成25年 杉浦 健 佐野 秀祐 佐藤 崇 仲野 慶則 吉田 友宏 安藤 靖 中村 元気 霍 璿	静岡県立大学大学院 平成26年 ジャンタナ ヤファアファイ 張 静秋 (敬称略)	静岡薬科大学大学院 昭和59年 岡本 厚	静岡県立大学大学院 平成2年 森本かおり	静岡県立大学大学院 平成3年 井上 勝仁 内田 裕久 周 玉 陳 秀瑛 野澤 良久 山下 敬	静岡県立大学大学院 平成4年 佐々木 香 曾布川能康 鈴木 貴祐	静岡薬科大学大学院 昭和60年 木村 仁美	静岡県立大学大学院 平成62年 高松 正典 日置 善雄 加藤 郁夫	静岡県立大学大学院 昭和62年 亀田 幸明	静岡県立大学大学院 平成元年 福島 春生	静岡薬科大学大学院 昭和57年 武田 充弘 野澤 靖典 牧野由加子	静岡薬科大学大学院 昭和55年 会田 守男 中村 克己	静岡薬科大学大学院 昭和49年 渡辺 芳則	静岡薬科大学大学院 昭和40年 美口 量晶	静岡県立大学大学院 昭和43年 渡辺 誉子	静岡薬科大学大学院 昭和63年 三井 直樹	静岡県立大学 平成26年 伊東 未来 大鹿 雄美 大橋 加純 中野真理子 芳賀 辰臣 原木 麻理 米田 成輝
---	--------------------------------------	---	----------------------------	---	---	---------------------------	----------------------------	---	--	---	--	---	--	--	--	---	--	--	---	---	---	---	--	----------------------------	----------------------------	---	--	-----------------------------	---	-----------------------------	----------------------------	---	--------------------------------------	-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	--

平成 27 年度会費納入のお願い

「10 年会費と終身会費のカード払い」がご利用いただけます

今回同封いたしました払込用紙は「平成 27 年度年会費」納入分です。ぜひともお忘れなく納入ください。

◎コンビニおよび Edy 加盟店での払い込みは平成 27 年 12 月 15 日まで可能です。

◎郵便局および静薬学友会ホームページからのクレジットカードでの払込は無期限で受け付けております。

会員の皆様には、学友会の活動にご理解をいただくとともに、会費および寄付金の納入について一層のご協力をお願い申し上げます。

会費の種類について

納入方法は 3 種類です。年会費か、10 年会費または終身会費のいずれかを選択してください。

1. 年会費（2,000 円／年間）
2. 10 年会費（20,000 円／10 年分前納）
3. 終身会費（50,000 円／終身として一括前納）

会費の納入について

1. 郵便局またはコンビニエンスストアから払込用紙を利用して納入する場合

コンビニエンスストアでの納入には納入期限がございます。平成 27 年 12 月 15 日までにご利用ください。

郵便局からの納入は無期限で受け付けております。

2. クレジット決済の場合

年会費、10 年会費、終身会費のカード払いが可能です。

静薬学友会ホームページの会員専用サイト「マイページ」より納入の手続きをお願い致します。

賛助会員の会費納入および寄付金について

納入方法は直接、学友会事務局までお問合せください。

1. 賛助会員（正会員以外の会員）として会費の納入にご協力をいただける方を募ります。
一口 20,000 円で 5 口を上限として納入ください。
2. 寄付金につきましても、引き続きご協力をいただけますようお願い申し上げます。

問合せ先 静岡県立大学薬学部同窓会（静薬学友会）事務局

TEL 054-265-8763 FAX 054-265-8769

Eメール shizuyak@u-shizuoka-ken.ac.jp ホームページ <http://www.shizuyaku.jp>

（事務局在室時間 午前 10 時～午後 3 時）

静薬創立100周年記念事業への 募金のお願い

拝 啓

学友会の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃より静岡県立大学薬学部に対しまして温かいご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、前回の会報（No.81号）に静薬創立100周年記念事業への募金（一口 五千円）のお願いを掲載しましたところ、多数の学友会の皆様から募金をいただきました。薬学部附属薬局設置や国際交流基金の増額などを目指した募金目標金額（二億円）を達成するために、引き続き事業募金についてのご協力をお願い致します。

敬 具

薬 学 部 長 賀川 義之

静薬学友会長 横倉 輝男

記

記念行事の開催

- | | | |
|--------------|------------------|-------------|
| 1) 記念講演会 | 平成28年7月16日(土) | 静岡県立大学大講堂 |
| 2) 記念式典 | 平成28年7月17日(日) 午前 | 静岡県立大学大講堂 |
| 3) 祝賀会・情報交換会 | 平成28年7月17日(日) 午後 | ホテルセンチュリー静岡 |

振込方法（2種類あります）

1. 減免措置を希望する個人、法人・団体等の場合

別添の「奨学寄付金申込書」に必要事項（■の箇所）をご記入・ご捺印の上、下記宛ご連絡ください。後日、入金依頼書を送付いたしますので、そちらに記載された説明に沿って振込等の手続きをお願いいたします。振込手数料についてはご本人様負担となります。なお、本学が寄付金の入金確認後にお送りする「寄付金受領証明書」を添えて所轄税務署に確定申告していただければ、税制上の優遇措置を受けることができます。

2. 減免措置を希望しない個人、法人・団体等の場合

同封の「払込取扱票」をご利用ください。振込手数料は不要です。なお、誠に勝手ながら「振替払込請求書兼受領証」を以って領収書に替えさせていただきます。

※ 1 による振込と 2 による振込は、振込先の口座が異なります。1 の「奨学寄付金申込書」をご送付いただいても、2 の「払込取扱票」により振込処理をされた場合、減免措置の対象外となってしまいますので、ご注意ください。

募金担当代表 薬学部長 賀川 義之

〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田52-1

静岡県立大学 薬学部 臨床薬剤学教室

電話およびFAX 054-264-5855

e-mail; shizuyaku100@u-shizuoka-ken.ac.jp

静薬創立100周年記念事業寄附金納付状況

奨学寄付金（薬学部同窓会会員含む）	3,860,000円（寄付額のうち6%は事務費として徴収されます）
薬学部同窓会（静薬学会友会）	4,610,000円（寄付額のうち郵便払込手数料が徴収されます）
薬学部後援会	1,350,000円（　　　　　　　　　〃　　　　　　　　　）
合　計（2015.8.31現在）	9,820,000円

（寄附者ご芳名は静薬学会友会ホームページにて順次掲載します）

薬学部附属薬局設置や国際交流基金の増額などを目指した募金目標金額（二億円）の達成のため引き続きご協力をお願い申し上げます。

募金担当代表 薬学部長 賀川 義之

〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田52-1

静岡県立大学 薬学部 臨床薬剤学教室

電話およびFAX 054-264-5855

e-mail: shizuyaku100@u-shizuoka-ken.ac.jp

四国支部総会開催のお知らせ

爽秋の候、会員の皆様方にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は
静薬学友会四国支部活動にご理解・ご協力賜り厚くお礼申し上げます。

さて、2年ぶりの支部大会を次のとおり開催いたします。

日 時：平成27年11月29日（日曜日） 午後2時～午後8時

会 場：グランドパレス徳島 徳島市寺島本町西1-60-1（JR徳島駅より徒歩3分）

会次第：①受付：午後2時00分～午後2時30分

②支部総会：午後2時30分～午後3時00分

③講 演：午後3時00分～午後4時00分

講 師：徳島文理大学教授 徳島文理大学教授 加藤善久先生

④懇親会：午後5時00分～午後8時00分

参加費：4,000円（夫婦会員の参加は2人で5,000円）

問い合わせ先：井上 泰秀（いのうえ やすひで）S59卒

〒772-0014 徳島県鳴門市撫養町弁財天字ハマ11-54

E-mail : akiyusou@kde.biglobe.ne.jp

携帯TEL：090-2822-0059

静岡県立大学薬学部同窓会（静薬学友会）事務局

TEL 054-265-8763 FAX 054-265-8769

E-mail shizuvak@u-shizuoka-ken.ac.jp

静薬学友会ホームページ <http://www.shizuyaku.jp/>

東海支部総会開催のお知らせ

下記により東海支部総会および第39 回薬剤師セミナーを開催いたします。ご多忙のことと思いますが、皆様お誘い合わせの上、ご参加くださいますようご案内申し上げます。

記

日 時 : 平成27年12月13日(日) 午後1:00～午後5:00

場 所 : ウィンクあいち(愛知県産業労働センター) 1006会議室
〒450-0002 名古屋市中村区名駅4丁目4-38 TEL 052-571-6131

1. 東海支部総会
2. 薬剤師セミナー

演 題 :

- (1) 「高齢者の生活と栄養を考える－日本人の食事摂取基準(2015年版)で変わったこと－」
前椋山女子学園大学教授 中村 好志(昭和41年卒)

- (2) 「愛知県における危険ドラッグ対策について」
愛知県医薬安全課 佐藤 克彦(昭和63年卒)

- (3) 「医薬品安全管理と薬剤師業務 ～RMPの利活用や入院持参薬の安全管理を中心に～(仮)」
特定医療法人駿甲会コミュニティーホスピタル甲賀病院 薬剤科長
渡邊 学(平成7年卒)

3. 意見交換会(懇親会)

参加及び会費 : 参加費無料、意見交換会(懇親会)参加者は¥3,000円(予定)
日本薬剤師研修センター集合研修会シール2単位認定

※東海支部会員の皆様

別紙ご案内チラシ裏面のFAX用参加申込用紙、下記Eメールまたは静薬学友会ホームページ
会員専用サイト「マイページ」にて参加のお申し込みをお願いいたします。

問い合わせ先:

〒461-0043 名古屋市東区大幸4丁目8-24 三上 栄一
TEL 052-711-0914

静岡県立大学薬学部同窓会(静薬学友会)事務局
TEL 054-265-8763 FAX 054-265-8769
事務局在室時間 午前10時～午後3時
(在室時間以外は留守番電話にて対応します)
E-mail shizuyak@u-shizuoka-ken.ac.jp
静薬学友会ホームページ <http://www.shizuyaku.jp/>

集記 編後

この度、学友会報の編集委員を仰せつかった。学部・修士・博士・教員と立場は変わったが、もう長い間、草薙の高台で過ごしてきたことになる。入学した頃の大学の写真を見ると、校舎の間にある銀杏の木がとても小さかったことに気づく。毎日見ていると変化に気づかないものであるが、昔の記録を掘り起こしてみると、やっぱり、時間の長さだけの変化がある。

本号では、「研究室の今」と題して、今現在の静岡県立大学薬学部の研究室の紹介を特集させていただいた。同窓生の方にお目にかかり、私が大学にいることを知ると、大抵の方が自分が所属していた研究室の動向についてお尋ねになる。また、昨今、研究室の名称が大幅に変わったところが多いものだから、どれが自分が所属していた研究室だったかと……。自分が学生だった頃から考えても、結構変化があるのだから、薬科大学時代に卒業された先輩方に見れば、分らなくなっているのも当然のことだと思う。というわけで、本号の特集記事となった。

来年、薬学部は前身の静岡女子薬学校から数えて、創立100周年を迎える。1916年、大正5年に静岡女子薬学校は静岡市鷹匠の地に開校している。大正5年というと、第一次世界大戦の真っただ中、明治期に既に世界有数の工業国となっていた日本は大戦景気に沸いていたようである。東海道本線は既に開業しており、その2年前の大正3年に東京駅が開業している。しかし、熱海と函南の間にある丹那トンネルはまだ貫通しておらず、現在の御殿場線が東海道本線として使用されていた。静岡県立大学谷田キャンパスの最寄り駅である草薙駅はまだ信号所としてしか存在しておらず、客扱いはしていなかったようである。

閑話休題。創立100周年の話であった。100年の歴史の中で、名前は何度かわっているが、一貫して薬学の専門家を養成し続けてきたことになる。薬剤師をはじめ、薬学部が排出する人材はとても広い範囲で活躍しているの、なかなか一堂に会することは少ない。まして、薬学の中でも違う分野の違う年代の方とお目にかかる機会など滅多にない。同窓会は自分とは違う他分野の方々とお会いできるとてもいい機会ではないだろうか。

創立100周年の祝賀会は来年、7月16日(土)・17日(日)に開催される。是非、手帳に来静の予定を書き留めておいていただきたい。

会報編集委員 伊藤由彦 (平成14年卒)

訃報

次の方が逝去されました。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

東出 福司 様 (静岡薬科大学名誉教授、薬品製造工学教室元教授)
平成二十七年四月二十二日 逝去

西川 雍子 様 (昭和三十六年卒・元理事)
平成二十七年一月十三日 逝去

内神 慶三 様 (昭和四十五年卒・旧姓 加登田)
平成二十七年五月十二日 逝去

八尾 徳正 様 (昭和五十九年卒・元関東支部役員)
平成二十七年八月八日 逝去

会報担当

委員長 黒羽子孝太 (平成8年卒 理事 薬学部 免疫微生物学分野)

武田 厚司 (昭和53年卒 理事 薬学部 統合生理解分野)

大木 明代 (昭和62年卒 理事)

南 彰 (平成12年卒 薬学部 生化学分野)

伊藤 由彦 (平成14年卒 理事 薬学部 薬物動態学分野)

横倉 輝男 (昭和40年卒 静薬学友会会長)

静薬学友会報 第82号 平成二十七年十月一日発行

〒422-8526 静岡市駿河区谷田五二一 静岡県立大学薬学部内

発行者 静岡県立大学薬学部同窓会 (静薬学友会)

振替口座 〇〇八二〇一八一一九〇二二

TEL 〇五四―二六五―八七六三

FAX 〇五四―二六五―八七六九

メールアドレス shizuyak@u-shizuoka-ken.ac.jp

ホームページアドレス http://www.shizuyaku.jp

本 部 役 員 一 覧 (27名)

2015.10.1現在

	役 職	卒業・ 修了年	氏名(旧姓)	担 当						静薬創立100周年記念 事業委員会
1	特別顧問	昭和40年	木苗 直秀							財務委員
2	会 長	昭和40年	横倉 輝男	総務	会報	生涯研修	予算	支部	教授会	財務委員
3	副 会 長	昭和44年	大石 悦子(石黒)	※総務			予算	支部	教授会	式典・シンポジウム委員
4	副 会 長	昭和51年	高橋千恵子(八木)				予算	支部	教授会	記念碑委員
5	副 会 長	昭和54年	鈴木 隆			生涯研修	予算		※教授会	記念誌委員長
6	理 事	昭和43年	植松 正吾	総務						記念誌委員
7	理 事	昭和46年	安倍 道治			生涯研修		※支部	教授会	財務委員
8	理 事	昭和46年	岩崎 年史			生涯研修		支部		広報委員
9	理 事	昭和46年	若林 敬二			※生涯研修			教授会	式典・シンポジウム委員
10	理 事	昭和49年	北川 俊朗	総務		生涯研修			教授会	記念碑委員
11	理 事	昭和51年	涌澤 伸哉					支部		財務委員
12	理 事	昭和53年	武田 厚司		会報	生涯研修		支部	教授会	財務委員
13	理 事	昭和55年	井口 和明	総務			予算			広報委員
14	理 事	昭和55年	杉井 邦好					支部		財務委員
15	理 事	昭和58年	賀川 義之			生涯研修			教授会	財務委員長・記念碑委員長
16	理 事	昭和60年	池田 雅彦				予算			記念碑委員
17	理 事	昭和62年	大木 明代(石垣)	総務	会報	生涯研修			教授会	広報委員
18	理 事	平成3年	鈴木由美子	総務 (書記)						記念碑委員
19	理 事	平成5年	内田 信也	総務						記念誌委員
20	理 事	平成7年	渡邊 学			生涯研修				式典・シンポジウム委員
21	理 事	平成8年	黒羽子孝太	総務	※会報					記念誌委員
22	理 事	平成8年	関本 征史	総務 (HP)						広報委員
23	理 事	平成11年	高橋 忠伸	総務 (名簿)			予算			記念誌委員
24	理 事	平成13年	清水 広介	総務 (書記)						式典・シンポジウム委員
25	理 事	平成14年	伊藤 由彦		会報		※予算			広報委員
26	監 事	昭和48年	大村 洋一							
27	監 事	昭和49年	大石 稔							

担当について

総務委員会…広報・会員名簿・HP担当

会報委員会…会報編集・広告掲載担当

生涯研修委員会…薬学生涯研修講座担当

予算委員会…予算委員会委員

支部対応委員会…支部活動支援担当

教授会対応委員会…薬学部教授会との懇談会委員

※は各担当委員長

静薬学友会報への広告掲載について

平素は本会の活動にあたり格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。本会では会員約7,400名を対象に広報誌『静薬学友会報』を年2回発行し、これまでに82号を数えております。学友会報は、本会の発展と会員間の親睦および相互連携を目的に、学部の現状、支部および同窓会の活動を含めた様々な情報を提供してまいりました。

現在、すでに会員の皆様から広告を掲載していただき、作成費の一部として利用させていただいております。

今後も学友会報を通じて静薬学友会の一層の発展と充実を図るべく努力する所存であります。何卒、広告掲載へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

広告掲載原稿募集要項

1. 媒体名称：静薬学友会報（3月、10月の年2回発行）

2. 掲載資格：静薬学友会員

3. 広告の種類：一般広告

4. 発行部数：約7,400部（A4版）

5. 広告掲載料：

カラー

連続掲載の場合（3月、10月の2回連続掲載）

A4版 1ページ 70,000円（縦255mm, 横178mm）

A4版 1／2ページ 35,000円（縦127mm, 横178mm）

単発掲載の場合

A4版 1ページ 80,000円（縦255mm, 横178mm）

A4版 1／2ページ 40,000円（縦127mm, 横178mm）

モノクロ

連続掲載の場合（3月、10月の2回連続掲載）

A4版 1ページ 50,000円（縦255mm, 横178mm）

A4版 1／2ページ 25,000円（縦127mm, 横178mm）

単発掲載の場合

A4版 1ページ 60,000円（縦255mm, 横178mm）

A4版 1／2ページ 30,000円（縦127mm, 横178mm）

6. 広告原稿の形態：ファイル、または紙焼き（校正は行いませんのでご了承ください）

7. 広告掲載申込先：〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1

静岡県立大学薬学部内 静岡県立大学薬学部同窓会（静薬学友会）

代表者 会長 横倉 輝男

電話 054-265-8763 FAX 054-265-8769（在室10：00～15：00）

8. 広告料振込先：銀行口座：静岡銀行 草薙支店 普通預金0277279

郵便振替：00820-8-19012 名義：静薬学友会

静岡県立大学薬学部同窓会事務局宛

(FAX054-265-8769)

平成 27 年度薬学生涯研修講座

参加申込FAX

日時:平成28年2月21日(日) 13:30~16:30

会場:静岡労政会館 6 階 大ホール

主催:静岡県立大学薬学部同窓会・静岡県立大学薬学部

※日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師制度1単位認定

1.参加者氏名

卒業年度:

連絡先ご住所

電話番号:

2.参加者氏名

卒業年度:

連絡先ご住所

電話番号:

通信欄

○講座への参加申し込みは、平成 28 年 1 月 21 日(木)までをお願いいたします。

○卒業生以外の参加も受け付けますので職場の方もお誘い合わせてご参加ください。

○本用紙に 2 名までご記入いただけますが、参加者2名を超える場合は通信欄にご記入ください。

○講座参加費については、当日集めさせていただきます。(参加費:500 円)

問い合わせ先／ 平成27年度薬学生涯研修講座運営委員会
静岡県立大学薬学部同窓会事務局

TEL: (054)265-8763 FAX: (054)265-8769

Eメール: shizuyak@u-shizuoka-ken.ac.jp

ホームページ: <http://www.shizuyaku.jp/>

静薬創立 100周年

静岡県立大学薬学部は、1916(大正5)年に創設された静岡女子薬学校に始まり、
静岡女子薬学専門学校、静岡薬学専門学校、静岡薬科大学と校名を変え
現在の静岡県立大学薬学部となり2016年で創立100年を迎えます。



静薬100周年記念行事

記念講演会
シンポジウム

平成28年

7月16日 土

会場

静岡県立大学大講堂

記念式典
祝賀会

平成28年

7月17日 日

会場

ホテルセンチュリー静岡

一般の方々のご参加も歓迎致しますのでお問い合わせでご参加ください。



静岡県公立大学法人

静岡県立大学

〒422-8526
静岡県静岡市
駿河区谷田52-1

連絡先

<http://w3pharm.u-shizuoka-ken.ac.jp/alumni/>



平成27年度薬学生涯研修講座

医療制度改革と薬剤師のあり方を考える

主 催／静岡県立大学薬学部同窓会（静薬学友会）・静岡県立大学薬学部

日 時／平成28年2月21日(日) 13:30～16:30

会 場／静岡労政会館6階 大ホール 〒420-0851 静岡市葵区黒金町5-1 TEL 054-221-6280

参加費／500円（卒業生以外の参加も受け付けます）

医療介護サービス体制の改革である「地域包括ケアシステム」構築では、「健康情報拠点薬局」の整備をはじめ、今後の薬局のあり方や薬局・病院薬剤師のあり方・職能発揮に新たな期待が寄せられています。

平成28年度診療報酬・調剤報酬改定の概要と改定に込められた、薬局・病院薬剤師への評価と期待あり方を、日本薬剤師会常務理事、日本病院薬剤師会常務理事・医療政策部長としてご活躍中の川上純一先生の基調講演から学び、様々な職域の薬剤師で医療制度改革と薬剤師のあり方を討論し「静薬創立100周年」を迎える静岡から、薬剤師の今後のあり方を提言する機会とします。

プログラム

- 13:00 受付開始
- 13:30 開会挨拶 静岡県立大学薬学部同窓会 会長 横倉 輝男
静岡県立大学薬学部長 賀川 義之
- 13:40 新薬紹介
- 14:10 基調講演 浜松医科大学附属病院薬剤部教授・薬剤部長
静岡県立大学客員教授 川上 純一先生
演題：「医療制度改革と薬局・薬剤師のあり方
～平成28年度診療報酬・調剤報酬改定を見据えて～（仮）」
- 15:10 休憩15分
- 15:25 パネルディスカッション「医療制度改革と薬剤師のあり方を考える」
司 会 進 行；若林 敬二（静岡県立大学食品環境研究センター特任教授）
コメンテーター；川上 純一（浜松医科大学附属病院薬剤部教授・薬剤部長）
パネ リ ス ト；杉井 邦好（静岡県健康福祉部生活衛生局薬事課課長）
安倍 道治（中外製薬顧問）
高橋千恵子（わかくさ薬局代表取締役）
原田 晴司（静岡市立清水病院薬剤部長）
賀川 義之（静岡県立大学薬学部教授・薬学部長）
- 16:25 閉会挨拶 薬学生涯研修講座運営委員長 若林 敬二
- 16:30 終了

※日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師制度1単位

後援： 静岡県薬剤師会（予定）、静岡県病院薬剤師会（予定）

問い合わせ・お申し込み／平成27年度薬学生涯研修講座運営委員会

〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1 静岡県立大学薬学部同窓会

・TEL：(054) 265-8763 ・FAX：(054) 265-8769

・メール：shizuyak@u-shizuoka-ken.ac.jp ・ホームページ：http://www.shizuyaku.jp

・申込期限：平成28年1月21日(木)

※p72の平成27年度薬学生涯研修講座FAX用参加申込用紙をご利用ください